

# ADOBE® COLDFUSION® 9 インストール

© 2009 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

Adobe® ColdFusion® 9 インストール

This user guide is protected under copyright law, furnished for informational use only, is subject to change without notice, and should not be construed as a commitment by Adobe Systems Incorporated. Adobe Systems Incorporated assumes no responsibility or liability for any errors or inaccuracies that may appear in the informational content contained in this guide.

This user guide is licensed for use under the terms Creative Commons Attribution Non-Commercial 3.0 License. This License allows users to copy, distribute, and transmit the user guide for noncommercial purposes only so long as (1) proper attribution to Adobe is given as the owner of the user guide; and (2) any reuse or distribution of the user guide contains a notice that use of the user guide is governed by these terms. The best way to provide notice is to include the following link. To view a copy of this license, visit <http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/>

Adobe, the Adobe logo, ColdFusion, and Flash are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries.

ActiveX, Microsoft, and Windows are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries. IBM and AIX are trademarks of International Business Machines Corporation in the United States, other countries, or both. Java, Solaris, and Sun are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the United States and other countries. Macintosh and Mac OS are trademarks of Apple Inc., registered in the United States and other countries. Red Hat is a trademark or registered trademark of Red Hat, Inc. in the United States and other countries. SUSE is a trademark of Novell, Inc. UNIX is a registered trademark of The Open Group in the US and other countries. Linux is the registered trademark of Linus Torvalds in the U.S. and other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)

This product contains either BSAFE and/or TIPEM software by RSA Data Security, Inc.

Portions include technology used under license from Autonomy, and are copyrighted.

Verity and TOPIC are registered trademarks of Autonomy.

This product includes software developed by the OpenSymphony Group (<http://www.opensymphony.com/>).

Adobe Systems Incorporated, 345 Park Avenue, San Jose, California 95110, USA.

Notice to U.S. Government End Users. The Software and Documentation are "Commercial Items," as that term is defined at 48 C.F.R. §2.101, consisting of "Commercial Computer Software" and "Commercial Computer Software Documentation," as such terms are used in 48 C.F.R. §12.212 or 48 C.F.R. §227.7202, as applicable. Consistent with 48 C.F.R. §12.212 or 48 C.F.R. §§227.7202-1 through 227.7202-4, as applicable, the Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation are being licensed to U.S. Government end users (a) only as Commercial Items and (b) with only those rights as are granted to all other end users pursuant to the terms and conditions herein. Unpublished-rights reserved under the copyright laws of the United States. Adobe Systems Incorporated, 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704, USA. For U.S. Government End Users, Adobe agrees to comply with all applicable equal opportunity laws including, if appropriate, the provisions of Executive Order 11246, as amended, Section 402 of the Vietnam Era Veterans Readjustment Assistance Act of 1974 (38 USC 4212), and Section 503 of the Rehabilitation Act of 1973, as amended, and the regulations at 41 CFR Parts 60-1 through 60-60, 60-250, and 60-741. The affirmative action clause and regulations contained in the preceding sentence shall be incorporated by reference.

# 目次

## 第 1 章：ColdFusion をインストールする準備

ColdFusion のインストールについて .....	1
ColdFusion 9 製品の各エディション .....	1
必要なシステム条件 .....	2
インストールの注意事項 .....	2

## 第 2 章：サーバー設定のインストール

サーバー設定のインストールに必要な情報の収集 .....	4
サーバー設定による ColdFusion のインストール .....	5
ColdFusion サーバー設定のディレクトリ構造 .....	7
ビルトイン Web サーバーの使用 .....	8
他の Web サーバーからの切り替え .....	9
旧バージョンからの更新 .....	10
ColdFusion のアンインストール .....	10

## 第 3 章：マルチサーバー設定のインストール

マルチサーバー設定のインストールに必要な情報の収集 .....	11
マルチサーバー設定について .....	12
マルチサーバー設定による ColdFusion のインストール .....	12
設定 .....	15
旧バージョンからの更新 .....	16
ColdFusion のアンインストール .....	16

## 第 4 章：J2EE 設定のインストール

J2EE 設定のインストールに必要な情報の収集 .....	17
ColdFusion と J2EE アプリケーションサーバー .....	18
J2EE 設定を使用してインストールする準備 .....	20
EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール .....	20
以前のバージョンの J2EE 設定からの更新 .....	25
ColdFusion J2EE のデプロイと設定 .....	26
ColdFusion のアンデプロイ .....	47

## 第 5 章：統合テクノロジーのインストール

Adobe およびサードパーティの統合テクノロジー .....	49
Dreamweaver 拡張機能のインストール .....	49
Report Builder のインストール .....	49
Verity 検索サーバーのインストール .....	50
Solr 検索サーバーのインストール .....	50
Flash Remoting の有効化 .....	51

Flash Remoting Update のインストール .....	52
LiveCycle Data Services の手動インストール .....	52
ColdFusion .NET Integration Services のインストール .....	54
Eclipse 用 ColdFusion 拡張機能のインストール .....	56
OpenOffice の設定 .....	57
<b>第 6 章：システムの設定</b>	
設定タスクの概要 .....	59
Windows での ColdFusion サービスの管理 .....	59
UNIX での ColdFusion プロセスの管理 .....	60
Mac OS X での ColdFusion プロセスの管理 .....	61
Web サーバーの設定 .....	62
CORBA サポートの有効化 .....	68
Remote Development Services の無効化 .....	70
JSP 機能の無効化 (サーバー設定のみ) .....	71
Windows での ColdFusion ユーザーアカウントの変更 .....	72
<b>第 7 章：トラブルシューティング</b>	
一般的なインストール問題 .....	73
データソースに関する問題 .....	76
移行に関する問題 .....	77
J2EE 設定に関する問題 .....	77
インストール後に発生する問題 .....	78
アンインストールに関する問題 .....	79

# 第 1 章：ColdFusion をインストールする準備

Adobe ColdFusion 9 をインストールする前に、ColdFusion 製品の各エディションや必要なシステム条件などの注意事項を確認してください。

## ColdFusion のインストールについて

ColdFusion には、強力で柔軟なインストールとアップグレードの手順が用意されています。ColdFusion インストール手順には次の段階があります。

- 1 インストール、設定、アップグレードのオプションを決定して、インストールを計画します。
- 2 ColdFusion インストーラを実行します。
- 3 (J2EE 設定のみ) J2EE アプリケーションサーバーに ColdFusion をデプロイして設定を行います。

ColdFusion インストールプロセスには、次の種類があります。

**新規インストール** ColdFusion がインストールされていないコンピュータに ColdFusion をインストールします。

**アップグレードインストール** ここでは、ColdFusion MX 7 および ColdFusion 8 からのアップグレード方法について説明します。アップグレードを選択した場合、インストーラは既存の設定を保持して、新しいディレクトリにインストールを行い、既存のインストールと競合しないポートを自動的に割り当てます。

次のいずれかの設定で ColdFusion 9 をインストールすることができます。

**サーバー設定** 組み込み JEE サーバーとともに ColdFusion 9 のインスタンスを 1 つインストールできます。これは ColdFusion 8 のベースリリースおよび ColdFusion 7 に最も近い設定です。以前は、この設定のことをスタンドアロン設定と呼んでいました。サーバー設定のインストールの詳細については、4 ページの「[サーバー設定のインストール](#)」を参照してください。

**マルチサーバー設定 (エンタープライズ版のみ)** Adobe の Macromedia® JRun™ をインストールし、ColdFusion 9 を別個の JRun サーバースタンスへ自動的にデプロイします。この設定は、サーバースタンス作成と ColdFusion Administrator 内の ColdFusion のデプロイをサポートします。ユーザーは複数の JRun サーバー上の ColdFusion 9 デプロイを管理できます。マルチサーバー設定のインストールの詳細については、11 ページの「[マルチサーバー設定のインストール](#)」を参照してください。

**J2EE 設定 (エンタープライズ版のみ)** 製品にバンドルされている JRun ライセンス、またはサードパーティの J2EE サーバー (IBM WebSphere や BEA WebLogic など) を使って、J2EE (Java 2 Enterprise Edition) アプリケーションサーバー上で実行される Java アプリケーションとして ColdFusion 9 をデプロイできます。J2EE 設定を使用する場合、1 台のコンピュータに ColdFusion 9 を何回でもデプロイすることができます。J2EE 設定のインストールの詳細については、17 ページの「[J2EE 設定のインストール](#)」を参照してください。

## ColdFusion 9 製品の各エディション

ColdFusion 9 製品の各エディションは、Adobe Web サイトから入手できます。製品の各エディションの詳細については、[www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_cfeditions\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_cfeditions_jp) を参照してください。

## 必要なシステム条件

ColdFusion 9 で必要なシステム条件は、Adobe Web サイトでご確認いただけます。必要なシステム条件とサポートされている J2EE アプリケーションサーバーについては、[www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_cfsysreqs\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp) を参照してください。

## インストールの注意事項

ColdFusion 9 をインストールする前に、インストールまたはアップグレードに関連するプラットフォームごとの注意事項を確認してください。

**注意：** ColdFusion での CORBA 接続に VisiBroker を使用するには、68 ページの「[CORBA サポートの有効化](#)」を参照してください。

## すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項

次は、すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項です。

- ColdFusion 9 は、ColdFusion 8、ColdFusion MX 7、および ColdFusion MX 6.1 との共存インストールがサポートされています。
- ベータ版の ColdFusion 9 がインストールされている場合は、このバージョンをインストールする前にベータ版をアンインストールしてください。
- Adobe は、ビルトインの Web サーバー（ポートベースの内部サーバー）を開発環境でを使用することをお勧めしますが、本番環境で使用することはお勧めしません。
- ColdFusion MX 6.1 などの以前のバージョンと ColdFusion 9 を共存させることは可能ですが、ColdFusion 9 を以前のバージョンのインストールディレクトリにインストールすることはできません。

ColdFusion 9 のインストール後に、62 ページの「[Web サーバーの設定](#)」で説明されているプラットフォームと Web サーバーに関する記述に従い、ColdFusion 9 が使用する Web サーバーを切り替えることができます。

- ビルトイン Web サーバーを選択してサーバー設定をインストールした場合、Web ルートディレクトリはデフォルトで "C:\ColdFusion9\wwwroot" (Windows の場合) または "/opt/coldfusion9/wwwroot" (UNIX の場合) になります。この Web サーバーはポート 8500 で動作します。ページを表示するには、ホスト名または IP アドレスの末尾に 8500 を追加します。たとえば、「<http://localhost:8500/MyApp.cfm>」のように入力します。それでもページが表示されない場合は、ドキュメントが ColdFusion 9 の Web ルートディレクトリ（例：C:\ColdFusion9\wwwroot\MyApp.cfm）に格納されていることを確認します。詳細については、8 ページの「[ビルトイン Web サーバーの使用](#)」を参照してください。
- ColdFusion 9 は Java に組み込まれます。デフォルトでは、ColdFusion は JDK 1.6 にインストールされて動作します。JRE 1.6 で動作していない J2EE サーバーに ColdFusion 9 をインストールする場合は、lib ディレクトリ内の tools.jar ファイルを、該当する JRE の tools.jar ファイルに置き換えてください。
- 本番環境を最適化するには、個々の ColdFusion アプリケーションを専用サーバー上に置きます。つまり、データベース、メール、その他のサーバーを同一コンピュータ上に置かないようにします。
- Verity コレクションを正しく移行するには、ColdFusion 9 をインストールする前に、ColdFusion MX 7 Verity をシャットダウンする必要があります。

## Windows でのインストールの注意事項

Windows システムのみに適用するインストールの注意事項を次に示します。

- ColdFusion を実行するサーバーを、PDC (Primary Domain Controller) または BDC (Backup Domain Controller) として設定しないでください。Adobe は、第 1 レベルを PDC または BDC とする Microsoft ネットワークモデルに従っ

ています。これらのシステムは、ネットワークとドメインの管理を行うものであり、アプリケーションサーバーを実行するための設計になっていません。ColdFusion は第 2 レベルの Microsoft Windows スタンドアロンシステムに配置する必要があります。スタンドアロンサーバーはネットワークまたはドメインに加えることができます。

- Microsoft Windows XP では、着信 TCP/IP 接続が一度に 10 件しか処理されません。このため、このオペレーティングシステムを本番環境で使用することはお勧めしません。代わりに Microsoft Windows 2003 Server を使用してください。

## UNIX でのインストールの注意事項

UNIX システムのみに適用するインストールの注意事項を次に示します。

- UNIX で ColdFusion インストーラを使用してインストールまたはアップグレード作業を実行すると、トラブルシューティング用に <ColdFusion のインストールディレクトリ>/Adobe\_ColdFusion\_9\_InstallLog.log というログファイルが作成されます。インストール作業に関するサポートを Adobe 技術サポートから受けるには、このファイルを Adobe 技術サポートに送付します。
- J2EE 設定を Linux および Solaris 以外のプラットフォームにデプロイする場合は、ColdFusion\_9\_WWE\_java.jar を使用してください。この Java 専用インストーラには、プラットフォーム固有のバイナリファイルが必要とする機能 (Verity や C++ CFX サポートなど) が含まれていません。

## 第 2 章：サーバー設定のインストール

ColdFusion サーバー設定には Adobe が提供する Macromedia JRun のコピーが含まれているので、以前のバージョンの ColdFusion に最も近い構成になります。

**注意：**<ColdFusion のインストールディレクトリ> とは、ColdFusion がインストールされているディレクトリのことを指します。デフォルトでは、このディレクトリは C:\ColdFusion9 (Windows の場合) または /opt/coldfusion9 (UNIX の場合) になります。

### サーバー設定のインストールに必要な情報の収集

ColdFusion 9 インストーラには、直感的に操作できるインターフェイスが用意されていますが、インストール時に回答を求められる次の情報はあらかじめ準備しておくことをお勧めします。次の表を使用すると、ColdFusion 9 のサーバー設定のインストールを計画するときに役立ちます。

質問	回答
プラットフォーム固有のインストーラの名前は何か？	_____
ColdFusion のシリアル番号は何番ですか？	_____
インストールするタイプはどれですか？	<input checked="" type="checkbox"/> X_ サーバー設定 <input type="checkbox"/> マルチサーバー設定 <input type="checkbox"/> J2EE 設定
どのサブコンポーネントをインストールしますか？	<input type="checkbox"/> ColdFusion 9 ODBC Services <input type="checkbox"/> ColdFusion 9 Search Services <input type="checkbox"/> .NET Integration Services <input type="checkbox"/> ColdFusion 9 マニュアル <input type="checkbox"/> LiveCycle Data Services ES
ColdFusion のインストールディレクトリはどこですか？	_____
Adobe LiveCycle Data Services Enterprise Suite (ES) のシリアル番号は何番ですか？(LiveCycle Data Services ES のエンタープライズ版をインストールする場合のみ)  シリアル番号を入力しない場合は、Express 版がインストールされます。エンタープライズ版にアップグレードする方法については、ColdFusion のインストール完了後に LiveCycle Data Services ES のマニュアルを参照してください。	_____
Web サーバーを設定しますか、あるいはビルトイン Web サーバーを使用しますか？	<input type="checkbox"/> ColdFusion 用に Web サーバーを設定する <input type="checkbox"/> ColdFusion のビルトイン Web サーバーを有効にする
設定する Web サーバーの種類はどれですか？(ビルトイン Web サーバーを使用しない場合のみ)	<input type="checkbox"/> IIS <input type="checkbox"/> Apache <input type="checkbox"/> SunONE <input type="checkbox"/> その他



質問	回答
設定ディレクトリはどこですか?(Apache および SunONE)	_____
サーバーバイナリの場所はどこですか?(Apache)	_____
ColdFusion Administrator のパスワードは何ですか?	_____
RDS を有効にしますか?	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ  メモ: RDS を使用すると、サーバーは、リモートで接続している開発者と対話的にやり取りすることができます。本番サーバーでは RDS を無効にしておくことをお勧めします。  RDS を無効にすると、ColdFusion Administrator でディレクトリをブラウズするためのアプレットも無効になります。
RDS パスワードは何ですか?	_____

## サーバー設定による ColdFusion のインストール

4 ページの「サーバー設定のインストールに必要な情報の収集」の質問に対する回答を用意したら、Windows または UNIX に ColdFusion サーバー設定をインストールします。

### Windows への ColdFusion サーバー設定のインストール

**注意:** Windows インストーラを実行するには、コンピュータが 256 色以上の表示をサポートしている必要があります。

#### Windows に ColdFusion をインストールするには

- 1 オンラインバージョンのリリースノート参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。詳細については、[www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_releasenote\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp) を参照してください。
- 2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト [www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_cfsysreqs\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp) に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。
- 3 2 ページの「Windows でのインストールの注意事項」と 2 ページの「すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項」を確認します。
- 4 4 ページの「サーバー設定のインストールに必要な情報の収集」の質問に対する回答を用意します。
- 5 コンピュータで現在実行中のアプリケーションをすべて閉じます。
- 6 外部 Web サーバーを設定する予定の場合は、Web サーバーが起動されていることを確認します。
- 7 DVD を挿入するか、Adobe Web サイトからセットアップファイルをダウンロードします。
- 8 DVD を挿入してもインストールウィザードが自動的に起動しない場合は、DVD 上の "setup.exe" ファイルを探してダブルクリックします。ネットワーク共有またはダウンロードしたファイルを使用してインストールする場合は、ColdFusion インストーラの実行可能ファイル (ColdFusion\_9\_WWE\_win.exe または ColdFusion\_9\_WWE\_win64.exe) を探してダブルクリックします。
- 9 インストールウィザードの指示に従ってインストール作業を完了します。
- 10 [OK] をクリックして ColdFusion Administrator を開き、サーバーを設定します。
- 11 Adobe またはサードパーティの統合テクノロジーを追加でインストールするには、49 ページの「統合テクノロジーのインストール」を参照してください。

12 59 ページの「[システムの設定](#)」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

13 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [ 情報源 ] ページで [ マニュアル ] リンクをクリックします。

## UNIX への ColdFusion サーバー設定のインストール

デフォルトでは、ColdFusion は /opt/coldfusion9 ディレクトリにインストールされます。別のディレクトリにインストールするには、インストールを実行する前にそのディレクトリを作成しておきます。

**注意:** デフォルトでは、UNIX インストーラは nobody というユーザーアカウントを使用して ColdFusion を実行します。

### UNIX に ColdFusion サーバー設定をインストールするには

- 1 オンラインバージョンのリリースノートを参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。詳細については、[www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_releasenote\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp) を参照してください。
- 2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト [www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_cfsysreqs\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp) に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。
- 3 3 ページの「[UNIX でのインストールの注意事項](#)」と 2 ページの「[すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項](#)」を確認します。
- 4 4 ページの「[サーバー設定のインストールに必要な情報の収集](#)」の質問に対する回答を用意します。
- 5 外部 Web サーバーを設定する予定の場合は、Web サーバーが起動されていることを確認します。
- 6 root としてログインします。
- 7 プラットフォームとロケールに適したインストールファイルを DVD または Adobe Web サイトからコピーし、ローカルディスクのディレクトリに保存します。

サポートされているサーバー設定プラットフォーム用のインストールファイルは次のとおりです。

プラットフォーム	ファイル
Linux	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ColdFusion_9_WWE_linux.bin (32 ビットシステム用)</li> <li>• ColdFusion_9_WWE_linux64.bin (64 ビットシステム用)</li> </ul>
Solaris	ColdFusion_9_WWE_solaris64.bin

- 8 cd コマンドを使用して、インストールファイルが保存されているディレクトリに移動します。
- 9 インストールファイルを実行するためのアクセス許可が与えられていることを確認します。ファイルのアクセス許可を変更するには、次のコマンドを使用します。

```
chmod 777 ColdFusion_9_WWE_solaris64.bin
```

- 10 次のコマンドを使用してインストール作業を開始します。

```
./<filename>
```

**注意:** UNIX インストーラを GUI モードで実行するには、「./<ファイル名> -i gui」と入力します。

- 11 インストールプログラムの指示に従いインストール作業を完了させます。

**注意:** セキュリティ上の理由から、実行時のユーザーには root を使用しないでください。

- 12 次のコマンドを入力して ColdFusion を起動します。

```
/cf_root/bin/coldfusion start
```

インストーラを実行したときに外部 Web サーバーを使用するように指定した場合は、ColdFusion を初めて起動すると、"<ColdFusion のルートディレクトリ >/bin/cfmx-connectors.sh" スクリプトが自動的に実行されます。このシェルスクリプトは、インストール時に指定された設定を使用して Web サーバー設定ツールを実行します。このスクリプトの実行中に問題が発生した場合は、設定ディレクトリと bin ディレクトリの指定を確認し、必要に応じて修正してから、スクリプトを再実行してください。また、"<ColdFusion のルートディレクトリ >/bin/connectors" にあるスクリプトを使用して Web サーバーを設定することもできます。

ColdFusion を停止するには、次のコマンドを使用します。

```
/cf_root/bin/coldfusion stop
```

プロセスを管理する方法の詳細については、60 ページの「UNIX での ColdFusion プロセスの管理」を参照してください。

**13** ColdFusion Administrator を開いて、設定ウィザードを実行します。

**14** 59 ページの「システムの設定」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

**15** Adobe またはサードパーティの統合テクノロジーを追加でインストールするには、49 ページの「統合テクノロジーのインストール」を参照してください。

**16** ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [ 情報源 ] ページで [ マニュアル ] リンクをクリックします。

## ColdFusion サーバー設定のディレクトリ構造

次の表では、ColdFusion のサーバー設定をインストールした場合に <ColdFusion のインストールディレクトリ > 内に作成されるディレクトリについて説明します。

ディレクトリ	説明
bin	ColdFusion の起動、停止、情報表示を行うためのプログラムと、Crystal Reports (Windows のみ) を実行するためのプログラム
cache	ColdFusion のテンポラリファイル用のレポジトリ
cfx	C++ および Java で作成された CFX ファイルのサンプルと、それらに必要なファイル。CFX ファイルはクラスパスで定義された場所に保存できますが、このディレクトリに保存することもできます。
charting	ColdFusion のグラフ作成およびチャート作成エンジンで 사용되는ファイル
CustomTags	カスタムタグ用のレポジトリ
db	すべてのプラットフォームに共通する Apache Derby データベースのサンプル
gateway	ColdFusion イベントゲートウェイ用のファイル
jintegra	JIntegra プログラム、ライブラリ、およびその他のサポートファイル (たとえば、Java と COM コードを統合したり、GUI コンテナに含まれる ActiveX コントロール (OCX) へのアクセスを管理したり、JVM やタイプライブラリを登録するためのファイルなど)。
jnbridge	.NET Integration Services に関連するファイル
lib	JAR ファイル、XML ファイル、プロパティファイル、および ColdFusion の基盤となるその他のファイル (クエリー、グラフ作成、メール、セキュリティ、Verity 検索、Solr 検索、システムプローブなどの機能)。
logs	ColdFusion ログファイル用のレポジトリ JRE 固有のログファイルは runtime/logs ディレクトリに保存されます。
Mail	スプールされたメールや配送できないメール用のレポジトリ

ディレクトリ	説明
META-INF	ColdFusion Administrator の XML メタデータ
registry	(UNIX のみ) レジストリ設定を保存するためのフラットファイル
runtime	ColdFusion 実行時プログラムとそのサポートファイル。 Windows では、付属の JRE のファイルは runtime¥jre に保存されています。
runtime/jre	ColdFusion に同梱されている JRE (Java Runtime Environment) 用のファイル
uninstall	ColdFusion のアンインストール用のファイル
verity	Verity コレクション、設定、サービスディレクトリ
solr	Solr 設定および Jetty
wwwroot	ビルトイン Web サーバーのデフォルトの Web ルートディレクトリ。他の Web サーバーを使用している場合、このディレクトリには WEB-INF ディレクトリのみが含まれます。このディレクトリは絶対に削除しないでください。

## ビルトイン Web サーバーの使用

ColdFusion には、固有の Web サーバーが用意されています。この Web サーバーを使用すると、IIS (Internet Information Server)、Apache、Sun Java System Web Server などの外部 Web サーバーを使用しなくても ColdFusion アプリケーションを開発できます。本番環境でビルトイン Web サーバーを使用することはお勧めしません。ただし、仮想ディレクトリを作成したり、デフォルトのドキュメント (default.cfm や index.cfm など) を設定することができるので、このサーバーは開発の目的には適しています。

ColdFusion のインストール時には Web サーバーを選択します。ビルトイン Web サーバーを選択すると、Web ルートディレクトリが <ColdFusion のインストールディレクトリ>¥wwwroot ディレクトリに設定されます。デフォルトでは、Web サーバーはポート 8500 で実行されます。したがって、アプリケーション内でページを表示するには、http://localhost:8500/YourApp1/index.cfm のように、URL のホスト名または IP アドレスの後に :8500 を追加します。(この方法でページが表示されない場合は、ビルトイン Web サーバーの Web ルートディレクトリに C¥ColdFusion9¥wwwroot¥YourApp1¥index.cfm などのドキュメントが存在することを確認してください)。

**注意：**ビルトインサーバーを含む ColdFusion サーバー設定をインストールした場合に、ポート 8500 が ColdFusion MX、ColdFusion MX 6.1、ColdFusion MX 7 などの他のアプリケーションによって使用されている場合は、インストーラにより 8501 番以降のポートが最大 100 個まで検出され、実行中のアプリケーションによって使用されていないポートが検出されます。ColdFusion は検出されたポートを使用し、どのポートが選択されたかユーザーに通知します。

外部 Web サーバーを選択した場合、ビルトイン Web サーバーは無効になります。

## ビルトイン Web サーバーのポートの切り替え

ビルトイン Web サーバーで使用するポートは変更できます。

### ビルトイン Web サーバーのポートを変更するには

- 1 "jrun.xml" ファイルのバックアップを作成します。

このファイルは Windows では <ColdFusion のインストールディレクトリ>¥runtime¥servers¥coldfusion¥SERVER-INF ディレクトリに、UNIX では <ColdFusion のインストールディレクトリ>/runtime/servers/coldfusion/SERVER-INF ディレクトリにあります。

- 2 オリジナルの "jrun.xml" ファイルをテキストエディタで開きます。

- 3 ファイルの下部近くにある WebService の port 属性で指定されているポート番号を変更します。

```
<service class="jrun.servlet.http.WebService" name="WebService">
  <attribute name="port">8500</attribute>
  <attribute name="interface">*</attribute>
  <attribute name="deactivated">>false</attribute>
  ...
</service>
```

**注意:** deactivated 属性が false であることを確認します。

- 4 ファイルを保存し、ColdFusion を再起動します。

## 他の Web サーバーからの切り替え

インストール時にビルトイン ColdFusion Web サーバーを選択しなかった場合でも、再インストールすることなく、外部 Web サーバーをビルトイン Web サーバーに切り替えることができます。

### 外部 Web サーバーからビルトイン Web サーバーに切り替えるには

- 1 "jrun.xml" ファイルのバックアップを作成します。

このファイルは Windows では <ColdFusion のインストールディレクトリ>%runtime%¥servers¥default¥SERVER-INF ディレクトリに、UNIX では <ColdFusion のインストールディレクトリ>/runtime/servers/default/SERVER-INF ディレクトリにあります。

- 2 オリジナルの "jrun.xml" ファイルをテキストエディタで開きます。
- 3 WebService サービスの deactivated 属性を、次のように false に設定します。

```
<service class="jrun.servlet.http.WebService" name="WebService">
  <attribute name="port">8500</attribute>
  <attribute name="interface">*</attribute>
  <attribute name="deactivated">>false</attribute>
  ...
</service>
```

- 4 ProxyService サービスの deactivated 属性を、次のように true に設定します。

```
<service class="jrun.servlet.jrpp.JRunProxyService" name="ProxyService">
  <attribute name="activeHandlerThreads">8</attribute>
  <attribute name="minHandlerThreads">1</attribute>
  <attribute name="maxHandlerThreads">1000</attribute>
  <attribute name="mapCheck">0</attribute>
  <attribute name="threadWaitTimeout">20</attribute>
  <attribute name="backlog">500</attribute>
  <attribute name="deactivated">>true</attribute>
  ...
</service>
```

- 5 ファイルを保存します。
- 6 Web ルートディレクトリ内の CFM ページ ( および CFIDE ディレクトリと cfdocs ディレクトリ ) を、<ColdFusion のインストールディレクトリ>%wwwroot ディレクトリにコピーし、適切な URL 参照 (<http://localhost:8500/YourApp1/index.cfm> など) を使用します。ビルトイン Web サーバーから外部 Web サーバーに切り替えるには、<ColdFusion のインストールディレクトリ>%wwwroot ディレクトリの内容を Web サーバーのルートにコピーします。Adobe Dreamweaver を使用している場合、サイトを別のサーバーに移動したときは、必ずそれらのサイトの再設定を行ってください。
- 7 ColdFusion を再起動します。

他の Web サーバーに切り替えるには、62 ページの「[Web サーバーの設定](#)」を参照して、各プラットフォーム上の Web サーバーに関する指示に従ってください。

## 旧バージョンからの更新

移行手順を省略した場合や、移行する必要がある旧バージョンのインストールに変更を加えている場合は、次の手順に従ってください。

- 1 サーバーを停止します。
- 2 <ColdFusion Web アプリケーションの新しいインストールルートディレクトリ >/WEB-INF/cfusion/lib ディレクトリ内に "cfXsettings" というディレクトリを作成し (X の部分は以前の ColdFusion のバージョン番号)、旧バージョンのインストール環境の <ColdFusion Web アプリケーションのルート >/WEB-INF/cfusion/lib/neo-\*.xml ファイルをこのディレクトリにコピーすることによって設定を保存します。
- 3 ColdFusion 9 の cfusion/lib/adminconfig.xml ファイルを開き、runmigrationwizard スイッチと migratecfX スイッチ (X の部分は以前の ColdFusion のバージョン番号) の値を true に設定します。
- 4 ColdFusion 9 アプリケーションを再起動します。
- 5 ColdFusion Administrator を表示して、移行ウィザードを実行します。

## ColdFusion のアンインストール

ColdFusion をアンインストールすると、ColdFusion のプログラムファイルと関連するコンポーネントがコンピュータからすべて削除されます。

### Windows から ColdFusion をアンインストールするには

- 1 [ スタート ]-[ 設定 ]-[ コントロールパネル ]-[ プログラムの追加と削除 ]-[Adobe ColdFusion 9] を選択します。
- 2 [ 変更 / 削除 ] をクリックします。
- 3 アンインストールが完了したら、<ColdFusion のインストールディレクトリ > から自動的に削除されなかったファイルをすべて削除します。
- 4 アンインストールプログラムによって、コンピュータの再起動を要求される場合もあります。  
ColdFusion がサーバーから削除されます。

### UNIX から ColdFusion をアンインストールするには

- 1 root としてログインします。
- 2 次のコマンドを入力して、<ColdFusion のルートディレクトリ >/uninstall ディレクトリに移動します。  

```
cd cf_root/uninstall
```
- 3 次のコマンドを入力します。  

```
./uninstall.sh
```
- 4 アンインストールが完了したら、<ColdFusion のインストールディレクトリ > から自動的に削除されなかったファイルをすべて削除します。  
ColdFusion がサーバーから削除されます。

## 第3章：マルチサーバー設定のインストール

マルチサーバー設定では、固有の JRun サーバーに ColdFusion がデプロイされて設定が行われます。

### マルチサーバー設定のインストールに必要な情報の収集

ColdFusion 9 インストーラには、直感的に操作できるインターフェイスが用意されていますが、インストール時に回答を求められる次の情報はあらかじめ準備しておくことをお勧めします。次の表を使用すると、ColdFusion 9 のマルチサーバー設定のインストールを計画するときに役立ちます。

質問	回答
プラットフォーム固有のインストーラの名前は何ですか？	_____
ColdFusion のシリアル番号は何番ですか？	_____
インストールするタイプはどれですか？	<input type="checkbox"/> サーバー設定 <input checked="" type="checkbox"/> マルチサーバー設定 <input type="checkbox"/> J2EE 設定
どのサブコンポーネントをインストールしますか？	<input type="checkbox"/> ColdFusion 9 ODBC Services <input type="checkbox"/> ColdFusion 9 Search Services <input type="checkbox"/> ColdFusion 9 Solr Services <input type="checkbox"/> .NET Integration Services <input type="checkbox"/> ColdFusion 9 マニュアル
JRun のインストールディレクトリはどこですか？	_____
Web サーバーを設定しますか、あるいはビルトイン Web サーバーを使用しますか？	<input type="checkbox"/> ColdFusion 用に Web サーバーを設定する <input type="checkbox"/> ColdFusion のビルトイン Web サーバーを有効にする
設定する Web サーバーの種類はどれですか？(ビルトイン Web サーバーを使用しない場合のみ)	<input type="checkbox"/> IIS <input type="checkbox"/> Apache <input type="checkbox"/> Sun Java System Web Server <input type="checkbox"/> その他
設定ディレクトリはどこですか？(Apache および SunONE)	_____
サーバーバイナリの場所はどこですか？(Apache)	_____

質問	回答
ColdFusion Administrator のパスワードは何ですか？	_____
RDS を有効にしますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ メモ：RDS を使用すると、サーバーは、リモートで接続している開発者と対話的にやり取りすることができます。本番サーバーでは RDS を無効にしておくことをお勧めします。 RDS を無効にすると、ColdFusion Administrator でディレクトリをブラウズするためのアプレットも無効になります。
RDS パスワードは何ですか？	_____

**注意：** LiveCycle Data Services ES を複数のサーバーインスタンスにインストールする場合は、単一のサーバーインスタンスにインストールする場合と同じように手動でインストールする必要があります。LiveCycle Data Services ES を手動でインストールする方法の詳細については、52 ページの「[LiveCycle Data Services の手動インストール](#)」を参照してください。

## マルチサーバー設定について

マルチサーバー設定を使って ColdFusion をインストールすると、インストールウィザードにより、固有の JRun サーバーに ColdFusion が自動的にデプロイされて設定が行われます。この設定を選択すると、ColdFusion Administrator を使用してサーバーインスタンスを作成でき、複数の JRun サーバーに ColdFusion をデプロイして管理することができます。

既に JRun 4 がインストールされている場合、ColdFusion のサーバーインスタンス作成機能を使用するには、JRun 4 をアンインストールしてから、ColdFusion のマルチサーバー設定をインストールする必要があります。

マルチサーバー設定を使用すると、ColdFusion を実行している各コンピュータ上の ColdFusion Administrator を使って複数のサーバーインスタンスを定義できます。ColdFusion の複数のインスタンスを実行することには、次のような利点があります。

**アプリケーションの隔離** 各サーバーインスタンスに個別のアプリケーションをデプロイできます。各サーバーインスタンスの設定はそれぞれ独立しています。各サーバーインスタンスはそれぞれの JVM インスタンス上で実行されるため、1 つのアプリケーションで問題が発生しても他のアプリケーションには影響しません。

**負荷分散とフェイルオーバー** 各サーバーインスタンスに同じアプリケーションをデプロイし、それらのサーバーインスタンスを 1 つのクラスターに追加します。Web サーバーコネクタは負荷分散を自動的に管理し、いずれかのサーバーインスタンスが停止した場合は別のサーバーインスタンスにリクエストを転送することで、パフォーマンスと安定性を最適化します。

ColdFusion を JRun 4 で実行する場合に複数のサーバーインスタンスを設定する方法や、複数のサーバーインスタンスで ColdFusion を設定する方法については、『[Adobe® ColdFusion® 9 設定と管理](#)』を参照してください。

J2EE サーバーの詳細については、18 ページの「[ColdFusion と J2EE アプリケーションサーバー](#)」を参照してください。

## マルチサーバー設定による ColdFusion のインストール

マルチサーバー設定を使って ColdFusion をインストールするには、インストール先のコンピュータに以前のバージョンの JRun が存在していないことが条件となります。

インストールウィザードでマルチサーバー設定を選択すると、次の処理が実行されます。

- JRun 4 がインストールされます。



- cfusion という名前の JRun サーバーが作成されます (さらに、admin および samples という名前の JRun サーバーも作成されます)。
- (Windows) admin および cfusion JRun サーバー上に Windows サービスが作成されて開始されます。
- プラットフォームの種類に応じて、<JRun のインストールディレクトリ>/bin/jvm.config ファイルが設定されます。
- (オプション) 外部の Web サーバーと通信できるように cfusion JRun サーバーが設定されます。Windows の場合は、インストールウィザードにより、Web サーバー設定ツールが実行されます。UNIX の場合は、インストールウィザードで指定した設定を使用して Web サーバー設定ツールを実行するためのシェルスクリプトが作成されます。

**注意:** デフォルトで cfusion サーバー用に設定される JRun Web サーバーのポート番号は 8300 です。ただし、ビルトインサーバーを含む ColdFusion マルチサーバー設定をインストールするときに、ポート 8300 が使用中であった場合は、インストーラにより 8301 番以降のポートが最大 100 個まで検索され、実行中のアプリケーションによって使用されていないポートが検出されます。ColdFusion は検出されたポートを使用し、どのポートが選択されたかユーザーに通知します。

## Windows へのマルチサーバー設定のインストール

**注意:** Windows インストーラを実行するには、コンピュータが 256 色以上の表示をサポートしている必要があります。

### Windows にマルチサーバー設定をインストールするには

- 1 オンラインバージョンのリリースノートを参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。詳細については、[www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_releasenote\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp) を参照してください。
- 2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト [www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_cfsysreqs\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp) に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。
- 3 2 ページの「[Windows でのインストールの注意事項](#)」と 2 ページの「[すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項](#)」を確認します。
- 4 11 ページの「[マルチサーバー設定のインストールに必要な情報の収集](#)」の質問に対する回答を用意します。
- 5 コンピュータで現在実行中のアプリケーションをすべて閉じます。
- 6 外部 Web サーバーを設定する予定の場合は、Web サーバーが起動されていることを確認します。
- 7 DVD を挿入するか、Adobe Web サイトからセットアップファイルをダウンロードします。
- 8 DVD を挿入してもインストールウィザードが自動的に起動しない場合は、DVD 上の "setup.exe" ファイルを探してダブルクリックします。ネットワーク共有またはダウンロードしたファイルを使用してインストールする場合は、ColdFusion インストーラの実行可能ファイル (ColdFusion\_9\_WWE\_win.exe または ColdFusion\_9\_WWE\_win64.exe) を探してダブルクリックします。
- 9 インストールウィザードの指示に従ってインストール作業を完了します。マルチサーバー設定が選択されていることを確認してください。  
**注意:** JRun 4 が既にコンピュータにインストールされている場合、マルチサーバー設定オプションは無効になります。
- 10 ColdFusion Administrator を開いて、サーバーを設定します。
- 11 59 ページの「[システムの設定](#)」で説明されているようにシステムを設定して管理します。
- 12 Adobe またはサードパーティの統合テクノロジーを追加でインストールするには、49 ページの「[統合テクノロジーのインストール](#)」を参照してください。
- 13 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [ 情報源 ] ページで [ マニュアル ] リンクをクリックします。
- 14 CFM ページを作成します。

外部 Web サーバーを設定した場合は、Web ルートディレクトリの下に CFM ページを格納します。ビルトイン Web サーバーを使用する場合は、Web アプリケーションルート (<JRun のインストールディレクトリ>%servers%cfusion%cfusion-ear%cfusion-war) の下に CFM ページを格納します。これらのページにアクセスするには、次に説明するように、`http://<ホスト名>:8300/<コンテキストルート>/<ファイル名>.cfm` という形式の URL を使用します。

- <ホスト名>の部分では、マシン名、IP アドレス、または `localhost` を指定します。
- <コンテキストルート>の部分では、ColdFusion Web アプリケーションのコンテキストルートを指定します。詳細については、19 ページの「[コンテキストルート](#)」を参照してください。
- <ファイル名>の部分では、表示するファイルのディレクトリパスと名前を指定します。パスには、`cfusion-war` ディレクトリからの相対パスを使用します。

たとえば、ビルトインの JRun Web サーバーを実行していて、`cfmx` をコンテキストルートとして使用している場合、`C:\JRun4\servers\cfusion\cfusion-ear\cfusion-war\eisapp\index.cfm` にある CFM ファイルを表示するには、URL として `http://localhost:8300/cfusion/eisapp/index.cfm` を指定します。

## UNIX へのマルチサーバー設定のインストール

### UNIX にマルチサーバー設定をインストールするには

- 1 オンラインバージョンのリリースノートを参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。詳細については、[www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_releasenote\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp) を参照してください。
- 2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト [www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_cfsysreqs\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp) に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。
- 3 3 ページの「[UNIX でのインストールの注意事項](#)」と 2 ページの「[すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項](#)」を確認します。
- 4 11 ページの「[マルチサーバー設定のインストールに必要な情報の収集](#)」の質問に対する回答を用意します。
- 5 `root` としてログインします。
- 6 プラットフォームとロケールに適したインストールファイルを DVD または Adobe Web サイトからコピーし、ローカルディスクのディレクトリに保存します。

サポートされているサーバー設定プラットフォーム用のインストールファイルは次のとおりです。

プラットフォーム	ファイル
Linux	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ColdFusion_9_WWE_linux.bin (32 ビットシステム用)</li> <li>• ColdFusion_9_WWE_linux64.bin (64 ビットシステム用)</li> </ul>
Solaris	ColdFusion_9_WWE_solaris64.bin

- 7 `cd` コマンドを使用して、インストールファイルが保存されているディレクトリに移動します。

- 8 次のコマンドを使用してインストール作業を開始します。

```
./<filename> -i console
```

インストールプログラムが開始されます。

**注意：**UNIX インストーラを GUI モードで実行するには、「./<ファイル名> `-i gui`」と入力します。

- 9 インストールウィザードの指示に従います。マルチサーバー設定が選択されていることを確認してください。

**注意：**セキュリティ上の理由から、実行時のユーザーには `root` を使用しないでください。

10 インストールが正常に完了したら、次のコマンドを使用して JRun cfusion サーバーを起動します。

```
jrun_root/bin/jrun -start cfusion
```

11 インストールウィザードを実行したときに外部 Web サーバー設定を指定した場合は、<JRun のインストールディレクトリ>/bin/cfm-connectors.sh シェルスクリプトを実行します。このスクリプトを実行すると Web サーバー設定ツールが起動し、ColdFusion で使用する Web サーバーが設定されます。Web サーバーを事前に起動しておく必要があります。

このスクリプトの実行中に問題が発生した場合は、設定ディレクトリと bin ディレクトリの指定を確認し、必要に応じて修正してから、スクリプトを再実行してください。また、<JRun のインストールディレクトリ>/bin/connectors にあるスクリプト、または `java -jar <JRun のインストールディレクトリ>/lib/wsconfig.jar` コマンドを使用して Web サーバーを設定することもできます。

**注意：**インストールウィザードを実行したときに外部 Web サーバーを使用するように指定した場合は、CFIDE および cfdocs ディレクトリが Web サーバーのルートディレクトリの下に配置されるので、この手順は重要です。この場合は、ColdFusion Administrator を開く前に Web サーバーを正しく設定する必要があります。

12 ColdFusion Administrator を開いて、設定ウィザードを実行します。

13 59 ページの「[システムの設定](#)」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

14 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [情報源] ページで [マニュアル] リンクをクリックします。

15 ColdFusion CFM ページを作成します。

外部 Web サーバーを設定した場合は、Web ルートディレクトリの下に CFM ページを格納します。ビルトイン Web サーバーを使用する場合は、Web アプリケーションルート (<JRun のインストールディレクトリ>%servers%cfusion%cfusion-ear%cfusion-war) の下に CFM ページを格納します。これらのページにアクセスするには、次に説明するように、`http://<ホスト名>:8300/<コンテキストルート>/<ファイル名>.cfm` という形式の URL を使用します。

- <ホスト名>の部分では、マシン名、IP アドレス、または localhost を指定します。
- <コンテキストルート>の部分では、ColdFusion Web アプリケーションのコンテキストルート指定します。詳細については、19 ページの「[コンテキストルート](#)」を参照してください。
- <ファイル名>の部分では、表示するファイルのディレクトリパスと名前を指定します。パスには、cfusion-war ディレクトリからの相対パスを使用します。

たとえば、ビルトインの JRun Web サーバーを実行していて、cfmx をコンテキストルートとして使用している場合、`/opt/jrun4/servers/cfusion/cfusion-ear/cfusion-war/eisapp/index.cfm` にある CFM ファイルを表示するには、URL として `http://localhost:8300/cfmx/eisapp/index.cfm` を指定します。

## 設定

ColdFusion Administrator でサンドボックスセキュリティを有効にし、アプリケーションサーバーでセキュリティマネージャ (java.lang.SecurityManager) を実行して、次の JVM 引数を定義する必要があります。

```
-Djava.security.manager  
-Djava.security.policy="cf_webapp_root/WEB-INF/cfusion/lib/coldfusion.policy"  
-Djava.security.auth.policy="cf_webapp_root/WEB-INF/cfusion/lib/neo_jaas.policy"
```

これらの設定を行うには、テキストエディタを使って <JRun のインストールディレクトリ>/bin/jvm.config ファイルを修正するか、JMC (JRun 管理コンソール) の [設定] パネルを使用します。

## 旧バージョンからの更新

移行手順を省略した場合や、移行する必要がある旧バージョンのインストールに変更を加えている場合は、次の手順に従ってください。

- 1 サーバーを停止します。
- 2 <ColdFusion Web アプリケーションの新しいインストールルートディレクトリ >/WEB-INF/cfusion/lib ディレクトリ内に "cfXsettings" というディレクトリを作成し (X の部分は以前の ColdFusion のバージョン番号)、旧バージョンのインストール環境の <ColdFusion Web アプリケーションのルート >/WEB-INF/cfusion/lib/neo-\*.xml ファイルをこのディレクトリにコピーすることによって設定を保存します。
- 3 ColdFusion 9 の cfusion/lib/adminconfig.xml ファイルを開き、runmigrationwizard スイッチと migratecfX スイッチ (X の部分は以前の ColdFusion のバージョン番号) の値を true に設定します。
- 4 ColdFusion 9 アプリケーションを再起動します。
- 5 ColdFusion Administrator を表示して、移行ウィザードを実行します。

## ColdFusion のアンインストール

ColdFusion のアンインストール手順はオペレーティングシステムごとに異なります。

### Windows から ColdFusion をアンインストールするには

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除]-[Adobe ColdFusion 9 with JRun 4] を選択します。
- 2 [変更 / 削除] をクリックします。
- 3 アンインストールが完了したら、<ColdFusion Web アプリケーションのルート > ディレクトリから自動的に削除されなかったファイルをすべて削除します。
- 4 アンインストールプログラムによって、コンピュータの再起動を要求される場合もあります。  
ColdFusion がサーバーから削除されます。

### UNIX から ColdFusion をアンインストールするには

- 1 root としてログインします。
- 2 次のコマンドを入力して <ColdFusion Web アプリケーションのルート >/uninstall ディレクトリに移動します。  

```
cd cf_webapp_root/uninstall
```
- 3 次のコマンドを入力します。  

```
./uninstall.sh
```
- 4 アンインストールが完了したら、<ColdFusion Web アプリケーションのルート > ディレクトリから自動的に削除されなかったファイルをすべて削除します。  
ColdFusion がサーバーから削除されます。

**注意:** VMware 上で UNIX を使用している場合、アンインストールするには、ColdFusion をシャットダウンし、cd /opt などのコマンドを入力した後、rm -rf coldfusion9 コマンドを使用して ColdFusion を削除します。

## 第 4 章：J2EE 設定のインストール

### J2EE 設定のインストールに必要な情報の収集

ColdFusion 9 インストーラには、直感的に操作できるインターフェイスが用意されていますが、インストール時に回答を求められる次の情報はあらかじめ準備しておくことをお勧めします。次の表を使用すると、ColdFusion 9 の J2EE 設定のインストールを計画するときに役立ちます。

質問	回答
プラットフォーム固有のインストーラの名前は何ですか？	_____
ColdFusion のシリアル番号は何番ですか？	_____
インストールするタイプはどれですか？	<input type="checkbox"/> サーバー設定 <input type="checkbox"/> マルチサーバー設定 <input checked="" type="checkbox"/> J2EE 設定
EAR ファイルと WAR ファイルのいずれを使用しますか？	<input type="checkbox"/> EAR <input type="checkbox"/> WAR
どのサブコンポーネントをインストールしますか？	<input type="checkbox"/> ColdFusion 9 ODBC Services <input type="checkbox"/> ColdFusion 9 Search Services <input type="checkbox"/> .NET Integration Services <input type="checkbox"/> ColdFusion 9 マニュアル <input type="checkbox"/> LiveCycle Data Services ES
EAR または WAR ファイルのインストールディレクトリはどこですか？	_____
Adobe LiveCycle Data Services ES のシリアル番号は何番ですか？(LiveCycle Data Services ES のエンタープライズ版をインストールする場合のみ)  シリアル番号を入力しない場合は、Express 版がインストールされます。エンタープライズ版にアップグレードする方法については、ColdFusion のインストール完了後に LiveCycle Data Services ES のマニュアルを参照してください。	_____
WebSphere とともに EAR/WAR を使用しますか？(LiveCycle Data Services ES をインストールする場合のみ)	_____
ColdFusion のコンテキストルートはどこですか (EAR ファイルのみ、default=cfusion)？	_____

質問	回答
ColdFusion Administrator のパスワードは何ですか？	_____
RDS を有効にしますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ メモ：RDS を使用すると、サーバーは、リモートで接続している開発者と対話的にやり取りすることができます。本番サーバーでは RDS を無効にしておくことをお勧めします。 RDS を無効にすると、ColdFusion Administrator でディレクトリをブラウズするためのアプレットも無効になります。
RDS パスワードは何ですか？	_____

## ColdFusion と J2EE アプリケーションサーバー

ColdFusion の主なメリットの 1 つは、統合型サーバー（サーバー設定）としてインストールすることも、標準ベースの J2EE アプリケーションサーバー上で動作する Java アプリケーション（マルチサーバー設定と J2EE 設定）としてデプロイすることもできる点にあります。ColdFusion アプリケーションは高度な柔軟性を備えているだけでなく、複数のアプリケーションインスタンスや複数インスタンスのクラスタリングなど、J2EE アーキテクチャの機能を使用できます。

JRun 4 や IBM WebSphere などの J2EE アプリケーションサーバーを使用すると、J2EE 設定で ColdFusion をデプロイできます。J2EE 設定を使用する場合は、既存の J2EE アプリケーションサーバーを使用することができます。インストールウィザードは、WAR ファイルまたは EAR ファイルを生成した後、アプリケーションサーバーのツールを使用してそれらのファイルをデプロイします。

### EAR または WAR デプロイの選択

J2EE 環境では、次の形式のいずれかを使用してアプリケーションをデプロイします。

**Web アプリケーションアーカイブファイル** ColdFusion アプリケーションが含まれています。Web Application Archive (WAR) では、WEB-INF/web.xml デプロイメントディスクリプタを含むディレクトリ構造が使用されます。このディスクリプタは、使用するサーブレットとコンテキストのパラメータを定義します。J2EE アプリケーションサーバーで Web アプリケーションをデプロイする際には、このディレクトリ構造に直接デプロイすることも、ディレクトリ構造を含む圧縮 WAR ファイルにデプロイすることもできます。ただし ColdFusion は、展開されたディレクトリ構造から実行する必要があります。

```
cfusion (cfusion.war)
  WEB-INF
    web.xml
  CFIDE
  cfdocs
CFIDE (rds.war)
  WEB-INF
    web.xml
```

"cfusion.war" ファイルには、ColdFusion Web アプリケーションが含まれています。"rds.war" ファイルは、/CFIDE から /<コンテキストルート>/CFIDE に RDS リクエストを転送する Web アプリケーションです。ColdFusion で / 以外のコンテキストルートが使用されている場合、リクエストは ColdFusion Administrator に転送されます。

**エンタープライズアプリケーションアーカイブファイル** ColdFusion と RDS リダイレクター Web アプリケーションが含まれています。Enterprise Application Archive (EAR) では、META-INF/application.xml デプロイメントディスクリプタを含むディレクトリ構造が使用されます。このディスクリプタは、環境に含まれる Web アプリケーションを定義します。J2EE アプリケーションサーバーでエンタープライズアプリケーションをデプロイする際には、このディレクトリ構造に直

接デプロイすることも、ディレクトリ構造を含む圧縮 EAR ファイルにデプロイすることもできます。ただし ColdFusion は、展開されたディレクトリ構造から実行する必要があります。

```
cfusion-ear
  META-INF
    application.xml
  cfusion-war
    WEB-INF
      web.xml
    CFIDE
    cfdocs
  rds.war
    WEB-INF
      web.xml
```

J2EE アプリケーションサーバーがエンタープライズアプリケーションをサポートしている場合は、EAR ファイルをインストールしてデプロイします。詳細については、20 ページの「[EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール](#)」を参照してください。

## コンテキストルート

J2EE 環境では、複数の独立した Web アプリケーションを 1 台のサーバーインスタンスで実行できるので、サーバーで実行されている J2EE Web アプリケーションのルートは、コンテキストルート（またはコンテキストパス）と呼ばれる固有の URL になります。J2EE アプリケーションサーバーは、URL の最初の部分 (`http://<ホスト名>` の直後の部分) を使用して、受信したリクエストをどの Web アプリケーションで処理するかを決定します。

たとえば、**cf9** をコンテキストルートとして ColdFusion を実行している場合は、`http://localhost/cf9/CFIDE/administrator/index.cfm` という URL を使用すると ColdFusion Administrator が表示されます。

ほとんどの J2EE アプリケーションサーバーでは、各サーバーインスタンスのアプリケーションのコンテキストルートとしてスラッシュ (/) を使用できます。コンテキストルートを / に設定すると、以前のバージョンの ColdFusion に最も近い機能がサポートされるため、CFM ページを Web サーバーから提供する場合に特に便利です。また、/ をコンテキストルートとして使用する場合、RDS Web アプリケーションは必要ありません。

ColdFusion を EAR ファイルとしてデプロイする際には、インストールウィザードを実行するときに指定したコンテキストルートが使用されます（指定した値は "META-INF/application.xml" ファイルの `context-root` 要素にコピーされています）。ColdFusion を WAR ファイルとしてデプロイする際には、アプリケーションサーバー固有の機能を使用してコンテキストルートを定義します。

**注意：**サーバーインスタンス上で実行する各 Web アプリケーションには、それぞれ固有のコンテキストルートが必要です。JRun のデフォルト Web アプリケーションは、コンテキストルートとして / を使用します。このため、ColdFusion を JRun にデプロイして / をコンテキストルートに使用する場合は、"default-ear/META-INF/application.xml" ファイルを編集して、default-war アプリケーションを削除するか default-war のコンテキストルートを変更します。

## 複数のインスタンス

J2EE 設定を使用する場合は、1 台のコンピュータ上で複数のサーバーインスタンスを定義し、各インスタンスで ColdFusion を実行できます。ColdFusion の複数のインスタンスを実行することには、次のような利点があります。

**アプリケーションの隔離** 各サーバーインスタンスに個別のアプリケーションをデプロイできます。各サーバーインスタンスの設定はそれぞれ独立しています。各サーバーインスタンスはそれぞれの JVM インスタンス上で実行されるため、1 つのアプリケーションで問題が発生しても他のアプリケーションには影響しません。

**負荷分散とフェイルオーバー** 各サーバーインスタンスに同じアプリケーションをデプロイし、それらのサーバーインスタンスを 1 つのクラスターに追加します。Web サーバーコネクタは負荷分散を自動的に管理し、いずれかのサーバーインスタンスが停止した場合は別のサーバーインスタンスにリクエストを転送することで、パフォーマンスと安定性を最適化します。

ColdFusion を JRun 4 で実行する場合に複数のサーバーインスタンスを設定する方法や、複数のサーバーインスタンスで ColdFusion を設定する方法については、『ColdFusion 設定と管理』を参照してください。マルチサーバー設定では、インスタンスマネージャを使用して複数のサーバー上にある ColdFusion をより簡単に設定することができます。ただし、複数のサーバーインスタンスに EAR ファイルと WAR ファイルをデプロイすることにより、複数のサーバーの上にある ColdFusion を手動で設定することもできます。

## プラットフォーム

一部の例外を除き、ColdFusion のすべての機能は、Windows、Macintosh、Linux、および Solaris で利用できます (COM、.NET、ODBC Services は Windows 専用の機能です)。Mac OS® X に ColdFusion 9 をインストールする場合、Verity を使用するには、サポート対象のオペレーティングシステムを実行しているコンピュータにスタンドアロン版の Verity をインストールし、ColdFusion Administrator の [K 2 Server] ページで設定を行う必要があります。ただし、AIX は WebSphere アプリケーションサーバーでのみサポートされます。プラットフォーム固有のバイナリファイルによって提供される機能は、AIX では利用できません。また、上記以外のプラットフォームにも完全 Java 版の ColdFusion J2EE 設定をインストールしてデプロイすることは可能ですが、プラットフォーム固有のバイナリファイル (C++ CFX) によって提供される機能は利用できません。

## J2EE 設定を使用してインストールする準備

J2EE 設定をインストールするときには、次のオプションがあります。

**新規インストール - マルチサーバー設定** JRun サーバー上のエンタープライズアプリケーションとして ColdFusion をデプロイし、JRun 4 のコピーをインストールする場合は、このオプションを選択します。詳細については、12 ページの「[マルチサーバー設定による ColdFusion のインストール](#)」を参照してください。コンピュータに JRun やその他の J2EE アプリケーションサーバーがまだインストールされておらず、他の J2EE アプリケーションサーバーではなく JRun 4 を使用したい場合は、この設定オプションをお勧めします。

**新規インストール - EAR または WAR ファイルの作成** コンピュータ上で既に J2EE アプリケーションサーバーが実行されている場合は、このオプションを選択します。インストールウィザードでは、1 つの EAR ファイルまたは 2 つの WAR ファイルが作成されます。J2EE アプリケーションサーバー固有のツールまたはユーティリティを使用してこれらのファイルをデプロイします。詳細については、20 ページの「[EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール](#)」を参照してください。

## EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール

コンピュータで既に J2EE アプリケーションサーバーを実行中の場合は、インストールウィザードにより EAR ファイルまたは WAR ファイルが生成されます。これらのファイルはアプリケーションサーバー固有のツールを使用してデプロイすることができます。

ColdFusion J2EE 設定は、展開されたディレクトリ構造から実行する必要があります。次に示すように、デプロイに関連する機能や、展開後のディレクトリ構造は、J2EE アプリケーションサーバーによって異なります。



圧縮されたアーカイブを作業ディレクトリにデプロイする:一部の J2EE アプリケーションサーバー (IBM WebSphere など) では、デプロイ処理を実行すると EAR/WAR ファイルが作業ディレクトリに展開されます。それ以後は、展開されたディレクトリがアプリケーションと見なされます。これらのアプリケーションサーバーの場合は、圧縮された EAR/WAR ファイルをデプロイし、展開後のディレクトリ構造を作業ディレクトリとして使用します。詳細については、26 ページの「[ColdFusion J2EE のデプロイと設定](#)」を参照してください。

**展開されたアーカイブを作業ディレクトリとしてデプロイするには** その他のアプリケーションサーバー (JRun 4 や BEA WebLogic など) では、デプロイ処理を実行すると EAR/WAR ファイルがテンポラリディレクトリに展開されます。展開後も、概念上は圧縮された EAR/WAR ファイルがアプリケーションであると見なされます。これらのアプリケーションサーバーの場合は、EAR/WAR ファイルを手動で展開して、展開後のディレクトリ構造をデプロイします (このディレクトリが作業ディレクトリになります)。詳細については、26 ページの「[ColdFusion J2EE のデプロイと設定](#)」を参照してください。

## Windows での EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール

ここでは、ColdFusion J2EE 設定を Windows にインストールする方法について説明します。既にデプロイされている ColdFusion MX、ColdFusion MX 6.1、または ColdFusion MX 7 の J2EE 設定を更新する場合は、次に進む前に 25 ページの「[以前のバージョンの J2EE 設定からの更新](#)」を参照してください。

**注意:** Windows インストーラを実行するには、コンピュータが 256 色以上の表示をサポートしている必要があります。

### Windows に ColdFusion をインストールするには (J2EE 設定)

- 1 オンラインバージョンのリリースノート参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。詳細については、[www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_releasenote\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp) を参照してください。
- 2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト [www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_cfsysreqs\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp) に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。
- 3 2 ページの「[Windows でのインストールの注意事項](#)」と 2 ページの「[すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項](#)」を確認します。
- 4 環境に関する情報を収集して記録します (20 ページの「[J2EE 設定を使用してインストールする準備](#)」を参照してください)。
- 5 17 ページの「[J2EE 設定のインストールに必要な情報の収集](#)」の質問に対する回答を用意します。
- 6 コンピュータで現在実行中のアプリケーションをすべて閉じます。
- 7 DVD を挿入するか、Adobe Web サイトからセットアップファイルをダウンロードします。
- 8 DVD を挿入してもインストールウィザードが自動的に起動しない場合は、DVD 上の "setup.exe" ファイルを探してダブルクリックします。ネットワーク共有またはダウンロードしたファイルを使用してインストールする場合は、ColdFusion インストーラの実行可能ファイル (32 ビットシステムの場合は ColdFusion\_9\_WWE\_win.exe、64 ビットシステムの場合は ColdFusion\_9\_WWE\_win64.exe) を探してダブルクリックします。
- 9 インストールウィザードの指示に従ってインストール作業を完了します。
- 10 ColdFusion をデプロイし、アプリケーションサーバーに合わせて Java 設定を行います。詳細については、26 ページの「[ColdFusion J2EE のデプロイと設定](#)」を参照してください。
- 11 ColdFusion Administrator を開いて、設定ウィザードを実行します。
- 12 Adobe またはサードパーティの統合テクノロジーを追加でインストールするには、49 ページの「[統合テクノロジーのインストール](#)」を参照してください。
- 13 59 ページの「[システムの設定](#)」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

- 14 JRun を使用する場合は、"Log4J-1.2.12.jar" ファイルを JRun サーバーのクラスパス (C:\¥run4¥servers¥lib) に追加します。デフォルトでは、このファイルは ColdFusion のクラスパス (C:\¥run4¥servers¥CF9¥cfusion-ear¥cfusion-war¥WEB-INF¥cfusion¥lib) にあります。
- 15 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [ 情報源 ] ページで [ マニュアル ] リンクをクリックします。
- 16 ColdFusion CFM ページを作成します。

Web アプリケーションルート (cfusion-ear¥cfusion-war または cfusion-war) の下に CFM ページを格納します。これらのページにアクセスするには、次に説明するように、`http://<ホスト名>:<ポート番号>/<コンテキストルート>/<ファイル名>.cfm` という形式の URL を使用します。

- <ホスト名>の部分では、マシン名、IP アドレス、または localhost を指定します。
- <ポート番号>の部分では、アプリケーションサーバーの Web サーバーが使用するポート番号を指定します。
- <コンテキストルート>の部分では、ColdFusion Web アプリケーションのコンテキストルートを指定します。詳細については、19 ページの「コンテキストルート」を参照してください。
- <ファイル名>の部分では、表示するファイルのディレクトリパスと名前を指定します。パスには、cfusion-war ディレクトリからの相対パスを使用します。

たとえば、ビルトインの JRun Web サーバーを実行していて、cf9 をコンテキストルートとして使用している場合、`C:\¥run4¥servers¥myserver¥cfusion-ear¥cfusion-war¥eisapp¥index.cfm` にある CFM ファイルを表示するには、URL として `http://localhost:8100/cf9/eisapp/index.cfm` を指定します。

## UNIX での EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール

ここでは、ColdFusion J2EE 設定を UNIX にインストールする方法について説明します。既にデプロイされている ColdFusion MX、ColdFusion MX 6.1、または ColdFusion MX 7 の J2EE 設定を更新する場合は、次に進む前に 25 ページの「以前のバージョンの J2EE 設定からの更新」を参照してください。

### UNIX に ColdFusion をインストールするには (J2EE 設定)

- 1 オンラインバージョンのリリースノート参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。詳細については、[www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_releasenote\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp) を参照してください。
- 2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト [www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_cfsysreqs\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp) に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。
- 3 3 ページの「UNIX でのインストールの注意事項」と 2 ページの「すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項」を確認します。
- 4 環境に関する情報を収集して記録します (20 ページの「J2EE 設定を使用してインストールする準備」を参照してください)。
- 5 17 ページの「J2EE 設定のインストールに必要な情報の収集」の質問に対する回答を用意します。
- 6 root としてログインします。
- 7 プラットフォームとロケールに適したインストールファイルを DVD または Adobe Web サイトからコピーし、ローカルディスクのディレクトリに保存します。

サポートされている J2EE 設定プラットフォーム用のインストールファイルは次のとおりです。

プラットフォーム	ファイル
Linux	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ColdFusion_9_WWE_linux.bin (32 ビットシステム用)</li> <li>• ColdFusion_9_WWE_linux64.bin (64 ビットシステム用)</li> </ul>
Solaris	ColdFusion_9_WWE_solaris64.bin
UNIX (Solaris および Linux 以外)	ColdFusion_9_WWE_java.jar

8 cd コマンドを使用して、インストールファイルが保存されているディレクトリに移動します。

9 次のコマンドを使用してインストール作業を開始します。

```
./<filename> -i console
```

インストールプログラムが開始されます。

"ColdFusion\_9\_WWE\_java.jar" ファイルを使用して Solaris および Linux 以外の UNIX プラットフォームにインストールするには、次のコマンドを入力します。詳細については、3 ページの「[UNIX でのインストールの注意事項](#)」を参照してください。

```
java_home/bin/java -jar ColdFusion_9_WWE_java.jar -i console
```

**注意：**UNIX インストーラを GUI モードで実行するには、「./<ファイル名> -i gui」と入力します。

10 指示に従いインストール作業を完了させます。

**注意：**セキュリティ上の理由から、実行時のユーザーには root を使用しないでください。代わりに、ログインシェルを持たない通常のユーザーアカウントを使用してください。たとえば、このような目的のために用意されているデフォルトのユーザーアカウント nobody などを使用することをお勧めします。

11 ColdFusion をデプロイし、アプリケーションサーバーに合わせて Java 設定を行います。

詳細については、26 ページの「[ColdFusion J2EE のデプロイと設定](#)」を参照してください。

**注意：**"rds.war" ファイルをデプロイした場合には、RDS がインストールされていないか有効ではないことを示すエラーメッセージが表示されたときは、ColdFusion のコンテキストルートと一致するように "rds.properties" ファイルを編集し、アプリケーションサーバーを再起動して、再度、ColdFusion Administrator を開きます。

12 ColdFusion Administrator を開いて、設定ウィザードを実行します。

13 59 ページの「[システムの設定](#)」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

14 JRun を使用する場合は、"Log4j-1.2.12.jar" ファイルを JRun サーバーのクラスパスに追加します。デフォルトでは、このファイルは ColdFusion のクラスパスにあります。

15 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [ 情報源 ] ページで [ マニュアル ] リンクをクリックします。

16 ColdFusion CFM ページを生成し、テストします。

Web アプリケーションルート (cfusion-ear/cfusion-war または cfusion-war) の下に CFM ページを格納します。これらのページにアクセスするには、次に説明するように、`http://<ホスト名>:<ポート番号>/<コンテキストルート>/<ファイル名>.cfm` という形式の URL を使用します。

- <ホスト名>の部分では、マシン名、IP アドレス、または localhost を指定します。
- <ポート番号>の部分では、アプリケーションサーバーの Web サーバーが使用するポート番号を指定します。
- <コンテキストルート>の部分では、ColdFusion Web アプリケーションのコンテキストルートを指定します。詳細については、19 ページの「[コンテキストルート](#)」を参照してください。
- <ファイル名>の部分では、表示するファイルのディレクトリパスと名前を指定します。パスには、cfusion-war ディレクトリからの相対パスを使用します。

たとえば、ビルトインの JRun Web サーバーを実行していて、cfusion をコンテキストルートとして使用している場合、/opt/jrun4/servers/myserver/cfusion-ear/cfusion-war/eisapp/index.cfm にある CFM ファイルを表示するには、URL として <http://localhost:8100/cfusion/eisapp/index.cfm> を指定します。

## Mac OS X での EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール

ここでは、ColdFusion J2EE 設定を Mac OS X にインストールする方法について説明します。既にデプロイされている ColdFusion 8 の J2EE 設定を更新する場合は、次に進む前に、25 ページの「[以前のバージョンの J2EE 設定からの更新](#)」を参照してください。

### Mac OS X に ColdFusion をインストールするには (J2EE 設定)

- 1 オンラインバージョンのリリースノートを参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。  
詳細については、[www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_releasenote\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp) を参照してください。
- 2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト [www.adobe.com/go/learn\\_cfu\\_cfsysreqs\\_jp](http://www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp) に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。
- 3 3 ページの「[UNIX でのインストールの注意事項](#)」と 2 ページの「[すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項](#)」を確認します。
- 4 環境に関する情報を収集して記録します (20 ページの「[J2EE 設定を使用してインストールする準備](#)」を参照してください)。
- 5 17 ページの「[J2EE 設定のインストールに必要な情報の収集](#)」の質問に対する回答を用意します。
- 6 root としてログインします。
- 7 プラットフォームとロケールに適したインストールファイルを DVD または Adobe Web サイトからコピーし、ローカルディスクのディレクトリに保存します。  
サポートされている J2EE 設定プラットフォーム用のインストールファイルは次のとおりです。
  - ColdFusion\_9\_WWE\_osx10.zip - Mac OS X 32 ビットシステムへのインストール用
  - ColdFusion\_9\_WWE\_osx10-64.zip - Mac OS X 64 ビットシステムへのインストール用
- 8 cd コマンドを使用して、インストールファイルが保存されているディレクトリに移動します。
- 9 デスクトップにあるインストールファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。同じディレクトリに "ColdFusion 9 Installer.app" ファイルがインストールされます。GUI モードでインストールを開始するには、この APP ファイルをダブルクリックします。
- 10 指示に従いインストール作業を完了させます。  
**注意:** セキュリティ上の理由から、実行時のユーザーには root を使用しないでください。代わりに、ログインシェルを持たない通常のユーザーアカウントを使用してください。たとえば、このような目的のために用意されているデフォルトのユーザーアカウント nobody などを使用することをお勧めします。
- 11 ColdFusion をデプロイし、アプリケーションサーバーに合わせて Java 設定を行います。詳細については、26 ページの「[ColdFusion J2EE のデプロイと設定](#)」を参照してください。  
**注意:** "rds.war" ファイルをデプロイした場合に、RDS がインストールされていないか有効ではないことを示すエラーメッセージが表示されたときは、ColdFusion のコンテキストルートと一致するように "rds.properties" ファイルを編集し、アプリケーションサーバーを再起動して、再度、ColdFusion Administrator を開きます。
- 12 ColdFusion Administrator を開いて、設定ウィザードを実行します。
- 13 59 ページの「[システムの設定](#)」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

- 14 JRun を使用する場合は、"Log4J-1.2.12.jar" ファイルを JRun サーバーのクラスパスに追加します。デフォルトでは、このファイルは ColdFusion のクラスパスにあります。
- 15 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [ 情報源 ] ページで [ マニュアル ] リンクをクリックします。
- 16 ColdFusion CFM ページを生成し、テストします。

Web アプリケーションルート (cfusion-ear/cfusion-war または cfusion-war) の下に CFM ページを格納します。これらのページにアクセスするには、次に説明するように、`http://<ホスト名>:<ポート番号>/<コンテキストルート>/<ファイル名>.cfm` という形式の URL を使用します。

- <ホスト名>の部分では、マシン名、IP アドレス、または localhost を指定します。
- <ポート番号>の部分では、アプリケーションサーバーの Web サーバーが使用するポート番号を指定します。
- <コンテキストルート>の部分では、ColdFusion Web アプリケーションのコンテキストルートを指定します。詳細については、19 ページの「[コンテキストルート](#)」を参照してください。
- <ファイル名>の部分では、表示するファイルのディレクトリパスと名前を指定します。パスには、cfusion-war ディレクトリからの相対パスを使用します。

たとえば、ビルトインの JRun Web サーバーを実行していて、cfusion をコンテキストルートとして使用している場合、`/opt/jrun4/servers/myserver/cfusion-ear/cfusion-war/eisapp/index.cfm` にある CFM ファイルを表示するには、URL として `http://localhost:8100/cfusion/eisapp/index.cfm` を指定します。

## 以前のバージョンの J2EE 設定からの更新

アプリケーションサーバーに ColdFusion J2EE 設定が既にデプロイされている場合は、インストール手順の一部として次の作業も行う必要があります。

- 1 アプリケーションサーバーの機種に応じて、インストールウィザードを開始する前に、実行中の ColdFusion アプリケーションまたは RDS アプリケーションを停止するか、アプリケーションサーバーを停止します。
- 2 (Windows のみ) SequelLink ODBC Agent がインストールされている場合は、インストールウィザードを開始する前に ODBC サービスを停止します。
- 3 アプリケーションファイルをバックアップディレクトリにコピーします。
- 4 設定を保存するために、<ColdFusion Web アプリケーションのルート>/WEB-INF/cfusion/lib/neo-\*.xml ファイルをバックアップディレクトリにコピーします。
- 5 ColdFusion 9 をデプロイする前に、アプリケーションサーバー固有のアンデプロイ機能を使用して既存の ColdFusion アプリケーションをアンデプロイします。
- 6 27 ページの「[JRun 4 への ColdFusion 9 のデプロイ](#)」、30 ページの「[IBM WebSphere への ColdFusion 9 のデプロイ](#)」、37 ページの「[BEA WebLogic への ColdFusion 9 のデプロイ](#)」、41 ページの「[Oracle Application Server 10g への ColdFusion 9 のデプロイ](#)」、または 44 ページの「[JBoss Application Server への ColdFusion 9 のデプロイ](#)」の説明に従って ColdFusion 9 をデプロイします。
- 7 <ColdFusion Web アプリケーションのルート>/WEB-INF/cfusion/lib ディレクトリに、cfXsettings (X の部分は ColdFusion のバージョン番号) という名前のディレクトリを作成します。
- 8 バックアップした設定ファイルを ColdFusion 9 の cfusion/lib/cfXsettings ディレクトリにコピーします。
- 9 ColdFusion 9 の cfusion/lib/adminconfig.xml ファイルを開き、runmigrationwizard スイッチと migratecfX スイッチ (X の部分は ColdFusion のバージョン番号) の値を true に設定します。
- 10 ColdFusion 9 アプリケーションを再起動します。

11 ColdFusion Administrator を表示して、移行ウィザードを実行します。

注意：移行ウィザードでは ColdFusion 7 および ColdFusion 8 からの設定の移行のみがサポートされています。

## ColdFusion J2EE のデプロイと設定

J2EE 設定は、アプリケーションサーバーの種類に応じて、圧縮または展開された状態で処理されます。各アプリケーションサーバーには、次の表に示すような、固有のデプロイおよび設定メカニズムがあります。

アプリケーションサーバー	デプロイのメカニズム	デプロイの状態 (展開または圧縮)
JRun 4	サーバールートへのオートデプロイまたは JRun 管理コンソールを使用したデプロイ	展開
IBM WebSphere	IBM WebSphere 管理コンソール	圧縮
BEA WebLogic	WebLogic Administration Console / サーバードメインへのオートデプロイ	展開
Oracle Application Server 10g	OracleAS Enterprise Manager Console	圧縮
JBOSS Application Server	サーバールートへのオートデプロイ	展開

デプロイに関する基本的な情報については、J2EE アプリケーションサーバーのマニュアルを参照してください。

ColdFusion のデプロイ手順は J2EE アプリケーションサーバーの種類ごとに異なります。詳細については、アプリケーションサーバーごとのデプロイに関する説明を参照してください。

## J2EE ディレクトリ構造

次の表では、J2EE 設定を使用する場合に <ColdFusion Web アプリケーションのルート> ディレクトリ内に作成されるディレクトリについて説明します。

ディレクトリ	説明
cfdocs	ColdFusion のマニュアル
CFIDE	ColdFusion Administrator に関連するファイル
WEB-INF/cfclasses	ColdFusion アプリケーションでコンパイルされた ColdFusion テンプレート
WEB-INF/cfc-skeletons	Web サービスとしてエクスポートされた ColdFusion コンポーネントをサポートするためのファイル
WEB-INF/cfform	Flash フォームをサポートするためのファイル
WEB-INF/cftags	ColdFusion 用テンプレート
WEB-ING/flex	LiveCycle Data Services ES の設定およびファイル
WEB-INF/gateway	イベントゲートウェイをサポートするためのファイル
WEB-INF/cfusion/bin	ColdFusion により使用される実行可能ファイル
WEB-INF/cfusion/cfx	CFX タグインクルードファイルと例
WEB-INF/cfusion/charting	ColdFusion のグラフ作成およびチャート作成エンジンで使用されるファイル
WEB-INF/cfusion/Custom Tags	カスタムタグ用のレポジトリ

ディレクトリ	説明
WEB-INF/cfusion/db	すべてのプラットフォームに共通するサンプルデータベース。これらのデータベースは Apache Derby データベースです。
WEB-INF/cfusion/jintegra	JIntegra プログラム、ライブラリ、およびその他のサポートファイル (たとえば、Java と COM コードを統合したり、GUI コンテナに含まれる ActiveX コントロール (OCX) へのアクセスを管理したり、JVM やタイプライブラリを登録するためのファイルなど)。
WEB-INF/cfusion/lib および WEB-INF/lib	JAR ファイル、XML ファイル、プロパティファイル、および ColdFusion の基盤となるその他のファイル (クエリー、グラフ作成、メール、セキュリティ、Verity 検索、Solr 検索、システムプロープなどの機能)。
WEB-INF/cfusion/logs	ColdFusion ログファイル
WEB-INF/cfusion/Mail	ColdFusion がメールで使用するファイル (スプールファイルなど)
WEB-INF/cfusion/registry	cfregistry タグによって使用されるディレクトリ (UNIX のみ)
WEB-INF/cfusion/stubs	Web サービスのコンパイル済みコード
WEB-INF/cfusion/verity	Verity コレクション
WEB-INF/cfusion/solr	Solr 設定および Jetty

## JRun 4 への ColdFusion 9 のデプロイ

既存の JRun 4 環境に ColdFusion をデプロイする場合は、デプロイを開始する前に EAR ファイルまたは WAR ファイルを手動で展開します。

既にデプロイされている旧バージョンの ColdFusion を更新する場合は、ColdFusion 9 をデプロイする前に、25 ページの「[以前のバージョンの J2EE 設定からの更新](#)」の説明に従って旧バージョンの ColdFusion をアンデプロイします。

### EAR ファイルを展開するには

1 次の手順を実行して、EAR ファイルを展開します。

- a コンソールウィンドウを開き、EAR ファイルを含むディレクトリに移動して、cfusion-ear という名前の新しいディレクトリを作成します。

```
md cfusion-ear (mkdir cfusion-ear on UNIX)
```

- b cfusion-ear ディレクトリに移動し、jar コマンドを使用して "cfusion.ear" ファイルを展開します。

```
cd cfusion-ear
java_home/bin/jar -xvf ../cfusion.ear
```

これにより、"cfusion.ear" ファイルが "cfusion.war" と "rds.war" に展開されます (インストールウィザードを実行したときにコンテキストルートとして / を指定した場合、"rds.war" には展開されません)。

- c cfusion-ear に、cfusion-war という名前の新しいディレクトリを作成します。

```
md cfusion-war (mkdir cfusion-war on UNIX)
```

- d cfusion-war ディレクトリに移動し、jar コマンドを使用して "cfusion.war" ファイルを展開します。

```
cd cfusion-war
java_root/bin/jar -xvf ../cfusion.war
```

これにより、"cfusion.war" ファイルが展開されます。

- e (rds.war がある場合) 1 つ上のレベルの cfusion-ear に移動し、rds-war という名前の新しいディレクトリを作成します。

```
cd ..  
md rds-war (mkdir rds-war on UNIX)
```

- f** (rds.war がある場合) rds-war ディレクトリに移動し、jar コマンドを使用して rds.war を展開します。

```
cd rds-war  
java_root/bin/jar -xvf ../rds.war
```

これにより "rds.war" が展開されます。

- g** 1 つ上のレベルの "cfusion-ear" ファイルに移動し、"cfusion.war" ファイルと "rds.war" ファイルを削除します。

```
cd ..  
del cfusion.war (rm cfusion.war on UNIX)  
del rds.war (rm rds.war on UNIX)
```

- h** cfusion-ear/META-INF/application.xml ファイルをテキストエディタで開きます。

- i** web-uri 要素を "cfusion.war" から "cfusion-war" (または展開した "cfusion.war" ファイルを含むディレクトリ名) に変更します。rds.war の web-uri 要素を rds-war に変更します。web-uri 要素のディレクトリ名には、ドット (.) を含めることができません。

- j** "application.xml" ファイルを保存します。

- 2** cfusion-ear のディレクトリ構造を <JRun のインストールディレクトリ >/servers/<サーバー名> ディレクトリにコピーすることによって ColdFusion 9 をデプロイします。オートデプロイが有効になっていて JRun サーバーが既に実行されている場合は、アプリケーションがただちにデプロイされます。JRun サーバーが実行されていない場合は、JRun サーバーを起動するとアプリケーションがデプロイされます。

- 3** サーバーログ (<JRun のインストールディレクトリ >/logs/<サーバー名>-event.log) を開き、ColdFusion 9 が正しくデプロイされたことを確認します。

WAR ファイルをデプロイした場合は、展開された "cfusion.war" ファイルのディレクトリ名がコンテキストルートとして使用されます。このコンテキストルートは必要に応じて修正できます。コンテキストルートをスラッシュ (/) に設定すると、CFM ページにアクセスするときの URL にコンテキストルートを含める必要がなくなります。

## コンテキストルートを / に設定するには

- 1 ColdFusion を実行している JRun サーバーを停止します。
- 2 <JRun のインストールディレクトリ >/servers/<サーバー名>/default-ear ディレクトリとそのサブディレクトリを削除します。
- 3 ColdFusion を実行している JRun サーバーを起動します。
- 4 admin JRun サーバーが稼動していることを確認します。
- 5 JRun サーバーインスタンス "admin" を起動し、JRun がインストールされているコンピュータ上のブラウザに <http://localhost:8000> と入力して JRun 管理コンソール (JMC) にアクセスします。
- 6 左ペインでサーバーをクリックします。
- 7 cfusion Web アプリケーションをクリックします。
- 8 コンテキストパスを (/cfusion でなく) / に変更します。
- 9 [適用] をクリックします。
- 10 ColdFusion を実行している JRun サーバーを再起動します。

"rds.war" ファイルは、コンテキストルート /CFIDE (すべて大文字) にデプロイする必要があります。つまり、JRun にデプロイする場合は、CFIDE というディレクトリに "rds.war" ファイルを展開します。



## ColdFusion 9 を WAR ファイルとして JRun 4 にデプロイするには

- 1 cfusion という名前のディレクトリを作成します。

このディレクトリには任意の名前を付けることができますが、この手順では JRun サーバーインスタンスの下に cfusion というディレクトリが存在することを前提としています。このディレクトリは、ColdFusion がデプロイされるコンテキストルートになります。たとえば、ColdFusion をデフォルトの JRun サーバーにインストールする場合、このディレクトリは /opt/jrun4/servers/default/cfusion になります。

- 2 CFIDE という名前のディレクトリを作成します。

このディレクトリ (例: /opt/jrun4/servers/default/CFIDE) は、Remote Development Services (RDS) アプリケーションがデプロイされるコンテキストルートになります。

- 3 JRun Launcher (<JRun のインストールディレクトリ>/bin/jrun) を使用するか、コンソールウィンドウで「<JRun のインストールディレクトリ>/bin/jrun stop <サーバー名>」と入力して、ColdFusion のデプロイ先となる JRun サーバーを停止します。

- 4 コンソールウィンドウで cfusion ディレクトリに移動し、jar ユーティリティを使用して "cfusion.war" ファイルを展開します。入力するコマンドは次のとおりです。

```
cd jrun_root/jrun4/servers/servername/cfusion
java_home/bin/jar -xvf cfusion_install_directory/cfusion.war
```

<JRun のインストールディレクトリ>とは、JRun 4 がインストールされているディレクトリです (C:¥JRun 4 や /opt/jrun4 など)。<サーバー名>の部分は、ColdFusion をデプロイするサーバーの名前に置き換えてください。たとえば、ColdFusion をデフォルトの JRun サーバーにインストールした場合は、<サーバー名>の部分を default に置き換えます。

- 5 CFIDE ディレクトリに移動し、jar ユーティリティを使用して "rds.war" ファイルを展開します。入力するコマンドは次のとおりです。

```
cd jrun_root/jrun4/servers/servername/CFIDE (or cd ../CFIDE)
java_home/bin/jar -xvf cfusion_install_directory/rds.war
```

- 6 JRun 管理コンソール (JMC) の [設定] パネルを使用するか、テキストエディタで <JRun のインストールディレクトリ>/bin/jvm.config ファイルを修正して JVM の設定を行います。次のエントリが JVM クラスパス (java.class.path) に含まれていることを確認します。

```
WEB-INF/flex/jars
```

- 7 COM サポート (Windows のみ) を有効にするには、jIntegra バイナリディレクトリを JVM のネイティブライブラリパス (java.library.path) に追加します。

```
WEB-INF/cfusion/jintegra/bin
WEB-INF/cfusion/jintegra/bin/international
```

- 8 (オプション) CORBA サポートを有効にするには、"vbjorb.jar" ファイルを WEB-INF/cfusion/lib ディレクトリにコピーし、次の引数を定義します。

```
-Xbootclasspath/a:"cf_webapp_root/WEB-INF/cfusion/lib/vbjorb.jar"
```

- 9 グラフ描画 (UNIX のみ) を有効にするには、次の引数を定義します。

```
-Djava.awt.graphicsenv=com.gp.java2d.ExGraphicsEnvironment "
```

次の指定を使用します。

```
com.gp.java2d.ExHeadlessGraphicsEnvironment
```

次の指定は使用しないでください。

```
com.gp.java2d.ExGraphicsEnvironment.
```

- 10 ColdFusion Administrator** でサンドボックスセキュリティを有効にし、アプリケーションサーバーでセキュリティマネージャ (java.lang.SecurityManager) を実行して、次の JVM 引数を定義する必要があります。

```
-Djava.security.manager  
-Djava.security.policy="cf_webapp_root/WEB-INF/cfusion/lib/coldfusion.policy"  
-Djava.security.auth.policy="cf_webapp_root/WEB-INF/cfusion/lib/neo_jaas.policy"
```

- 11 Windows** で cfregistry を使用し、Crystal Reports で cfreport タグを使用し、C++ CFX カスタムタグを使用するには、Java ライブラリパスに cfusion/lib を追加します。次のディレクトリを JVM のネイティブライブラリパス (java.library.path) に追加します。

```
WEB-INF/cfusion/lib
```

- 12 X Windows** なしで Solaris を実行している場合に cfdocument タグを使用するには、次のように "jvm.config" ファイルで headless スイッチを true に設定する必要があります。

```
java.awt.headless=true
```

- 13 JRun Launcher** を使用するか、コマンドウィンドウで「<JRun のインストールディレクトリ>/bin/jrun start <サーバー名>」と入力して、手順 3 で停止したときと同じ方法で JRun サーバーを起動します。オートデプロイが有効になっている場合は、JRun サーバーを起動すると、JRun 4 によりアプリケーションが自動的にデプロイされます。

- 14** サーバーログ (<JRun のインストールディレクトリ>/logs/<サーバー名>-event.log) を開き、ColdFusion が正しくデプロイされたことを確認します。

- 15 ColdFusion Administrator** を起動して、設定ウィザードを実行します。

## IBM WebSphere への ColdFusion 9 のデプロイ

ここでは、ColdFusion 9 を IBM WebSphere Application Server (WAS) 5.1、6.1、Network Deployment (ND) にデプロイする方法について説明します。

次の用語が表す WebSphere および ColdFusion のディレクトリは次のとおりです。

**<WebSphere のルート>** IBM WebSphere Application Server がインストールされているディレクトリ。たとえば、Windows では C:\Program Files\WebSphere、UNIX では /opt/WebSphere になります。

**<ColdFusion Web アプリケーションのルート>** ColdFusion Web アプリケーションがデプロイされるディレクトリ。たとえば、Windows では C:\Program Files\WebSphere\AppServer\installedApps\MyHost\cfusion.ear\cfusion.war、UNIX では /opt/WebSphere/AppServer/installedApps/MyHost/cfusion.ear/cfusion.war になります。

**<Java のホームディレクトリ>** Java 2 ソフトウェア開発キット (J2SDK) のルートディレクトリです (C:\j2sdk1.4.1 など)。

既存の IBM WebSphere 環境に ColdFusion をデプロイする場合は、デプロイを開始する前に EAR ファイルまたは WAR ファイルを手動で展開します。

### EAR ファイルを展開するには

- 1** コンソールウィンドウを開き、EAR ファイルを含むディレクトリに移動して、cfusion-ear という名前の新しいディレクトリを作成します。

```
md cfusion-ear (mkdir cfusion-ear on UNIX)
```

- 2** cfusion-ear ディレクトリに移動し、jar コマンドを使用して "cfusion.ear" ファイルを展開します。

```
cd cfusion-ear  
java_home/bin/jar -xvf ../cfusion.ear
```

これにより、"cfusion.ear" ファイルが "cfusion.war" と "rds.war" に展開されます (インストールウィザードを実行したときにコンテキストルートとして / を指定した場合、"rds.war" には展開されません)。

- 3 cfusion-ear に、cfusion-war という名前の新しいディレクトリを作成します。

```
md cfusion-war (mkdir cfusion-war on UNIX)
```

- 4 cfusion-war ディレクトリに移動し、jar コマンドを使用して "cfusion.war" ファイルを展開します。

```
cd cfusion-war  
java_root/bin/jar -xvf ../cfusion.war
```

これにより、"cfusion.war" ファイルが展開されます。

- 5 (rds.war がある場合) 1 つ上のレベルの cfusion-ear に移動し、rds-war という名前の新しいディレクトリを作成します。

```
cd ..  
md rds-war (mkdir rds-war on UNIX)
```

- 6 (rds.war がある場合) rds-war ディレクトリに移動し、jar コマンドを使用して rds.war を展開します。

```
cd rds-war  
java_root/bin/jar -xvf ../rds.war
```

これにより "rds.war" が展開されます。

- 7 1 つ上のレベルの "cfusion-ear" ファイルに移動し、"cfusion.war" ファイルと "rds.war" ファイルを削除します。

```
cd ..  
del cfusion.war (rm cfusion.war on UNIX)  
del rds.war (rm rds.war on UNIX)
```

- 8 cfusion-ear/META-INF/application.xml ファイルをテキストエディタで開きます。

- 9 web-uri 要素を "cfusion.war" から "cfusion-war" (または展開した "cfusion.war" ファイルを含むディレクトリ名) に変更します。rds.war の web-uri 要素を rds-war に変更します。web-uri 要素のディレクトリ名には、ドット (.) を含めることができません。

- 10 "application.xml" ファイルを保存します。

WebSphere ND では、1 台のコンピュータにアプリケーションサーバーのクローンを複数デプロイすることを一般に "垂直クラスタリング" と言います。垂直クラスタリングでは、コンピュータの処理能力を活用して、より高いレベルの効率化を図れます。ただし、全体的なコンピュータ障害が発生すると、すべてのアプリケーションサーバーインスタンスが利用できなくなります。垂直クラスタにデプロイされたアプリケーションは同じファイルシステムを共有します。複数のコンピュータに複数のアプリケーションサーバーをデプロイすることを一般に "水平クラスタリング" と言い、最高レベルのフェイルオーバーとスケーリングが実現されます。ColdFusion 9 をクラスタ環境にデプロイする手順は、クラスタリング方法に関係なく同じです。これは、WebSphere Network Deployment Manager でクラスタが管理されるからです。

LiveCycle Data Services ES を使用するには、WebSphere 5.1.1 Business Integration が実行されている必要があります。

## ColdFusion 9 を WebSphere 5.1 または 6.1 にデプロイするには

- 1 IBM WebSphere Application Server が起動していない場合は起動します。
- 2 IBM WebSphere 管理コンソールが起動していない場合は開きます。
- 3 [Applications]-[Install New Application] を選択します。
- 4 [Preparing for the Application Installation] ページが表示されたら、ローカルファイルシステム用のテキストボックスに、ColdFusion のインストール時にインストールした EAR ファイルのパス (たとえば、C:\ColdFusion9\cfusion.ear) を入力します。

WebSphere が動作しているシステム (つまり localhost) 以外のブラウザから管理コンソールを実行している場合は、[Remote file system] オプション (WebSphere 5.1 の場合は [Server Path]) を使用します。これにより、サーバーのファイルシステム上のディレクトリを参照できるようになります。

- 5 [Context Root] ボックスは空欄のままにして [Next] をクリックします。
- 6 2 番目の [Select Installation Options] ページ (WebSphere 5.1 の場合は [Preparing for the Application Installation] ページ) のデフォルト値が適切である場合は変更を加えずに [Next] をクリックします。  
場合によっては [Application Security Warnings] ページが表示され、このページの下部に "ADMA0080W: A template policy file without any permission set is included in the 1.2.x enterprise application." で始まるメッセージが表示されることがあります。この警告は無視してもかまいません。
- 7 複数のアプリケーションサーバーがある場合は、ColdFusion アプリケーションと RDS サポートをインストールするアプリケーションサーバーを選択し、[Next] をクリックします。
- 8 LiveCycle Data Services ES をインストールするように選択した場合は、[Map Resource References to resources] パネルが表示されます。リソース `wm/MessagingWorkManager` のターゲットとして「`wm/default`」と入力します。
- 9 [Map Virtual Hosts for Web Modules] パネルが表示されたら、ColdFusion 9 アプリケーションと RDS (Remote Development Services) サポートをインストールする仮想ホストを選択し、[Next] をクリックします。  
RDS の仮想ホストとポートは、ColdFusion 9 と同じである必要があります。
- 10 [Summary] パネルが表示されたら、インストール設定を確認し、[Finish] をクリックします。
- 11 [Installing] ページに "Application Adobe ColdFusion 9 Installed Successfully" というメッセージが表示されたら、[Save To Master Configuration] を選択し、[Save] ページにある [Save] をクリックして、ワークスペースを保存します。  
アプリケーション名をデフォルト値から変更した場合は、その名前がメッセージに表示されます。
- 12 Adobe ColdFusion 9 という名前のエンタープライズアプリケーションを起動します。
- 13 ColdFusion Administrator を表示して、設定ウィザードを実行します。  
**注意:** アプリケーションサーバーで使用するバージョンに対応する `tools.jar` を、`cfusion/lib` ディレクトリにコピーします。

## ColdFusion 9 を WebSphere ND にデプロイするには

- 1 IBM WebSphere Application Server が起動していない場合は起動します。
- 2 IBM WebSphere 管理コンソールが起動していない場合は開きます。
- 3 [Applications]-[Install New Application] を選択します。
- 4 [Preparing for the Application Installation] ページが表示されたら、ローカルファイルシステム用のテキストボックスに、ColdFusion のインストール時にインストールした EAR ファイルのパス (たとえば、`C:\ColdFusion9\cfusion.ear`) を入力します。  
WebSphere が動作しているシステム (つまり `localhost`) 以外のブラウザから管理コンソールを実行している場合は、[Remote file system] オプション (WebSphere 5.1 の場合は [Server Path]) を使用します。これにより、サーバーのファイルシステム上のディレクトリを参照できるようになります。
- 5 [Context Root] ボックスは空欄のままにして [Next] をクリックします。
- 6 2 番目の [Select Installation Options] ページ (WebSphere 5.1 の場合は [Preparing for the Application Installation] ページ) のデフォルト値が適切である場合は変更を加えずに [Next] をクリックします。  
場合によっては [Application Security Warnings] ページが表示され、このページの下部に "ADMA0080W: A template policy file without any permission set is included in the 1.2.x enterprise application." で始まるメッセージが表示されることがあります。この警告は無視してもかまいません。
- 7 ColdFusion アプリケーションと RDS サポートをインストールするクラスタを選択し、[Next] をクリックします。

- 8 LiveCycle Data Services ES をインストールするように選択した場合は、[Map Resource References to resources] パネルが表示されます。リソース `wm/MessagingWorkManager` のターゲットとして「`wm/default`」と入力します。
- 9 [Map Virtual Hosts for Web Modules] パネルが表示されたら、ColdFusion 9 アプリケーションと RDS (Remote Development Services) サポートをインストールする仮想ホストを選択し、[Next] をクリックします。  
RDS の仮想ホストとポートは、ColdFusion 9 と同じである必要があります。
- 10 [Summary] パネルが表示されたら、インストール設定を確認し、[Finish] をクリックします。
- 11 [Installing] ページに "Application Adobe ColdFusion 9 Installed Successfully" というメッセージが表示されたら、[Save To Master Configuration] を選択し、[Save] ページにある [Save] をクリックして、ワークスペースを保存します。  
アプリケーション名をデフォルト値から変更した場合は、その名前がメッセージに表示されます。
- 12 Adobe ColdFusion 9 という名前のエンタープライズアプリケーションを起動します。
- 13 ColdFusion Administrator を表示して、設定ウィザードを実行します。  
**注意：**アプリケーションサーバーで使用するバージョンに対応する `tools.jar` を、`cfusion/lib` ディレクトリにコピーする必要があります。

## サンドボックスセキュリティを有効にするには

- 1 ColdFusion サンドボックスセキュリティ機能を使用して Java がファイルやネットワークリソースにアクセスするときの安全性を確保するには、次の操作を行います。
  - a WebSphere 管理コンソールの [Security]-[Secure Administration] パネルで、[Java 2 Security] オプションがオンになっていることを確認します。
  - b [Apply] をクリックし、[Save] をクリックします。
- 2 JVM のセキュリティポリシーファイル "java.policy" の Standard Properties That Can Be Read By Anyone セクションに次の行を追加します (このファイルは、`C:\Program Files\WebSphere\AppServer\java\jre\lib\security\java.policy` などにあります)。

```
grant {  
    permission java.security.AllPermission;  
};
```

## Windows でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

この手順は、オペレーティングシステム固有のバイナリを使用する次の機能をサポートするために必要です。

- C++ で記述された CFX タグ
- Unicode 対応の Microsoft Access ドライバ

この設定を行うには、<ColdFusion Web アプリケーションのルート>\WEB-INF\cfusion\lib ディレクトリにあるバイナリファイルを探すための検索パスを設定します。

## 検索パスを設定するには

- 1 <WebSphere のルート>\AppServer\bin ディレクトリにある "setupCmdLine.bat" ファイルのバックアップコピーを作成します。
- 2 オリジナルのファイルをテキストエディタで開き、SET WAS\_CLASSPATH で始まる行の前に次の行を追加します。

```
SET CF_APPS_PATH=cf_webapp_root\WEB-INF\cfusion\lib
```

`cf_webapp_root` の部分は、Web アプリケーションのルートディレクトリのパスに置き換えてください。たとえば、次のように入力します。

```
SET CF_APPS_PATH=%WAS_HOME%\installedApps%\%WAS_CELL%\ Adobe_ColdFusion_9.ear\cfusion.war\WEB-INF\cfusion\lib;%WAS_HOME%\installedApps%\%WAS_CELL%\ Adobe_ColdFusion_9.ear\cfusion.war\WEB-INF\flex\jars
```

- 3 パスステートメントに次のテキストを追加して、WAS\_CLASSPATH に WAS\_CLASSPATH 変数を追加します。

```
;%CF_APPS_PATH%
```

変更後の WAS\_CLASSPATH 行は次のようになります。

```
SET
WAS_CLASSPATH=%WAS_HOME%/properties;%WAS_HOME%/lib/bootstrap.jar;%WAS_HOME%/lib/j2ee.jar;%WAS_HOME%/lib/lmproxy.jar;%WAS_HOME%/lib/urlprotocols.jar;%CF_APPS_PATH%
```

- 4 ファイルを保存します。

- 5 "setupCmdLine.bat" ファイルの WAS\_PATH 変数に、<ColdFusion Web アプリケーションのルート >¥WEB-INF¥cfusion¥lib ディレクトリの絶対パスを追加します。変更後の WAS\_PATH 行は次のようになります。

```
SET WAS_PATH=%WAS_HOME%\bin;%JAVA_HOME%\bin;%JAVA_HOME%\jre\bin;%PATH%;C:\Program Files\IBM\WebSphere MQ\bin;C:\Program Files\IBM\WebSphere MQ\java\bin;C:\Program Files\IBM\WebSphere MQ\WEMPS\bin;%CF_APPS_PATH%;
```

- 6 ファイルを保存します。

## Windows で COM サポートを有効にするには

Crystal Reports で cfreport タグを使用するには、ColdFusion 9 のインストール後に Windows で Component Object Model (COM) サポートを有効にします。ColdFusion Report Builder や ColdFusion のレポート機能を使用してレポートを作成する場合は、COM サポートを有効にする必要はありません。

- 1 <WebSphere のルート >¥AppServer¥bin ディレクトリにある "setupCmdLine.bat" ファイルのバックアップコピーを作成します。

- 2 オリジナルのファイルを開き、次のコードを、改行を入れずに 1 行として追加します。

```
SET PATH=%PATH%;cf_webapp_root\WEB-INF\cfusion\jintegra\bin;cf_webapp_root\WEB-INF\cfusion\jintegra\bin\international
```

cf\_webapp\_root の部分は、Web アプリケーションのルートディレクトリのパスに置き換えてください。たとえば、次のように入力します。

```
SET PATH=%PATH%;%WAS_HOME%\installedApps%\%WAS_CELL%\AdobeColdFusion9.ear\cfusion.ear\cfusion.war\WEB-INF\cfusion\jintegra\bin;%WAS_HOME%\installedApps%\%WAS_CELL%\Adobe_ColdFusion_9.ear\cfusion.war\WEB-INF\cfusion\jintegra\bin\international
```

- 3 ファイルを保存します。

場合によっては、次の操作を行って Microsoft Type ビューアを登録する必要があります。

- 4 コンソールウィンドウを開き、<ColdFusion Web アプリケーションのルート >¥WEB-INF¥cfusion¥lib ディレクトリに移動します。

- 5 次のコマンドを発行して TypeViewer.dll を登録します。

```
regsvr32 TypeViewer.dll
```

## Solaris または Linux でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

この手順は、オペレーティングシステム固有のバイナリを使用する、C++ で記述された CFX タグをサポートするために必要です。

<ColdFusion Web アプリケーションのルート >/WEB-INF/cfusion/lib ディレクトリにあるバイナリファイルを探すための検索パスを設定する必要があります。

## 検索パスを設定するには

- 1 <WebSphere のルート >/AppServer/bin ディレクトリにある "startServer.sh" ファイルのバックアップコピーを作成します。

この説明では、標準のアプリケーション名 (Adobe ColdFusion 9) を使用して ColdFusion がデプロイされ、その後もアプリケーション名が変更されていないことを前提としています。

- 2 オリジナルのファイルを開き、PLATFORM case ブロックの LD\_LIBRARY\_PATH 行または LIBPATH 行の直前に、次のエントリを改行を入れずに 1 行として追加します。

Solaris の場合 :

```
CFUSION_APPS_PATH=cf_webapp_root/WEB-INF/cfusion/lib
```

**cf\_webapp\_root** の部分は、Web アプリケーションのルートディレクトリのパスに置き換えてください。たとえば、次のように入力します。

```
CF_APPS_PATH="$WAS_HOME"/installedApps/"$WAS_CELL"/  
    Adobe_ColdFusion_9.ear/cfusion.war/WEB-INF/cfusion/lib
```

Linux の場合 :

```
CF_APPS_PATH=cf_webapp_root/WEB-INF/cfusion/lib
```

**cf\_webapp\_root** の部分は、Web アプリケーションのルートディレクトリのパスに置き換えてください。たとえば、次のように入力します。

```
CF_APPS_PATH="$WAS_HOME"/installedApps/"$WAS_CELL"/ Adobe_ColdFusion_9.ear/cfusion.war/WEB-  
INF/cfusion/lib
```

- 3 LD\_LIBRARY\_PATH エントリに CF\_APPS\_PATH 環境変数を追加します。変更後のエントリは次のようになります。

```
LD_LIBRARY_PATH="$WAS_LIBPATH":$LD_LIBRARY_PATH:$CF_APPS_PATH
```

- 4 ファイルを保存し、WebSphere Application Server を再起動します。

## UNIX で ColdFusion のチャートおよびグラフ作成機能を有効にするには

- 1 WebSphere 管理コンソールを開きます。
- 2 左ナビゲーションバーで <ノード名>-[Servers]-[Application Servers] を選択します。
- 3 J2EE アプリケーションサーバー (Server1 など) を選択します。
- 4 [Java and Process Management] で [Process Definition] を選択します。
- 5 [Process Definition] ページの [Additional Properties] ボックスで [Java Virtual Machine] を選択します。
- 6 モニタなしのシステムで ColdFusion 9 を実行している場合は、次のようにします。
  - a ページ下部にある [Additional Properties] ボックスで [Custom Properties] を選択します。
  - b [Custom Properties] ページで [New] を選択し、次のフィールドに値を入力してシステムプロパティを追加します。

```
Name java.awt.headless  
Value true
```

- 7 [OK] をクリックします。
- 8 マスター設定ファイルを保存します。

## RDS を無効にするには

セキュリティ上の理由から、本番サーバー上では RDS を無効にすることをお勧めします。ColdFusion 9 のインストール時に RDS を有効にした場合は、次の手順で無効にすることができます。

RDS を無効にすると、ColdFusion 9 の次の機能が無効になります。

- ColdFusion Administrator の [サーバーのブラウズ] ボタン (このボタンは [ColdFusion マッピング] ページなどにあります)
- ColdFusion Report Builder のクエリービルダーとチャート作成機能

UNIX で RDS を無効にするには

- 1 ColdFusion を停止します。
- 2 WebSphere 管理コンソールで、[Applications]-[Enterprise Applications] パネルを選択し、Adobe ColdFusion 9 アプリケーションを選択して [Stop] をクリックします。
- 3 <ColdFusion Web アプリケーションのルート>¥WEB-INF¥web.xml ファイルと <WebSphere のルート>¥AppServer¥config¥cells¥NodeName¥applications¥<ColdFusion アプリケーション名>.ear¥deployments¥<ColdFusion アプリケーション名>¥cfusion.war¥WEB-INF¥web.xml ファイル (UNIX の場合はそれに相当するパス) を開き、次のように修正します。たとえば、次のファイルを変更します。

Windows で RDS を無効にするには

- 1 ColdFusion の Web モジュールファイル "web.xml" をバックアップします (このファイルは C:\Program Files\WebSphere\AppServer\installedApps\MYNODE\cfusion.ear\cfusion.war\WEB-INF\web.xml または C:\Program Files\WebSphere\AppServer\config\cells\MYNODE\applicationscfusion.ear\deployments\Adobe ColdFusion 9\cfusion.war\WEB-INF\web.xml にあります)。
- 2 オリジナルの "web.xml" ファイルをテキストエディタで開きます。
- 3 次のように、RDS サブレット定義をコメント化します。

```
<!-- <servlet id="coldfusion_servlet_8789"> <servlet-name>RDSServlet</servlet-name> <display-name>RDS Servlet</display-name><servlet-class>coldfusion.bootstrap.BootstrapServlet</servlet-class> <init-param id="InitParam_103401311065856789"><param-name>servlet.class</param-name> <param-value>coldfusion.rds.RdsFrontEndServlet</param-value></init-param> </servlet> -->
```

実際のサブレット定義のテキストは異なる場合があります。

- 4 次のように、RDS サブレットのマッピングをコメント化します。

```
<!-- <servlet-mapping id="coldfusioon_mapping_9"> <servlet-name>RDSServlet</servlet-name> <url-pattern>/CFIDE/main/ide.cfm</url-pattern> </servlet-mapping> -->
```

実際の servlet-mapping id の値は異なる場合があります。

- 5 ファイルを保存します。
  - a ColdFusion 9 アプリケーションを再起動します。
  - b ColdFusion 9 を / 以外のコンテキストルートにインストールした場合は、次の手順に従うことで、RDS リダイレクター Web モジュールを無効にするかアンデプロイすることができます。
- 6 WebSphere 管理コンソールで [<セル名>]-[Applications]-[Enterprise Applications] を選択します。
- 7 Adobe ColdFusion 9 アプリケーションが実行されている場合は停止します。
- 8 Adobe ColdFusion 9 アプリケーションを選択して、[Manage Modules] を選択し、ColdFusion RDS アプリケーションのチェックボックスをオンにして、[Remove] をクリックします。



## Web サービスを有効化するには

Web サービスを有効にするには、`websphere/appserver/java/lib` ディレクトリから `cfusion/lib` ディレクトリに "tools.jar" ファイルをコピーします。

## アプリケーションサーバー設定を適用するには

アプリケーションサーバー設定を適用するには、アプリケーションサーバーを再起動します。

## ColdFusion 9 を設定するには

WebSphere Application Server ND を使用する前に、次の設定が正しく行われていることを確認します。

**イベントゲートウェイ** Socket ゲートウェイインスタンスのスタートアップモードが `manual` に設定されていることを確認します。特に、垂直クラスタを使用する場合は、`Automatic` に設定しないように注意してください。垂直クラスタに含まれるインスタンスを 1 つ選択し、そのインスタンスで Socket ゲートウェイを手動で起動します。

**セッションレプリケーション** ColdFusion 固有のデータ型を使用しないようにするか、それらのデータ型を WDDX にシリアル化してセッションスコープに文字列として格納します。

ColdFusion Administrator :

- 垂直クラスタ環境では、同じサービスに対して同時に変更を加えないようにしてください。
- 水平クラスタ環境では、サーバーごとに固有の ColdFusion Administrator があります。1 度に複数のサーバーを変更することはできません。
- 垂直クラスタ環境では、ColdFusion Administrator によりスケジュールされたタスクが、すべてのサーバー上でスケジュールされます。

**Verity サーバー** 各サーバーコンピュータ上で実行できる Verity 検索サーバーは 1 つのみです。

ColdFusion Verity ライセンスでは、ColdFusion の `cfsearch` タグを使用して複数の Verity 検索サーバーコンピュータを検索することは許可されていません。水平クラスタから中央の Verity 検索サーバーと対話するには、Verity が提供する K2 Enterprise を購入する必要があります。

**Solr サーバー** 各サーバーコンピュータ上で実行できる Solr 検索サーバーは 1 つのみです。

**コンパイル** プリコンパイル済みのクラスを使用し、[信頼できるキャッシュ] の設定が有効になっていることを確認します。

## BEA WebLogic への ColdFusion 9 のデプロイ

ここでは、ColdFusion 9 を BEA WebLogic 7、8.1、9.2、または 10 にデプロイする方法について説明します。BEA WebLogic に ColdFusion 9 をデプロイするには、展開した EAR ファイルまたは WAR ファイルを使用します。

次の用語が表す JRun および ColdFusion のディレクトリは次のとおりです。

**<ColdFusion のインストールディレクトリ>** ColdFusion のインストール時に抽出されたファイルを含むディレクトリです (`C:\cf9` や `/opt/cf9` など)。

**<WebLogic のルート>** WebLogic を含むディレクトリです (`C:\bea` など)。

**<WebLogic ドメインのルート>** ColdFusion がデプロイされている WebLogic ドメインを含むディレクトリです。

**<ColdFusion Web アプリケーションのルート>** ColdFusion Web アプリケーションがデプロイされているディレクトリです (`C:\bea\user_projects\cfdomain\applications\cfusion-war` など)。

**<Java のホームディレクトリ>** Java 2 ソフトウェア開発キット (J2SDK) のルートディレクトリです (`C:\j2sdk1.6` など)。

## WebLogic への ColdFusion 9 のインストール

- 1 ColdFusion インストールウィザードを起動して J2EE 設定を選択します。

インストールウィザードにより、WAR ファイルがインストールディレクトリにコピーされます。

- 2 ColdFusion 9 をデプロイする WebLogic ドメインを決定します。必要な場合は、新しいドメインを作成します。
- 3 ColdFusion 9 は展開されたディレクトリ構造から実行する必要があるため、次の手順で "cfusion.war" ファイルと "rds.war" ファイルを手動で展開し、Web アプリケーションを展開します。

- a コンソールウィンドウを開き、WAR ファイルが存在するディレクトリに移動して、ColdFusion 用の WAR ファイルを格納するためのディレクトリを任意の名前で作成した後 (このディレクトリがコンテキストルートになります)、RDS 用の WAR ファイルを格納するためのディレクトリを CFIDE という名前で作成します。入力するコマンドは次のとおりです。

```
cd cf_install_directory
md cfusion (Windows, mkdir cfusion on UNIX)
md CFIDE (Windows, mkdir CFIDE on UNIX)
```

- b cfusion ディレクトリに移動し、jar コマンドを使用して "cfusion.war" ファイルを展開します。入力するコマンドは次のとおりです。

```
cd cfusion
java_home/bin/jar -xvf ../cfusion.war
```

- c 次のコマンドを使用して、1 レベル上のインストールディレクトリに移動します。

```
cd ..
```

- d CFIDE ディレクトリに移動し、jar コマンドを使用して "rds.war" ファイルを展開します。入力するコマンドは次のとおりです。

```
cd CFIDE
java_home/bin/jar -xvf ../rds.war
```

- 4 オリジナルの "weblogic.policy" ファイルを開きます。WebLogic 10 では、このファイルは <BEA\_HOME>/wls\_server\_10.0/server/lib/ ディレクトリにあります。次の例に示すように、テキストエディタを使用して、default permissions セクションで指定されている限定的なアクセス許可をコメント化して、java.security.AllPermission; というエントリを追加します。

```
...
// default permissions granted to all domains
grant {
  permission java.security.AllPermission;
  /*

    permission java.util.PropertyPermission "java.version", "read";
    permission java.util.PropertyPermission "java.vendor", "read";
    ...
    permission java.util.PropertyPermission "java.vm.name", "read";
  */
};
...
```

- 5 サイト固有の WebLogic デプロイ方法を使用して、cfusion と CFIDE のディレクトリ構造をデプロイします。

- 6 次の jar が起動スクリプトのクラスパスに存在していることを確認します。

```
WEB-INF/cfusion/lib/jintegra.jar
WEB-INF/flex/jars/cfgatewayadapter.jar
WEB-INF/flex/jars/concurrent.jar
```

- 7 コンソールメッセージとサーバーログを参照して ColdFusion 9 が正しくデプロイされたことを確認します。

- 8 ColdFusion Administrator を起動して、設定ウィザードを実行します。

- 9 Adobe またはサードパーティの統合テクノロジーを追加でインストールするには、49 ページの「[統合テクノロジーのインストール](#)」を参照してください。
- 10 59 ページの「[システムの設定](#)」で説明されているようにシステムを設定して管理します。
- 11 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [ 情報源 ] ページで [ マニュアル ] リンクをクリックします。  
**注意：**アプリケーションサーバーで使用するバージョンに対応する tools.jar を、cfusion/lib ディレクトリにコピーする必要があります。

### Windows でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

- 1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを探します。通常、このファイルは "startWebLogic cmd" という名前で、<WebLogic ドメインのルート>\bin ディレクトリに保存されています。
  - 2 このファイルのバックアップコピーを作成します。
  - 3 起動スクリプトを開きます。
  - 4 スクリプトの先頭にある次の基本変数を設定します。
    - CF\_WEB\_INF
    - CF\_SHARED\_LIB
- 例：
- ```
SET CF_WEB_INF=cf_webapp_root\WEB-INF
SET CF_SHARED_LIB=%CF_WEB_INF%\cfusion\lib
```
- 5 起動スクリプトを保存し、WebLogic サーバーを再起動します。

### Windows で COM サポートを有効にするには

- 1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを開きます。通常、このファイルは "startWebLogic cmd" という名前で、<WebLogic ドメインのルート>\bin ディレクトリに保存されています。
  - 2 次の変数を設定します。
    - JINTEGRA\_PATH
    - PRE\_CLASSPATH
    - PRE\_PATH
- 例：
- ```
SET JINTEGRA_PATH= %CF_WEB_INF%\cfusion\jintegra\bin;
%CF_WEB_INF%\cfusion\jintegra\bin\international
SET PRE_CLASSPATH=%CF_SHARED_LIB%\jintegra.jar
SET PRE_PATH=%CF_SHARED_LIB%;%JINTEGRA_PATH%
```

### UNIX でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

- 1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを探します。通常、このファイルは "startWebLogic.sh" という名前で、<WebLogic ドメインのルート>\bin ディレクトリに保存されています。
- 2 このファイルのバックアップコピーを作成します。
- 3 起動スクリプトを開きます。
- 4 スクリプトの先頭にある次の基本変数を設定します。
  - CF\_WEB\_INF

- CF\_SHARED\_LIB

例:

```
CF_WEB_INF=cf_webapp_root/WEB-INF
CF_SHARED_LIB=${CF_WEB_INF}/cfusion/lib
```

- 5 起動スクリプトを保存し、WebLogic サーバーを再起動します。

## UNIX で Verity バイナリファイルへのアクセスを有効にするには

- 1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを開きます。通常、このファイルは "startWebLogic.sh" という名前で、<WebLogic ドメインのルート >%bin ディレクトリに保存されています。

- 2 次の変数を設定します。

- CF\_SHARED\_LIBS
- LD\_LIBRARY\_PATH

例:

```
# Set up shared library path for ColdFusion to pick up Verity
# shared libs. Use path syntax - entries separated by colon.
# Use _ss026/bin for Solaris and _ilnx21/bin for Linux
# CF_SHARED_LIBS=${CF_SHARED_LIB}:${CF_SHARED_LIB}/_ss026/bin"
CF_SHARED_LIBS=${CF_SHARED_LIB}:${CF_SHARED_LIB}/_ilnx21/bin"
LD_LIBRARY_PATH=${CF_SHARED_LIBS}:${LD_LIBRARY_PATH}"
```

- 3 起動スクリプトを保存し、WebLogic サーバーを再起動します。

## Windows で ColdFusion セキュリティを有効にするには

- 1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを開きます。通常、このファイルは "startWebLogic cmd" という名前で、<WebLogic ドメインのルート >%bin ディレクトリに保存されています。

- 2 次の変数を設定または追加します。

- CF\_SECURITY\_JVM\_OPTIONS
- MEM\_ARGS

JRockit を使用しない場合は、起動スクリプトに含まれる既存の MEM\_ARGS 行に -Xms32m -Xmx512m -Xss64k -XX:MaxPermSize=128m を追加します。

JRockit を使用する場合は、起動スクリプトに含まれる既存の MEM\_ARGS 行に -Xms32m -Xmx512m -Xss64k を追加します。

- JAVA\_OPTIONS

起動スクリプトに含まれる既存の JAVA\_OPTIONS 行に CF\_SECURITY\_JVM\_OPTIONS 変数を追加します。

例:

```
@rem Security options are only required if enabling sandbox security
SET CF_SECURITY_JVM_OPTIONS="-Djava.security.manager"
@rem You must append %CF_SECURITY_JVM_OPTIONS% to the existing JAVA_OPTIONS value.
set JAVA_OPTIONS=-Dweblogic.security.SSL.trustedCAKeyStore=C:\BEA_HOME\server\lib\cacerts
%CF_SECURITY_JVM_OPTIONS% %CF_COM_JVM_OPTIONS%
@rem You must append the following to the existing MEM_ARGS value.
@rem -Xms32m -Xmx512m -Xss64k -XX:MaxPermSize=128m
```

- 3 起動スクリプトを保存し、WebLogic サーバーを再起動します。

## UNIX で ColdFusion のセキュリティおよびグラフ作成機能を有効にするには

1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを開きます。通常、このファイルは "startWebLogic.sh" という名前で、<WebLogic ドメインのルート >¥bin ディレクトリに保存されています。

2 次の変数を設定または追加します。

- CF\_SECURITY\_JVM\_OPTIONS
- CF\_GRAPHING\_JVM\_OPTIONS
- MEM\_ARGS

JRockit を使用しない場合は、起動スクリプトに含まれる既存の MEM\_ARGS 行に -Xms32m -Xmx512m -Xss64k -XX:MaxPermSize=128m を追加します。

JRockit を使用する場合は、起動スクリプトに含まれる既存の MEM\_ARGS 行に -Xms32m -Xmx512m -Xss64k を追加します。

- JAVA\_OPTIONS

起動スクリプトに含まれる既存の JAVA\_OPTIONS 行に CF\_SECURITY\_JVM\_OPTIONS 変数を追加します。

例：

```
# Security options are only required if enabling sandbox security
CF_SECURITY_JVM_OPTIONS="-Djava.security.manager"
CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS="-Djava.awt.headless=true"
# You must append ${CF_SECURITY_JVM_OPTIONS} and ${CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS}
# to the existing JAVA_OPTIONS value.
# JAVA_OPTIONS="default java options ${CF_SECURITY_JVM_OPTIONS} ${CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS}"
# You must append the following to the MEM_ARGS variable coded
# in the server startup file:
# "-Xmx512m -XX:MaxPermSize=128m"
```

3 起動スクリプトを保存し、WebLogic サーバーを再起動します。

## Oracle Application Server 10g への ColdFusion 9 のデプロイ

ここでは、ColdFusion 9 の J2EE 設定がインストール済みであり、デプロイする EAR ファイルが C:¥ColdFusion\_J2ee¥cfusion.ear に存在することを前提としています。

ColdFusion を Oracle 10g にデプロイする前に、以下の条件が満たされていることを確認してください。

- Oracle Application Server 10g がインストールされていて動作中であること。
- ColdFusion インストール用の OC4J J2EE コンテナが設定されていること。他のアプリケーションとの間で起こり得るクラスパス問題を回避するため、ColdFusion 専用の OC4J インスタンスを作成することをお勧めします。
- (推奨事項。必須ではありません) OC4J インスタンスが作成されていること。これを作成するには、Enterprise Manager を使用して Oracle Application Server に接続し、OC4J インスタンスを作成します。デフォルトの HTTP URL は http://machineName:1810 です。1810 が利用できない場合は、その次に利用可能なポートが順に使用されます。
- ヒープサイズを 256MB 以上に増やしていること (512MB 以上を推奨)。この設定を行うには、Enterprise Manager で OC4J インスタンスを選択し、[Administration]-[Server Properties] を選択します。[Command Line Options] カテゴリで、-Xmx256M を [Java Options] に追加してから、OC4J インスタンスを再起動します。

## ColdFusion 9 を Oracle 10g にデプロイするには

1 アプリケーションサーバーと OC4J インスタンスが動作中であることを確認します。

2 Windows のコマンドプロンプトを開き、<Oracle のインストールディレクトリ >/dcm/bin ディレクトリに移動します。

- 次に示すようにコマンドラインツール `dcmctl.bat` を使用して ColdFusion 9 アプリケーションをデプロイします。

```
Dcmctl deployapplication -application cf_app -file c:\ColdFusion_J2ee\cfusion.ear -component oc4j_instance
```

- "<Oracle のインストールディレクトリ >/j2ee/oc4j\_instance/config/java2.policy" ファイルを編集し、次の行をファイルの末尾に追加します。

```
grant { permission java.security.AllPermission; };
```

- ColdFusion Administrator を起動して、移行ウィザードを実行します。

**注意：** Oracle AS で LiveCycle Data Services ES を有効にするには、ColdFusion Administrator で、JVM 引数 -Doc4j.jmx.security.proxy.off=true を指定します。

C++ で記述された CFX タグはオペレーティングシステムごとに異なるバイナリファイルを使用するため、これらのタグをサポートするための設定を行う必要があります。

### Windows でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

- Enterprise Manager を使用して Oracle AS 10g に接続します。
- [<OC4J インスタンス >]-[Administration]-[Server Properties] に移動します。
- [Environment Variables] カテゴリで [Add Environment Variable] を選択します。
- 名前として「PATH」と入力します。
- 値として「\$ORACLE\_HOME\j2ee\oc4j\_instance\applications\cf\_app\cfusion\WEB-INF\cfusion\lib;」と入力します。
- [Append] オプションがオンになっていることを確認します。
- [Apply] を選択します。
- 再起動を要求するメッセージが Enterprise Manager に表示されたら、再起動オプションを選択します。

### Solaris または Linux でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

- Enterprise Manager を使用して Oracle AS 10g に接続します。
- [<OC4J インスタンス >]-[Administration]-[Server Properties] に移動します。
- [Environment Variables] カテゴリで [Add Environment Variable] を選択します。
- 名前として「LD\_LIBRARY\_PATH」と入力します。
- 値として「\$ORACLE\_HOME/j2ee/oc4j\_instance /applications/cf\_app /cfusion/WEB-INF/cfusion/lib;」と入力します。
- [Append] オプションがオンになっていることを確認します。
- [Apply] を選択します。
- 再起動を要求するメッセージが Enterprise Manager に表示されたら、再起動オプションを選択します。

Crystal Reports で `cfreport` タグを使用するには、ColdFusion 9 のインストール後に Windows で Component Object Model (COM) サポートを有効にする必要があります。ColdFusion Report Builder や ColdFusion のレポート作成機能を使用してレポートを作成する場合は、COM サポートを有効にする必要はありません。

### COM サポートを有効にするには

- Oracle AS 10g Enterprise Manager で、 [<OC4J インスタンス >]-[Administration]-[Server Properties] に移動します。

- 2 [Environment Variables] カテゴリで、PATH エントリが存在することを確認します。PATH エントリが存在しない場合は、オペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための手順に従ってください。
- 3 値として \$ORACLE\_HOME%j2ee%oc4j\_instance%applications%cf\_app%cfusion%WEB-INF%cfusion%jintegra%bin;  
\$ORACLE\_HOME%j2ee%oc4j\_instance%applications%cf\_app %cfusion%WEB-INF%cfusion%jintegra%bin%international を追加します。
- 4 [Append] オプションがオンになっていることを確認します。
- 5 [Apply] を選択します。
- 6 再起動を要求するメッセージが Enterprise Manager に表示されたら、再起動オプションを選択します。
- 7 場合によっては、次の操作を行って Microsoft Type ビューアを登録する必要があります。
  - a コンソールウィンドウを開き、<ColdFusion Web アプリケーションのルート >%WEB-INF%cfusion%lib に移動します。
  - b 次のコマンドを発行して TypeViewer.dll を登録します。

```
regsvr32 TypeViewer.dll
```

ここでは、AIX、Linux、Solaris 上で ColdFusion 9 のチャートおよびグラフ作成機能を使用できるようにアプリケーションサーバーを設定する方法について説明します。Windows では、チャートおよびグラフ作成機能を有効にするためにこの手順を行う必要はありません。

### チャートおよびグラフ作成機能を有効にするには

- 1 Oracle AS 10g Enterprise Manager で、[<OC4J インスタンス >]-[Administration]-[Server Properties] に移動します。
- 2 [Command Line Options] カテゴリの [Java Option] に次のエントリがない場合は追加します。

```
-Djava.awt.headless=true
```
- 3 [Apply] を選択します。
- 4 再起動を要求するメッセージが Enterprise Manager に表示されたら、再起動オプションを選択します。

### RDS Web モジュールを無効にするには

ColdFusion 9 を / 以外のコンテキストルートにインストールした場合は、次の手順に従うことで、RDS リダイレクター Web モジュールをアンデプロイしなくても RDS リダイレクターを無効化できます。

RDS サブレットを無効にせずに RDS リダイレクターのみを無効化（またはアンデプロイ）する場合は、引き続き ColdFusion アプリケーションのコンテキストルートを使用して RDS サービスを利用できます。ただし、RDS を使用すると同時にコンテキストルートとして / を必要とするツール (Dreamweaver や以前のバージョンの HomeSite など) は動作しません。

- 1 Oracle AS 10g Enterprise Manager で、[<OC4J インスタンス >]-[Applications] を選択します。
- 2 Adobe ColdFusion 9 アプリケーションを選択し、[Edit] を選択します。
- 3 [Administration] カテゴリで、[Advanced Properties] を選択します。
- 4 [Configuration Files] カテゴリで orion-application.xml を選択します。
- 5 次に示すように RDS Web モジュールをコメント化します。

```
<!--  
<web-module id="rds" path="rds.war" />  
-->
```

- 6 変更を適用します。

## 7 OC4J インスタンスを再起動します。

RDS Web モジュールを有効にするには、[Enabled] オプションをオンにしてこの手順を繰り返します。

## JBoss Application Server への ColdFusion 9 のデプロイ

ColdFusion 9 では、以下の仕様に基づいて JBoss をサポートしています。

- JBoss 4.2 または 5.0.1 (Tomcat 6.0.x サーバーコンテナを使用)
- Sun JDK 1.5 および Sun JDK 1.6
- ホスト OS - Windows 2003 Server SP1、Solaris 10、および RH Linux 4AS/5 AS

ColdFusion 9 に対しては、次のような JBoss の使用状況を想定したテストは実施されていません。

- 1 JBoss で Tomcat 以外のサーブレットコンテナが使用されている
- 2 上記以外のオペレーティングシステムが使用されている

**注意：**コンテキストルートとして / を指定して既にアプリケーションを使用している場合は、"cfusion-ear" ファイルのコンテキストルートとして / 以外のパスを使用します。ColdFusion をインストールするときに / を指定した場合は、cfusion-ear/META-INF/application.xml ファイルをテキストエディタで開き、context-root 要素を修正することによってコンテキストルートを変更できます。"cfusion-ear" ファイルをデプロイした後に ColdFusion ページへアクセスするには、http://<ホスト名>:<ポート番号>/<コンテキストルート>/<ページ名>.cfm という形式の URL を指定します。

既にデプロイされている ColdFusion をアップデートする場合は、ColdFusion 9 をデプロイする前に、J2EE から旧バージョンの ColdFusion をアンデプロイします。

既存の JBoss 環境に ColdFusion をデプロイする場合は、デプロイを開始する前に EAR ファイルまたは WAR ファイルを手動で展開します。

このセクションでは、次の表記規則を使用しています。

**JBoss\_HOME** JBoss がインストールされているディレクトリ。例：C:\jboss-4.0.5SP1 (Windows の場合) または /usr/local/jboss-4.0.5.SP1 (UNIX の場合)

**JBoss\_DEPLOY\_DIR** JBoss 内のアプリケーションデプロイディレクトリ。例：C:\jboss-4.0.5SP1\server\default\deploy

**CF\_WEBAPP\_ROOT** ColdFusion がデプロイされているディレクトリ。例：C:\jboss-4.0.5SP1\server\default\deploy\cfusion.ear\cfusion.war

**TEMP\_LOCATION** cfusion.ear ファイルを展開するときに使用する一時ディレクトリ。

### JBoss に ColdFusion をデプロイするには

1 ColdFusion を JBoss 4.2 または JBoss 5.01 にデプロイできるようにするには、"cf-j2ee-readme.txt" ファイルに記載されている標準の手順ではなく、次の手順に従ってください。

- a ディレクトリ名に含まれるピリオドはハイフンに置き換えず、そのまま残します (例：\deploy\cfusion.ear\cfusion.war)。
- b "application.xml" には変更を加えないでください。

2 JAVA\_HOME を適切な JDK に設定します。

3 J2EE デプロイオプションを使用し、EAR ファイルを作成するオプション (デフォルト) を選択して、ColdFusion をインストールします。

インストールプログラムにより、インストールディレクトリに "cfusion.ear" ファイルが作成されます。



- 4 "cfusion.ear" ファイルを TEMP\_LOCATION¥cfusion.ear フォルダに展開します。cfusion.ear フォルダに、"cfusion.war" ファイル、"rds.war" ファイル、META-INF フォルダが作成されます。
- 5 cfusion.ear フォルダの下に cfusion および rds という名前のフォルダを作成し、"cfusion.war" ファイルと "rds.war" ファイルをそれぞれのフォルダに展開します。
- 6 圧縮された状態の "cfusion.war" ファイルと "rds.war" ファイルを削除します。
- 7 cfusion と rds フォルダの名前をそれぞれ cfusion.war と rds.war に変更します。
- 8 実行中の JBOSS を停止します。
- 9 TEMP\_LOCATION¥cfusion.ear フォルダを JBOSS\_DEPLOY\_DIR フォルダ内にコピーまたは移動します。

この結果、ディレクトリ構造は次のようになります。

```
JBoss 4.2.0 or JBoss 5.01
  server
    default
      deploy
        cfusion.ear
          cfusion.war
          META-INF
          rds.war
```

- 10 (Windows) 次の方法で JBOSS\_HOME¥bin¥run.bat ファイルを編集します。

- a JAVA\_OPTS に JVM (-Xmx512m) パラメータが存在しない場合は、このパラメータを追加します。
- b JAVA\_OPTS に -XX:MaxPermSize=128m を追加して PermanentGeneration ヒープのサイズを設定します。

このパラメータが存在しないと、JVM で java.lang.OutOfMemoryError エラーが発生する可能性があります。詳細については、<http://wiki.jboss.org/wiki/Wiki.jsp?page=PermanentGeneration> を参照してください。

- c WEB-INF/flex/jars にある jar がクラスパスに含まれていることを確認します。
- d run.bat ファイルを保存します。
- e JBOSS\_HOME¥bin¥run.bat ファイルを実行してサーバーを起動します。

**注意：** Apache Derby データベースを使用する場合は、"run.bat" に JAVA\_OPTS=%JAVA\_OPTS% -Djboss.platform.mbeanserver を追加します。これを追加すると Apache Derby によって JMX 管理サーバーが起動されなくなります (JMX 管理サーバーは JBoss と競合する可能性があります)。

- 11 (Linux) 次の方法で JBOSS\_HOME/bin/run.conf ファイルを編集します。

- a JAVA\_OPTS で、-Xmx128m. を -Xmx512m. に変更します。
- b JAVA\_OPTS に -XX:MaxPermSize=128m を追加します。
- c run.conf ファイルを保存します。
- d JBOSS\_HOME/bin/run.sh ファイルを実行してサーバーを起動します。

オペレーティングシステム固有のバイナリを使用できるように ColdFusion を設定します。この手順は、オペレーティングシステム固有のバイナリを使用する次の機能をサポートするために必要です。

- C++ で記述された CFX タグ
- Unicode 対応の Microsoft Access ドライバ (Windows のみ)

次に示すオペレーティングシステムごとの手順に従い、必要なバイナリファイルを探すための検索パスを設定します。これらのファイルは、CF\_WEBAPP\_ROOT¥WEB-INF¥cfusion¥lib ディレクトリにあります。

**注意：** Apache Derby データベースを使用する場合は、"run.bat" に次の行を追加します。JAVA\_OPTS="\$JAVA\_OPTS -Djboss.platform.mbeanserver"。これを追加すると Apache Derby によって JMX 管理サーバーが起動されなくなります (JMX 管理サーバーは JBoss と競合する可能性があります)。

## Windows でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

1 JBoss Server が停止していることを確認します。

2 JBOSS\_HOME\bin\run.bat に次の行を追加します。

```
set CF_LIB_PATH=JBOSS_DEPLOY_DIR\cfusion.ear\cfusion.war\WEB-INF\cfusion\lib
set PATH=%PATH%;%CF_LIB_PATH%
```

3 次のようにして、JBOSS\_DEPLOY\_DIR にある run.bat ファイルを編集します。

a 次のテキストを探します。

```
@echo off
rem -----
rem JBoss Bootstrap Script for Win32
rem -----
```

4 このテキストの下に 3 行挿入してペーストします。

```
set CF_LIB_PATH=JBOSS_DEPLOY_DIR\cfusion.ear\cfusion.war\WEB-INF\cfusion\lib
set PATH=%PATH%;%CF_LIB_PATH%
```

5 ファイルを保存し、サーバーを起動します。

**注意：**アプリケーションサーバーで使用するバージョンに対応する tools.jar を、cfusion/lib ディレクトリにコピーする必要があります。

## Linux でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

1 JBoss Server が停止していることを確認します。

2 JBOSS\_HOME/bin/run.sh に次の行を追加します。

```
export LD_LIBRARY_PATH=$LD_LIBRARY_PATH:CF_WEBAPP_ROOT/WEB-INF/cfusion/lib
```

3 ファイルを保存し、サーバーを起動します。

## COM サポートを有効にするには (Windows のみ)

1 JBoss Server が停止していることを確認します。

2 JBOSS\_HOME\bin\run.bat に次の行を追加します。

```
set CF_LIB_PATH=%CF_LIB_PATH%;CF_WEBAPP_ROOT\WEB-INF\cfusion\jintegra\bin;CF_WEBAPP_ROOT\WEB-
INF\cfusion\jintegra\bin\international
```

3 ファイルを保存し、サーバーを起動します。

## Flex との通信を有効にするには

LiveCycle Data Services ES で RMI を使用するように ColdFusion を設定すると、ColdFusion はデフォルトでポート 1099 でリスンします。ただし、通常は ColdFusion より先に JBoss がこのポートでのリスニングを開始するため、例外が発生します。別の RMI ポートを使用するように ColdFusion を設定するには、ColdFusion Administrator の [Java と JVM] ページにある [JVM 引数] テキスト領域で次のように指定します。

```
-Dcoldfusion.rmiport=nnnn
```

nnn の部分は、使用されていないポート番号に置き換えてください。別の JVM サーバー上で実行されている LiveCycle Data Services ES サーバーから RMI を使用して ColdFusion に接続する場合は、同じ JVM 引数を使用して Flex サーバーを起動する必要があります。

## RDS を無効にするには

1 ColdFusion を停止します。

- 2 JBOSS\_DEPLOY\_DIR¥cfusion.ear¥cfusion.war¥WEB-INF¥web.xml に含まれる次の行をコメント化します。

```
<!-- <servlet id="macromedia_servlet_8789">
  <servlet-name>RDSServlet</servlet-name>
  <display-name>RDS Servlet</display-name>
  <servlet-class>coldfusion.bootstrap.BootstrapServlet</servlet-class>
  <init-param id="InitParam_103401311065856789">
    <param-name>servlet.class</param-name>
    <param-value>coldfusion.rds.RdsFrontEndServlet</param-value>
  </init-param>
</servlet> -->
<!-- <servlet-mapping id="macromedia_mapping_9">
  <servlet-name>RDSServlet</servlet-name>
  <url-pattern>/CFIDE/main/ide.cfm</url-pattern>
</servlet-mapping> -->
```

- 3 ファイルを保存し、ColdFusion を起動します。

### セキュリティ関連のエラーを回避するには

JBOSS の起動時にセキュリティ関連のエラー (Java およびセキュリティについて言及したエラー) が発生する場合は、"run.bat" ファイルを次のように編集します。

- 1 -Xmx512m パラメータが含まれる行に移動します。
- 2 -Dprogram.name=%PROGNAME% というテキストを -Dcoldfusion.disablejsafe=true %JAVA\_OPTS% に変更します。

セキュリティエラーは、ColdFusion がより高度なセキュリティ標準を実現するために使用する追加の暗号化ソフトウェアを、JBoss の特定のバージョンで処理できないために発生します。EJB3 など、一部の機能を利用するには JDK 1.5 をインストールする必要があります。

## ColdFusion のアンデプロイ

J2EE 設定の ColdFusion をアンデプロイするには、アプリケーションサーバー固有のアンデプロイツールと方法を使用します。

### J2EE 設定の ColdFusion をアンデプロイするには

- 1 アプリケーションサーバーで使用されている JVM 引数 java.args および java.library.path から、ColdFusion 関連の指定をすべて削除します。
- 2 (Windows のみ) ODBC サポートをインストールした場合は、<ColdFusion Web アプリケーションのルート>¥WEB-INF¥cfusion¥db¥SequeLink Setup ディレクトリに移動し、"RemoveSequeLink.bat" ファイルを実行して、ODBC Windows サービスを削除します。
- 3 必要に応じて、ColdFusion Web アプリケーションのルートにある CFM ページをコピーして保存します。
- 4 アプリケーションサーバー固有のアンデプロイ機能を使用して ColdFusion Web アプリケーションをアンデプロイします。
  - a JRun 4 の場合は、<JRun のインストールディレクトリ>/server/<サーバー名>/cfusion-ear ディレクトリを削除します。
  - b Oracle 10g の場合は、Enterprise Manager を使用して [<OC4J インスタンス>]-[Applications] に移動し、Adobe ColdFusion 9 アプリケーションを選択して、[Undeploy] を選択します。その後、Enterprise Manager のホームページに戻り、 [<OC4J インスタンス>]-[Administration]-[Server Properties] に移動し、次の値を含む PATH 変数を選択して、[Remove] を選択します。

```
$ORACLE_HOME\j2ee\oc4j_instance\applications\cf_app\cfusion\WEB-INF\cfusion\lib;  
$ORACLE_HOME\j2ee\oc4j_instance\applications\cf_app\cfusion\WEB-INF\cfusion\jintegra\bin;  
$ORACLE_HOME\j2ee\oc4j_instance\applications\cf_app\cfusion\WEB-  
INF\cfusion\jintegra\bin\international
```

- c WebLogic の場合は、WebLogic Administrator を開き、WebLogic Administration Console (<http://hostname:portnumber/console>) を開いて、[<ドメイン名>]-[Deployments]-[Applications] に移動します。ColdFusion MX アプリケーションの右にあるごみ箱をクリックし、[Yes] をクリックします。WebLogic ドメインの起動スクリプトを開き、次のように ColdFusion 固有のエントリを削除します。

```
CF_WEB_INF  
CF_SHARED_LIB_DIR (also remove CF_SHARED_LIB_DIR from PRE_PATH)  
LD_LIBRARY_PATH (UNIX only, remove ${CF_SHARED_LIBS})  
(Windows only) JINTEGRA_PATH (also remove JINTEGRA_PATH from PRE_PATH)  
(Windows only) Remove jintegra.jar from PRE_CLASSPATH  
CF_SECURITY_JVM_OPTIONS  
CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS  
Remove ColdFusion arguments from MEM_ARGS  
Remove CF_SECURITY_JVM_OPTIONS and CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS from JAVA_OPTIONS
```

- 5 必要に応じて、アプリケーションサーバーを再起動します。

## 第5章：統合テクノロジーのインストール

ColdFusion 9 には、Adobe およびサードパーティによって開発されたテクノロジーとの統合機能があります。これらのコンポーネントは ColdFusion 9 と同時にインストールできる場合もありますが、ColdFusion のインストールとは別にいくつかの作業を必要とする場合もあります。

### Adobe およびサードパーティの統合テクノロジー

ColdFusion 9 には、Adobe およびサードパーティによって開発されたテクノロジーとの統合機能があります。

### Dreamweaver 拡張機能のインストール

- 1 configuration/taglibraries/content/codehints フォルダとその内容のバックアップコピーを作成します。
- 2 "cf9dreamweaverextensions.mxp" を Adobe Web サイトからダウンロードするか、ColdFusion 9 の DVD からコピーします。
- 3 "cf9dreamweaverextensions.mxp" ファイルをダブルクリックします。

Dreamweaver には ColdFusion 9 の新規および更新済みのタグと関数に関するヒントやヘルプをすべて組み込むことができます。

### Report Builder のインストール

ColdFusion のレポート作成機能は、サーバーサイドのランタイム処理と ColdFusion Report Builder で構成されます。サーバーサイドの処理は任意のプラットフォームで利用できますが、ColdFusion Report Builder は Windows のみで動作します。

#### ColdFusion Report Builder をインストールするには

- 1 次のいずれかの場所にある ColdFusion Report Builder のインストーラにアクセスします。
  - DVD - DVD ブラウザを使用して、ColdFusion レポート機能のオプションを選択します。
  - Adobe Web サイト - [www.adobe.com/go/report\\_builder\\_jp/](http://www.adobe.com/go/report_builder_jp/) にアクセスします。
- 2 "ColdFusion\_9\_ReportBuilder\_WWE.exe" ファイルをダブルクリックします。
- 3 インストールに関する指示に従ってください。

## Verity 検索サーバーのインストール

Mac OS X または AIX を実行しているコンピュータに ColdFusion をインストールする場合を除き、デフォルトでは、Verity 検索サーバーは ColdFusion と同じコンピュータにインストールされます。次のいずれかの条件に当てはまる場合、Verity を使用した検索を有効にするには、Verity 検索サーバーを別途にインストールします。

- ColdFusion をインストールしたコンピュータとは異なるコンピュータに Verity 検索サーバーをインストールする場合
- Mac OS X または AIX を実行しているコンピュータに ColdFusion をインストールした場合  
インストーラの質問に回答して、インストールを開始する必要があります。

1 "どこにインストールしますか?" \_\_\_\_\_

アプリケーションサーバーディレクトリのサブディレクトリ以外の場所を指定することをお勧めします。

2 このマシンがリクエストを受け入れる ColdFusion Server の IP アドレス \_\_\_\_\_

この IP アドレスは、ColdFusion と異なるコンピュータに Verity 検索サーバーをインストールする場合にのみ指定する必要があります。この IP アドレスを指定しない場合は、デフォルトで 127.0.0.1 (つまり localhost) が使用されます。

### Verity 検索サーバーを別途にインストールするには

1 次に示すプラットフォーム固有のインストーラを Adobe Web サイト [www.adobe.com/go/verity\\_jp](http://www.adobe.com/go/verity_jp) からダウンロードするか、ColdFusion 9 DVD からコピーします。

- Windows - ColdFusion\_9\_Verity\_win.exe
- Linux - ColdFusion\_9\_Verity\_linux.bin
- Solaris - ColdFusion\_9\_Verity\_solaris.bin

2 コンピュータで現在実行中のアプリケーションをすべて閉じます。

3 適切なコマンドを使って、プラットフォーム固有のインストーラを実行します。

**注意:** UNIX システムではコンソールインストールだけを利用できます。

4 (UNIX のみ) Verity 検索サーバーを自動的に起動しないことを選択した場合は、<Verity のルートディレクトリ>/bin/cfsearch -start | -stop | -restart を実行して、Verity の起動、停止、および再起動を行います。

### Linux への Verity 検索サーバーのインストール

Linux を実行しているコンピュータに Verity をインストールする場合は、そのコンピュータに適切な libstdc++ compat パッケージをインストールする必要があります。

Red Hat Enterprise Linux 3 - compat-libstdc++-7.3-2.96.122

Red Hat Enterprise Linux4 - compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3

SUSE 10 - compat-libstdc++-5.0.7-22.2

## Solr 検索サーバーのインストール

デフォルトの設定でインストーラを実行した場合、Solr 検索サーバーは ColdFusion と同じコンピュータにインストールされます。

**注意：**J2EE 設定で ColdFusion を複数回デプロイする場合は、ColdFusion Administrator で Solr ホームのパスを更新する必要があります。この作業を行うには、[ データとサービス ]-[Solr サーバー ] に移動し、[Solr サーバーの設定 ] セクションの [Solr ホーム ] でパスを更新します。

ColdFusion と異なるコンピュータに Solr 検索サーバーをインストールする場合は、Solr 検索サーバーを別途にインストールする必要があります。

## Solr 検索サーバーを別途にインストールするには

- 1 次に示すプラットフォーム固有のインストーラを Adobe Web サイトからダウンロードするか、ColdFusion 9 DVD からコピーします。

プラットフォーム	インストーラ
Windows	ColdFusion_9_Solr_win.exe
Linux	<ul style="list-style-type: none"><li>• ColdFusion_9_Solr_linux.bin</li><li>• ColdFusion_9_Solr_linux64.bin</li></ul>
Solaris	ColdFusion_9_Solr_solaris.bin
OSX	ColdFusion_9_Solr_osx10.zip
AIX	ColdFusion_9_Solr_aix.bin

- 2 コンピュータで現在実行中のアプリケーションをすべて閉じます。
- 3 適切なコマンドを使って、プラットフォーム固有のインストーラを実行します。

**注意：**UNIX システムではコンソールインストールだけを利用できます。

## Solr 検索サーバーの使用

Solr を開始または停止するには、次の手順に使用します。

### Windows 以外のプラットフォーム

- 次のコマンドを使用して Solr を開始します。

```
sudo ./cfsolr start
```

- 次のコマンドを使用して Solr を停止します。

```
sudo ./cfsolr stop
```

### Windows プラットフォーム

- Microsoft 管理コンソールを使用して Solr サービス ColdFusion 9 Solr Service を開始または停止します。

## Flash Remoting の有効化

Adobe Flash SWF ファイルから ColdFusion のページやコンポーネントを操作するには、ColdFusion 9 の Flash Remoting サービスを使用します。Flash Remoting を使用するアプリケーションを開発するには、Flash オーサリング環境内に Flash Remoting コンポーネントをインストールします。ColdFusion 9 の Flash Remoting サービスに接続してやり取りを行うアプリケーションを開発するには、Flash オーサリング環境または Adobe Flex が必要です。

デフォルトでは、Adobe Flash Remoting は ColdFusion 9 を介して Web サービスにアクセスできません。

## Flash Remoting が ColdFusion 9 を介して Web サービスにアクセスできるようにするには

1 <ColdFusion のインストールディレクトリ >/WEB-INF/gateway-config.xml ファイルをテキストエディタで開きます。

2 次の行を検索します。

```
<!--<adapter>coldfusion.flash.adapter.CFWSAdapter</adapter>-->
```

3 この行を次のように編集してコメントを削除します。

```
<adapter>coldfusion.flash.adapter.CFWSAdapter</adapter>
```

4 ファイルを保存します。

5 ColdFusion を再起動します。

Flash Remoting の詳細については、『Adobe® ColdFusion® 9 アプリケーションの開発』を参照してください。

## Flash Remoting Update のインストール

Flash Remoting Update を利用すると、cfpop タグ、cldap タグ、cfquery タグなどの ColdFusion の高度なデータ取得機能を使用して、Adobe® Flash™ Builder™ でリッチインターネットアプリケーションを作成できます。さらに、Flash Remoting Update を利用すれば、サーバーコールバックやカスタムユーザーインターフェイスなどの機能を搭載した Flash フォームや SWF アプリケーションを作成することも可能です。

### Flash Remoting Update をインストールするには

1 ColdFusion 9 をインストールします。

2 ColdFusion サーバーで 8500 以外のポートを使用している場合は、次の手順を実行します。

a <ColdFusion のインストールディレクトリ >%wwwroot%\Web-INF\flex\services-config.xml ファイルを開きます。

b 次のエンドポイント URL を変更して、使用するポートを指定します。

```
<endpoint uri="http://localhost:8500/flex2gateway/" in flex-services.xml
```

c ファイルを保存します。

d ColdFusion サーバーを再起動します。

## LiveCycle Data Services の手動インストール

ColdFusion 9 で LiveCycle Data Services ES 2.6.1 を使用するには、ColdFusion 9 のインストールが完了した後に、このサービスを手動でインストールする必要があります。

最初に、"LCDS2.6.1\_for\_CF9.zip" を Adobe Web サイトからダウンロードするか ColdFusion 9 の DVD からコピーして、解凍します。

**注意：** 次の説明で使用する "lcds\_install\_root" という用語は、LiveCycle Data Services ES 2.6.1 のインストールホームディレクトリを指しています。



インストールを開始する前に、次の作業を行います。

- 1 ColdFusion 9 サーバーが実行中である場合はシャットダウンします。
- 2 ColdFusion9/lib/flex-messaging\*.jar ファイルをコピーして別の場所にバックアップします。マルチサーバー設定または J2EE 設定の場合、これらのファイルは WEB-INF/cfusion/lib ディレクトリにあります。
- 3 lcds\_install\_root/resources/lib/flex-messaging\*.jar ファイルをコピーし、それらのファイルを ColdFusion/lib ディレクトリ内に上書きします。
- 4 "LCDS2.6.1\_for\_CF9/WEB-INF/flex/jars/cfdataservicesadapter.jar" を ColdFusion の WEB-INF/flex/jars ディレクトリにコピーします。
- 5 次の SWC ライブラリを lcds\_install\_root/resources/frameworks から ColdFusion9 の各ディレクトリにコピーします。
  - "/libs/fds.swc" ファイルを /WEB-INF/flex/libs ディレクトリにコピーします。
  - "/libs/player/playerfds.swc" ファイルを /WEB-INF/flex/libs/player/ ディレクトリにコピーします。
  - "/locale/en\_US/fds\_rb.swc" ファイルを /WEB-INF/flex/locale/en\_US/ ディレクトリにコピーします。

ここで、ColdFusion9 から導入された新しい Flash Remoting を使用するか、従来の Flash Remoting (ColdFusion8) を使用するかを選択できます。

新しい Flash Remoting を使用すると、次のような利点があります。

- 新しい Flash Remoting では、従来の Flash Remoting (ColdFusion 8) でサポートされていない、オブジェクトの循環参照がサポートされています。
- 新しい Flash Remoting は、従来の Flash Remoting よりも大幅に高速化されています。

ColdFusion 8 の Flash Remoting を使用する場合：

- 1 ColdFusion 8 の WEB-INF/flex/ \*.xml 設定ファイルを ColdFusion 9 の WEB-INF/flex/ フォルダにコピーします。
- 2 ColdFusion サーバーを開始します。

ColdFusion 9 の新しい Flash Remoting を使用する場合：

- 1 LCDS2.6.1\_for\_CF9/WEB-INF/flex ディレクトリから ColdFusion 9 の WEB-INF/flex/ ディレクトリに \*.xml ファイルをコピーします。
- 2 LiveCycle Data Services アプリケーションで RTMP チャネルを使用する場合は、ColdFusion の WEB-INF/flex/services-config.xml ファイルを開き、"cf-rtmp" チャネルのコメント化を解除します。デフォルトでは、この行はコメント化されています。
- 3 <serialization> xml タグの下に (service-config.xml の) 古いチャネルの <instantiate-types> が存在する場合は、<instantiate-types> を削除するか、<instantiate-types> を true に設定します。また、<enable-small-messages> を false に設定します。

チャネルレベルでは、次のいずれかの <serialization> 構文を使用する必要があります。例 1:

```
<serialization>
    <instantiate-types>true</instantiate-types>
    <enable-small-messages>>false</enable-small-messages>
</serialization>
```

例 2:

```
<serialization>
    <enable-small-messages>>false</enable-small-messages>
</serialization>
```

次のクライアントサイドコードのように、XML ベースのチャネル設定を省略して独自のカスタムチャネルを作成する場合も、"enableSmallMessages" フラグを false に設定する必要があります。

```
<mx:ChannelSet id="myChannelSet" >
  <mx:channels>
    <mx:AMFChannel enableSmallMessages="false"
url="http://localhost:8500/flex2gateway/cfamfpolling" id="cfAMFPolling" pollingEnabled="true"
pollingInterval="8"/>
  </mx:channels>
</mx:ChannelSet>
```

- 4 古いファイルからコピーしたデータ管理の宛先を新しい "management-config.xml" ファイルに追加します。ColdFusion 9 リリースでは、シリアル化プロセスが変更されたため、宛先およびチャンネルの構造が若干変更されています。

次のプロパティは destination レベルから channel レベルに移動されました。これらのプロパティは、

```
<channel-definition >
```

```
  <properties>
```

```
    <coldfusion>
```

の下に、data-management-config.xml ファイルの <destination> レベルから移動する必要があります。これらの手順は、他の \*-config.xml ファイルで定義された destination にも当てはまります。

```
<access>
  <use-mappings>
  <method-access-level>
</access>
<use-accessors>
<use-structs>
<property-case>
<force-cfc-lowercase>
  <force-query-lowercase>
  <force-struct-lowercase>
</property-case>
```

詳細については、『ColdFusion アプリケーションの開発』の ColdFusion 9 における Flash Remoting 用の XML 設定ファイルの変更点を参照してください。

- 5 上記の変更が加えられた新しい \*-config.xml ファイルを使用して LCDS アプリケーションまたは Flex アプリケーションを再コンパイルした後、それらのアプリケーションをデプロイします。
- 6 ColdFusion サーバーを開始します。

## ColdFusion .NET Integration Services のインストール

ColdFusion から .NET アセンブリにアクセスするには、Adobe ColdFusion 9 .NET Integration Service をインストールします。.NET アセンブリは、ColdFusion と同じコンピュータにインストールすることもできますが、ColdFusion とは別のリモートコンピュータにインストールすることもできます。ColdFusion をインストールするコンピュータに Microsoft .NET Framework がインストールされていない場合は、ColdFusion インストーラの [.NET Integration Services] オプションが無効になります。

### ColdFusion と ColdFusion .NET Integration Services の同時インストール

ColdFusion をインストールするコンピュータに .NET アセンブリが存在する場合は、ColdFusion のインストール時に [.NET Integration Services] オプションを選択します。このオプションを選択すると、ColdFusion 9 .NET Integration Services が ColdFusion と同時にインストールされます。ローカルの .NET アセンブリにアクセスできるのは、ColdFusion を Windows コンピュータ上で実行している場合のみです。他のオペレーティングシステムを使用する場合は、.NET アセンブリをリモートの Windows コンピュータにインストールする必要があります。

.NET Integration ソフトウェアは <ColdFusion のインストールディレクトリ>¥jnbridge ディレクトリにインストールされます。ColdFusion マルチサーバー設定または J2EE 設定をインストールする場合は、.NET Integration ソフトウェアのインストールディレクトリを指定できます。

インストーラを実行すると、Windows システムにインストールされている .NET Framework のバージョン (1.x または 2.0) が自動的に判別され、適切な .NET Integration ソフトウェアがインストールされます。32 ビットシステムと 64 ビットシステムの両方がサポートされています。.NET Framework をアップグレードする場合は、Adobe Coldfusion 9 .NET Integration Services を再インストールする必要があります。.NET Framework 1.x 用に作成されたプロキシは .NET Framework 2.0 および .NET Framework 3.0 でも動作しますが、.NET Framework 2.0 用に作成されたプロキシは .NET Framework 1.x では動作しません。

## ColdFusion .NET Service の別途インストール

.NET アセンブリがリモートコンピュータ上に存在する場合は、.NET Service インストーラ (ColdFusion\_9\_DotNetIntegration\_WWE.exe) を使用して Adobe Coldfusion 9 .NET Service をインストールします。また、ColdFusion のインストールが既に完了している場合も、ColdFusion\_9\_DotNetIntegration\_WWE.exe を使用して ColdFusion .NET Service をインストールできます。

### ColdFusion 9 .NET Service インストーラを使用してインストールするには

- 1 インストーラを開きます。
- 2 .NET Service ファイルをインストールするディレクトリを選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
  - a ColdFusion を実行しているコンピュータに .NET Service をインストールするには、[ColdFusion とともに .Net Integration Services をインストール] オプションを選択して、ColdFusion のルートディレクトリを指定します。
  - b .NET Service をリモートコンピュータにインストールするには、[.Net Integration Services をスタンドアロンとしてインストール] オプションを選択します。
- 4 [要約]を確認して [インストール]をクリックします。
- 5 ColdFusion を再起動します。

### ColdFusion 9 .NET Service をアンインストールするには

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除]を選択します。
- 2 [Adobe Coldfusion 9 .NET Service]を選択します。
- 3 [Uninstall]をクリックします。

また、別の方法として、Uninstall Adobe ColdFusion 9 .NET Integration Services.exe プログラムを実行して Adobe Coldfusion 9 .NET Service をアンインストールすることもできます。このアンインストールプログラムは、ColdFusion サーバー設定の場合は <ColdFusion のインストールディレクトリ>¥jnbridge¥uninstall ディレクトリにあります。また、マルチサーバー設定、J2EE 設定、および ColdFusion なしで Integration ソフトウェアのみがインストールされているコンピュータの場合、このプログラムはデフォルトで C:¥ColdFusionDotNetService¥uninstall ディレクトリにあります。

## Eclipse 用 ColdFusion 拡張機能のインストール

Eclipse 用 ColdFusion 拡張機能には、頻繁に行われるコーディング作業を効率化するウィザード群と、Flash Builder および Eclipse からリモートサーバーに接続するための拡張機能が含まれています。既に Eclipse 用 ColdFusion 拡張機能がインストールされている場合は、新しいバージョンをインストールする前に、既存の拡張機能をアンインストールする必要があります。

**注意:** クエリービルダーと Eclipse 用の ColdFusion 拡張機能で使用されるウィザードの一部は Windows 専用の機能です。

### Eclipse 用 ColdFusion 拡張機能をインストールするには

- 1 Eclipse の [ 更新アクセス先サイト ] ダイアログボックスで、[ この環境に適合でないフィーチャーを無視する ] オプションを選択解除します。
- 2 Adobe の Web サイトから Eclipse 用 ColdFusion 拡張機能をダウンロードします。
- 3 [ ヘルプ ]-[ ソフトウェア更新 ]-[ 検索およびインストール ] を選択します。
- 4 [ インストールする新規フィーチャーを検索 ] オプションを選択して、[ 次へ ] をクリックします。
- 5 [ 新規アーカイブサイト ] をクリックします。
- 6 "ColdFusion\_FlexBuilder\_Feature.zip" ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、このファイルを選択して [ 開く ] をクリックします。
- 7 [ ローカルサイトの編集 ] ダイアログボックスが表示されたら、[ OK ] をクリックします。
- 8 ColdFusion Flash Builder 機能が選択されていることを確認して、[ 終了 ] をクリックします。
- 9 "ColdFusion\_FlexBuilder\_Feature.zip" の横にあるチェックボックスをオンにして、[ 次へ ] をクリックします。
- 10 [ 使用条件の条項に同意します ] オプションを選択して、[ 次へ ] をクリックします。
- 11 [ 終了 ] をクリックします。
- 12 [ すべてインストール ] をクリックします。
- 13 インストールが完了したら、[ はい ] をクリックして Flash Builder または Eclipse を再起動します。

Eclipse 用 ColdFusion 拡張機能をアンインストールするには、先にそれらの拡張機能を無効にしてからアンインストールする必要があります。

### Eclipse 用 ColdFusion 拡張機能をアンインストールするには

- 1 [ ヘルプ ]-[ ソフトウェア更新 ]-[ 構成の管理 ] を選択します。
- 2 ColdFusion プラグイン機能を選択します。
- 3 [ 使用不可にする ] をクリックして、[ OK ] をクリックします。
- 4 [ はい ] をクリックして Flash Builder または Eclipse を再起動します。
- 5 Eclipse または Flash Builder を再起動したら、[ ヘルプ ]-[ ソフトウェア更新 ]-[ 構成の管理 ] を選択します。
- 6 [ 使用不可フィーチャーの表示 ] ボタンが選択されていることを確認し、ColdFusion Flash Builder 機能を選択して [ アンインストール ] をクリックします。
- 7 アンインストールの確認を求められたら [ はい ] をクリックします。
- 8 [ はい ] をクリックして Flash Builder または Eclipse を再起動します。

## OpenOffice の設定

ColdFusion 9 とともに OpenOffice を設定すると、`cfdocument` タグを使用して Word ドキュメントを PDF に変換したり、PowerPoint プレゼンテーションを PDF/HTML に変換できるようになります。

### スタンドアロンインストールおよびマルチサーバーインストールを使用する場合の OpenOffice の設定

<http://download.openoffice.org/> から OpenOffice をダウンロードしてインストールします。Windows 以外のプラットフォームに ColdFusion 9 をインストールする場合は、インストーラの実行時に OpenOffice のインストール先となるディレクトリパスが提示されます。別のインストールパスを指定する場合は、次のようにディレクトリパスを指定できます。

- Macintosh プラットフォームの場合：

```
/Applications/openoffice.org3
```

- UNIX プラットフォームの場合：

UNIX の種類によって異なります。

OpenOffice のインストール場所は、使用しているオペレーティングシステムの種類によって異なる場合があります。ほとんどの場合のインストール場所は `/usr/lib/openoffice.org3`

または

```
/usr/lib/ooo3.x
```

 です。

また、OpenOffice のインストールパスを ColdFusion Administrator で指定する場合は、次のようにします。

- 1 ColdFusion Administrator にログインします。
- 2 [サーバーの設定]-[ドキュメント] に移動して、OpenOffice のディレクトリを入力します。

### J2EE サーバーを使用する場合の OpenOffice の設定

次の説明は ColdFusion 9 のスタンドアロン設定およびマルチサーバー設定には当てはまりません。

- 1 <http://download.openoffice.org/> から OpenOffice をダウンロードしてインストールします。

- 2 JRun の場合：

- 次のように、`jvm.config` ファイルの JRun サーバークラスパス (`java.class.path`) に OpenOffice SDK ライブラリを追加します。

```
[cfusionhome]/lib/oosdk/classes  
[cfusionhome]/lib/oosdk/lib
```

- Windows プラットフォームの場合は、ライブラリパス (`java.library.path`) に次のディレクトリを追加します。

```
[cfusionhome]/lib/oosdk/classes
```

- 3 他の J2EE サーバーの場合：

- クラスパスに次のクラスと JAR ファイルを追加します。

```
[cfusionhome]/lib/oosdk/classe  
[cfusionhome]/lib/oosdk/lib/juh.jar  
[cfusionhome]/lib/oosdk/lib/jurt.jar  
[cfusionhome]/lib/oosdk/lib/ridl.jar  
[cfusionhome]/lib/oosdk/lib/unoil.jar
```

- Windows プラットフォームの場合は、ライブラリパス (`java.library.path`) に次のディレクトリを追加します。

```
[cfusionhome]/lib/oosdk/classes
```

[cfusionhome] の部分は cfusion ディレクトリのパスで置き換えてください。たとえば、Jboss の場合は、/opt/jboss-4.0.5.GA/server/default/deploy/cfusion.ear/cfusion.war/WEB-INF/cfusion で置き換えます。

## リモートでの OpenOffice の設定

- 1 コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
soffice -nologo -nodefault -norestore -nofirststartwizard -headless -  
accept="socket,host=<ip>,port=8900;urp;StarOffice.ServiceManager"
```

host 属性で ( 設定する OpenOffice が存在するリモートマシンの ) IP アドレスを指定します。

- 2 ColdFusion Administrator にログインします。
- 3 [サーバーの設定]-[ドキュメント] に移動して、ホストとポートの詳細を入力します。

## ColdFusion 9 インストール後の OpenOffice の設定

ColdFusion 9 が既にシステムにインストールされている場合は、プラットフォームの種類に関係なく、次の手順に従って OpenOffice を設定します。

- 1 ColdFusion Administrator にログインします。
- 2 [サーバーの設定]-[ドキュメント] に移動して、OpenOffice のディレクトリを指定します。
- 3 ColdFusion サーバーを再起動します。

## 第6章：システムの設定

この章では、ColdFusion のサービスとプロセスを管理する方法、Web サーバーを手動で設定する方法、ユーザーアカウントを変更する方法、ColdFusion 用のデータベースを設定する方法について説明します。

**注意：**<ColdFusion のインストールディレクトリ>とは、サーバー設定のインストールディレクトリのことを指します。デフォルトでは、このディレクトリは C:\¥ColdFusion9 (Windows の場合)、/opt/coldfusion9 (UNIX の場合)、または /Applications/ColdFusion9 (OSX の場合) になります。<JRun のインストールディレクトリ>とは、マルチサーバー設定のインストールディレクトリのことを指します。デフォルトでは、このディレクトリは C:\¥JRun4 (Windows の場合)、/opt/jrun4 (UNIX の場合)、または /Application/Jrun4 になります。

### 設定タスクの概要

設定タスク	必要となる状況
Windows での ColdFusion サービスの管理および UNIX での ColdFusion プロセスの管理	ColdFusion Administrator でセキュリティ機能を有効または無効にしたり、Java や JVM の設定を変更したときに、それらの変更を有効にするために ColdFusion を停止して再起動する場合に必要です。このタスクは、ColdFusion のインストール後、いつでも実行できます。
Web サーバーの設定	本番サーバーに移行する場合や、ビルトイン Web サーバーでは要件を満たせなくなった場合に必要です。
CORBA サポートの有効化	ColdFusion から CORBA を呼び出す場合に必要です。このタスクは、ColdFusion をインストールした後、ColdFusion から CORBA を呼び出す前に実行できます。
Remote Development Services の無効化	セキュリティを確保するために、アプリケーションを本番環境に移行する場合は RDS を無効にしてください。
JSP 機能の無効化 (サーバー設定のみ)	ColdFusion エンタープライズ版をホスティング環境で実行している場合、JSP 処理を無効にしなければならない場合があります。
Windows での ColdFusion ユーザーアカウントの変更	ColdFusion を実行しているアカウントのアクセス権 (たとえば、リモートデータソース、他のアプリケーションページ、COM オブジェクトなどと通信するためのアクセス権) の設定が適切でなくなった場合に必要です。また、cfprint タグを使用してプリンタに出力する場合にも、このタスクを実行する必要があります。このタスクは、ColdFusion をインストールした後、アプリケーションをデプロイする前に実行できます。

その他の設定タスクについては、『ColdFusion 設定と管理』を参照してください。

## Windows での ColdFusion サービスの管理

ColdFusion をインストールすると、選択した設定に応じて次のサービスが作成されます。

サービス	用途	設定
ColdFusion 9 アプリケーションサーバー	ColdFusion のメインサービスです。このサービスが実行されていないと、ColdFusion ページが処理されません。	サーバー
Macromedia JRun Admin Server	JRun Management Console (JMC) で使用する admin JRun サーバーを実行します。	マルチサーバー
Macromedia JRun CFusion Server	cfusion JRun サーバーを実行します。エンタープライズアプリケーションとしてデプロイされた ColdFusion 9 が含まれます。	マルチサーバー

サービス	用途	設定
ColdFusion 9 ODBC Agent	ColdFusion 9 ODBC Server のデータソースを設定するためのサービスです。	すべて
ColdFusion 9 ODBC Server	Microsoft Access および ODBC Socket 用に DataDirect ドライバを使用する ODBC 接続の中間層サービスです。	すべて
ColdFusion 9 Search Service	ColdFusion 9 検索タグをサポートするためのサービスです。このプロセスが実行されていない場合は、ColdFusion 9 検索タグを使用できません。	すべて
ColdFusion 9 .NET Service	ColdFusion を実行する Windows システム上のローカル .NET アセンブリにアクセスするためのサービスです。	すべて

**注意:** ColdFusion Administrator の [Java と JVM の設定] ページでセキュリティを有効または無効にした場合、または何らかのオプションを変更した場合は、変更を有効にするために、ColdFusion 9 を停止して再起動します。これは、サーバー設定のみに該当します。マルチサーバー設定および J2EE 設定の場合は、使用するアプリケーションサーバーに適した方法で Java 設定を更新し、サーバーを再起動します。

## ColdFusion サービスを開始または停止するには

1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択して、[サービス] ダイアログボックスを開きます。

サービスが実行されている場合は、[状態] の列に "開始" と表示されます。サービスが実行されていない場合、サービスの状態は表示されません。

2 サービスを右クリックして [停止]、[開始]、または [再起動] を選択します。

[サービス] ウィンドウの表示内容が更新されます。

## ColdFusion 9 を自動または手動で起動するように設定するには

1 [コントロールパネル]-[サービス] ダイアログボックスを開きます

2 設定するサービスを右クリックして [プロパティ] を選択します。

3 [プロパティ] ダイアログボックスの [全般] タブで、[スタートアップの種類] フレームまたはポップアップメニューから、次のいずれかのオプションを選択し、[OK] をクリックします。

- [自動] - コンピュータの起動時に、サービスを自動的に開始します。
- [手動] - ユーザーが手動で開始するか、依存関係を持つ別のサービスによって開始される必要があります。

## UNIX での ColdFusion プロセスの管理

ColdFusion をインストールすると、UNIX に coldfusion9 と呼ばれる 1 つのプロセスが作成されます。このプロセスが実行中かどうかを調べるには、次のコマンドを使用します。

```
ps -eaf | grep coldfusion9
```

このプロセスが実行中の場合は、次のような応答が返されます。

```
nobody 4528 1 10 12:44 pts/0 00:00:07 /opt/coldfusion9/bin/coldfusion9 -jar jrun.jar -start coldfusion
```

**注意:** ここで説明する内容は ColdFusion 9 サーバー設定のみに該当します。マルチサーバー設定または J2EE 設定では、アプリケーションサーバーを起動することによって ColdFusion 9 を起動または停止します。



インストール時に自動開始と自動停止のオプションを指定した場合、ColdFusion プロセスは、コンピュータを起動すると自動的に開始され、コンピュータをシャットダウンすると自動的に終了します。

ColdFusion Administrator の [Java と JVM の設定] ページで、セキュリティを有効または無効にした場合、または何らかのオプションを変更した場合は、変更を有効にするために、ColdFusion プロセスを停止して、再起動します。これは、サーバー設定のみに該当します。マルチサーバー設定および J2EE 設定の場合は、使用するアプリケーションサーバーに適した方法で Java 設定を更新し、サーバーを再起動します。

## UNIX で ColdFusion プロセスを管理するには

1 root としてログインします (まだログインしていない場合)。

2 次のコマンドを入力します。

```
cd cf_root/bin
```

3 次の表の説明に従い、適切なコマンドを入力します。

タスク	コマンド
ColdFusion 9 の起動	coldfusion start
ColdFusion 9 の停止	coldfusion stop
ColdFusion 9 の再起動	coldfusion restart
ColdFusion 9 のパフォーマンス情報の表示	coldfusion status
Web サーバー設定ツールの実行	coldfusion wsconfig

## Mac OS X での ColdFusion プロセスの管理

ColdFusion をインストールすると、UNIX に cfusion と呼ばれる 1 つのプロセスが作成されます。このプロセスが実行中かどうかを調べるには、次のコマンドを使用します。

```
ps -eaf | grep coldfusion9
```

このプロセスが実行中の場合は、次のような応答が返されます。

```
nobody 4528 1 10 12:44 pts/0 00:00:07 /opt/coldfusion9/bin/coldfusion9 -jar jrun.jar -start coldfusion
```

**注意:** ここで説明する内容は ColdFusion 9 サーバー設定のみに該当します。マルチサーバー設定または J2EE 設定では、アプリケーションサーバーを起動することによって ColdFusion 9 を起動または停止します。

インストール時に自動開始と自動停止のオプションを指定した場合、ColdFusion プロセスは、コンピュータを起動すると自動的に開始され、コンピュータをシャットダウンすると自動的に終了します。

ColdFusion Administrator の [Java と JVM の設定] ページで、セキュリティを有効または無効にした場合、または何らかのオプションを変更した場合は、変更を有効にするために、ColdFusion プロセスを停止して、再起動します。これは、サーバー設定のみに該当します。マルチサーバー設定および J2EE 設定の場合は、使用するアプリケーションサーバーに適した方法で Java 設定を更新し、サーバーを再起動します。

## UNIX で ColdFusion プロセスを管理するには

1 root としてログインします (まだログインしていない場合)。

2 次のコマンドを入力します。

```
cd cf_root/bin
```


3 次の表の説明に従い、適切なコマンドを入力します。

タスク	コマンド
ColdFusion 9 の起動	<code>coldfusion start</code>
ColdFusion 9 の停止	<code>coldfusion stop</code>
ColdFusion 9 の再起動	<code>coldfusion restart</code>
ColdFusion 9 のパフォーマンス情報の表示	<code>coldfusion status</code>
Web サーバー設定ツールの実行	<code>coldfusion wsconfig</code>

## Web サーバーの設定

Windows または UNIX で、インストール時に Web サーバーを自動的に設定しなかった場合、Web サーバーを変更する場合、または Web サーバーをクラスタとして設定する場合は、ColdFusion ページを提供する Web サーバーを設定します。

外部 Web サーバーとの接続を設定するには、Web サーバー設定ツールを使用します。このツールは GUI モードでもコマンドラインモードでも実行できます。Windows の場合は GUI モードについて、UNIX の場合はコマンドラインモードについて説明しますが、GUI 環境にアクセスできる場合は UNIX 上でも GUI モードを使用できます。

 ColdFusion 9 では、使用開始初期にコマンドラインを簡単に使用できるよう、<ColdFusion のインストールディレクトリ>/bin/connectors にバッチファイルとシェルスクリプトを用意しています。

Web サーバー設定ツールの詳細 ( マルチホームや分散環境での運用など ) については、『ColdFusion 設定と管理』を参照してください。

**注意：**設定が正しく行われたことを確認できない場合は、設定の手順を繰り返してください。問題が解消しない場合は、Adobe テクニカルサポートまでご連絡いただくか、設定が正しく行われなかった要素を手動で作成してください (たとえば、ここに記載されている説明に従って Apache httpd.conf ファイルに手動でエントリを追加するなど)。


## Windows での Web サーバーの設定

Windows で Web サーバーを設定するには、次の作業を行います。

- Windows での IIS の設定
- Windows での Sun Java System Web Server の設定
- Windows 上の Apache Web サーバーの設定

## Windows での IIS の設定

IIS を設定するには、GUI モードまたはコマンドラインモードで Web サーバー設定ツールを使用します。ここでは、GUI モードの使用方法について説明します。

 ( サーバー設定のみ ) コマンドラインモードを使用する場合は <ColdFusion のインストールディレクトリ>/bin/connectors にあるバッチファイルを使用します。

詳細については、『ColdFusion 設定と管理』の「Web サーバーの管理」の章を参照してください。

### Windows で ColdFusion 用に IIS を設定するには

**注意：**IIS 7 を設定する場合は、先へ進む前に、[IIS メタベースおよび IIS 6 構成との互換性] オプション ([Internet Information Service]-[Web 管理ツール]-[IIS 6 と互換性のある管理]) および [ISAPI 拡張機能] ([Internet Information Service]-[Web 管理ツール]-[World Wide Web サービス]-[アプリケーション開発機能]) が [Windows の機能] ダイアログボックス ([スタート]-[コントロールパネル]-[プログラムと機能]-[Windows の機能の有効化または無効化]) で選択されていることを確認します。

- 1 [スタート]-[プログラム]-[Adobe]-[ColdFusion 9]-[Web サーバー設定ツール] を選択して、Web サーバー設定ツールを起動します。
- 2 [追加] をクリックします。
- 3 [サーバー] ポップアップメニューから、設定するホスト名とサーバー名またはクラスタ名を選択します。ColdFusion サーバー設定の場合、サーバー名は常に coldfusion です。サーバー設定ではクラスタはサポートされません。

**注意：**サーバーまたはクラスタは、Web サーバーコンピュータ上に存在している必要はありません。

- 1 [Web サーバープロパティ] 領域で IIS を選択し、Web サイトを指定します。IIS の場合は、通常 [すべて] を指定します。
- 2 [ColdFusion アプリケーションの Web サーバーの設定] オプションを選択し、[OK] をクリックします。

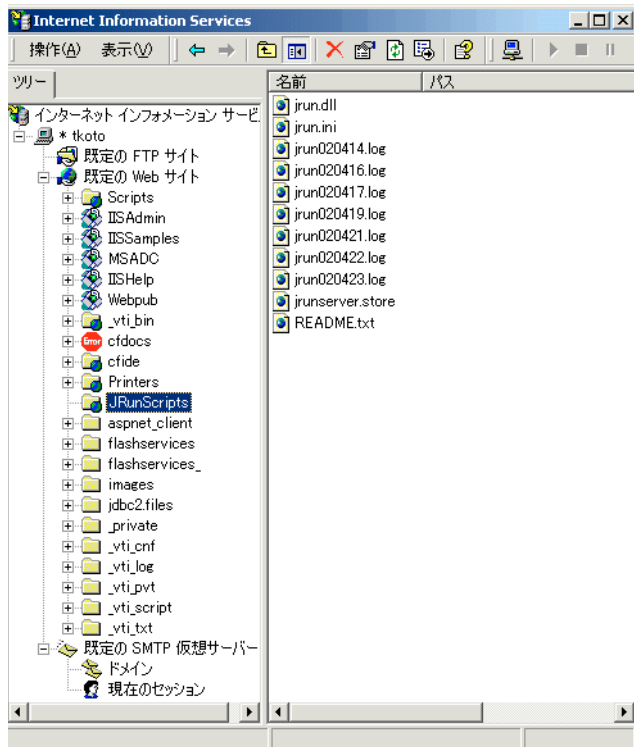
**注意：**この手順を実行しないと、Web サーバーからブラウザに ColdFusion ソースコードが送信される結果となります。

- 3 <ColdFusion のインストールディレクトリ>/wwwroot から Web サーバーのルートディレクトリに CFIDE ディレクトリと cfdocs ディレクトリをコピーします。さらに、アプリケーションの CFM ページを <ColdFusion のインストールディレクトリ>/wwwroot から Web サーバーのルートディレクトリにコピーします。マルチサーバー設定では、これらのファイルは <JRun のインストールディレクトリ>/servers/cfusion/cfusion-ear/cfusion-war ディレクトリに存在します。

### IIS の設定を確認するには

- 1 <ColdFusion のインストールディレクトリ>/runtime/lib/wsconfig/jrun.dll (サーバー設定の場合) または <JRun のインストールディレクトリ>/lib/wsconfig/jrun.dll (マルチサーバー設定の場合) というファイルが作成されていることを確認します。IIS6 の場合、このファイルの名前は "jrun\_iis6.dll" になります。
- 2 各 IIS Web サイトについて、拡張子 .cfm、.cfml、.cfc、.cfswf、.cfr、.jsp、および .jws に対するアプリケーションマッピングが次のように追加されていることを確認します。
  - a IIS 内で、IIS Web サイトを右クリックして [プロパティ] を選択します。
  - b [プロパティ] ダイアログボックスの [ホームディレクトリ] タブにある [構成] をクリックします。
  - c [アプリケーションの構成] ダイアログボックスの [アプリケーションのマッピング] タブをクリックします。  
[拡張子] 列に .cfm、.cfml、.cfc、.cfswf、.cfr、.jsp、および .jws のマッピングが表示されます。
- 3 各 IIS Web サイトについて、JRunScripts という仮想ディレクトリがあることを確認します。

次の図は、JRunScripts 仮想ディレクトリの一例を示しています。



- 4 次の操作を実行して、各 IIS Web サイトの JRunScripts ディレクトリが正しい場所を参照していることを確認します。
  - a JRunScripts ディレクトリを右クリックして [プロパティ] を選択します。
  - b [プロパティ] ダイアログボックスの [仮想ディレクトリ] タブで、[ローカルパス] テキストボックスに次のパスが表示されていることを確認します。  
<パス >/wsconfig/<数字 > (通常は 1)

## Windows で ColdFusion を使用する場合の SunOne または Sun Java System Web Server の設定

ここでは、Windows で ColdFusion を使用するために SunOne 6.x または Sun Java System Web Server 7 を設定する方法と、各種設定の確認方法について説明します。これらの作業を行うには、Web サーバー設定ツールを GUI モードまたはコマンドラインモードで使用します。ここでは、GUI モードの使用方法について説明します。

💡 (サーバー設定のみ) コマンドラインモードを使用する場合は、<ColdFusion のインストールディレクトリ >/bin/connectors にあるバッチファイルを使用します。

詳細については、『ColdFusion 設定と管理』の「Web サーバーの管理」の章を参照してください。

- 1 [スタート]-[プログラム]-[Adobe]-[ColdFusion 9]-[Web サーバー設定ツール] を選択して、Web サーバー設定ツールを起動します。
- 2 [追加] をクリックします。
- 3 [サーバー] ポップアップメニューから、設定するホスト名とサーバー名またはクラスタ名を選択します。ColdFusion サーバー設定の場合、この名前は常に coldfusion です。サーバー設定ではクラスタはサポートされません。

**注意:** サーバーまたはクラスタは、Web サーバーコンピュータ上に存在している必要はありません。

- 4 [Web サーバープロパティ] 領域で SunONE Web サーバー (iPlanet) または Netscape Enterprise Server (NES) を選択し、"obj.conf" ファイルが置かれているディレクトリのパスを指定します。
- 5 [ColdFusion アプリケーションの Web サーバーの設定] オプションを選択し、[OK] をクリックします。  
**注意:** この手順を実行しないと、Web サーバーからブラウザに ColdFusion ソースコードが送信される結果となります。
- 6 <ColdFusion のインストールディレクトリ>/wwwroot から Web サーバーのルートディレクトリに CFIDE ディレクトリと cfdocs ディレクトリをコピーします。さらに、アプリケーションの CFM ページを <ColdFusion のインストールディレクトリ>/wwwroot から Web サーバーのルートディレクトリにコピーします。マルチサーバー設定では、これらのファイルは <JRun のインストールディレクトリ>/servers/cfusion/cfusion-ear/cfusion-war ディレクトリに存在します。

### 設定の確認

- 1 <ColdFusion のインストールディレクトリ>/runtime/lib/wsconfig/<数字>/libjrun\_nsapi.so というファイルが作成されていることを確認します。
- 2 Web サーバーディレクトリにある SunONE の設定ファイル "obj.conf" (たとえば C:¥sunone¥servers¥https-<サーバー名>¥config¥obj.conf) を開きます。
- 3 このファイルに次の行が追加されていることを確認します。

```
PathCheck fn=find-index {check index.cfm is added}
PathCheck fn="jrunfilter"
ObjectType fn=type-by-exp exp={*.cfm, *.cfc, *.cfswf, *.jsp, *.jws, *.cfr} type="jrun-internal/ext"
Service method=(GET|HEAD|POST) type="jrun-internal/*" fn="jrunservice"
```

### Windows 上の Apache Web サーバーの設定

Apache を設定するには、Web サーバー設定ツールを GUI モードまたはコマンドラインモードで使用します。ここでは、GUI モードの使用方法について説明します。



(サーバー設定のみ) コマンドラインモードを使用する場合は <ColdFusion のインストールディレクトリ>¥bin¥connectors にあるバッチファイルを使用します。

詳細については、『ColdFusion 設定と管理』の「Web サーバーの管理」の章を参照してください。

### Windows で ColdFusion 用に Apache を設定するには

- 1 [スタート]-[プログラム]-[Adobe]-[ColdFusion 9]-[Web サーバー設定ツール] を選択して、Web サーバー設定ツールを起動します。
- 2 [追加] をクリックします。
- 3 [サーバー] ポップアップメニューから、設定するホスト名とサーバー名またはクラスタ名を選択します。ColdFusion サーバー設定の場合、この名前は常に coldfusion です。サーバー設定ではクラスタはサポートされません。  
**注意:** サーバーまたはクラスタは、Web サーバーコンピュータ上に存在している必要はありません。
- 4 [Web サーバープロパティ] 領域で Apache を選択し、"httpd.conf" ファイルが置かれているディレクトリのパスを指定します。
- 5 [ColdFusion アプリケーションの Web サーバーの設定] オプションを選択し、[OK] をクリックします。  
**注意:** この手順を実行しないと、Web サーバーからブラウザに ColdFusion ソースコードが送信される結果となります。
- 6 <ColdFusion のインストールディレクトリ>/wwwroot から Web サーバーのルートディレクトリに CFIDE ディレクトリと cfdocs ディレクトリをコピーします。さらに、アプリケーションの CFM ページを <ColdFusion のインストールディレクトリ>/wwwroot から Web サーバーのルートディレクトリにコピーします。マルチサーバー設定では、これら

のファイルは <JRun のインストールディレクトリ >/servers/cfusion/cfusion-ear/cfusion-war ディレクトリに存在します。

### Apache の設定を確認するには

1 次のいずれかのファイルが作成されたことを確認します。

- <ColdFusion のインストールディレクトリ >%runtime%lib%wsconfig%<数字>%mod\_jrun.so (Apache 1.3.2.7 の場合)
- <ColdFusion のインストールディレクトリ >%runtime%lib%wsconfig%<数字>%mod\_jrun20.so (Apache 2.x の場合)

マルチサーバー設定の場合、このファイルは <JRun のインストールディレクトリ >/lib/wsconfig に作成されます。

2 Apache の conf ディレクトリにある Apache 設定ファイル "httpd.conf" を開きます。Windows の場合、デフォルトでは C:%Program Files%Apache Group%Apache%conf%httpd.conf にあります。

3 このファイルに次のコードが追加されていることを確認します (Apache 2.2 を使用している場合、このファイルの名前は "mod\_jrun22.so" になります)。

```
# JRun Settings
LoadModule jrun_module "c:/ColdFusion9/runtime/lib/wsconfig/1/mod_jrun.so"
<IfModule mod_jrun.c>
    JRunConfig Verbose false
    JRunConfig Apialloc false
    JRunConfig Ssl false
    JRunConfig IgnoreSuffixmap false
    JRunConfig Serverstore "c:/ColdFusion9/runtime/lib/wsconfig/1/jrunserver.store"
    JRunConfig Bootstrap 127.0.0.1:51000
    #JRunConfig Errorurl <optionally redirect to this URL on errors>
    JRunConfig jrun-handler .jsp .jws .cfm .cfml .cfc .cfswf .cfr
</IfModule>
```

## UNIX での Web サーバーの設定

UNIX で Web サーバーを設定するには、次のいずれかの作業を行います。

- [UNIX での Apache Web サーバーの設定](#)
- [UNIX での SunOne 6.0 または Sun Java System Web Server 7 の設定](#)

### UNIX での Apache Web サーバーの設定

このセクションでは、UNIX 上で ColdFusion 用に Apache Web サーバーを設定し、設定内容を確認する方法について説明します。

**注意：**マルチサーバー設定の環境で Web サーバー設定ツールを実行する場合、"wsconfig.jar" は <JRun のインストールディレクトリ >/lib にあります。サーバー設定の場合は、<ColdFusion のインストールディレクトリ >/bin/connectors 内のスクリプトを、使用する環境に合わせて編集することもできます。

#### UNIX 上で ColdFusion 用に Apache Web サーバーを設定するには

❖ 次のコマンドを、改行を入れずに 1 行として入力します。

```
wsconfig -server servername -ws Apache -dir <apache config directory> -coldfusion -v
```

64 ビット版 Solaris で Apache を設定する場合は、-ws64 スイッチも指定する必要があります。このスイッチは、wsconfig コマンドで 64 ビット版 Apache を設定する場合に必要なスイッチです。

**注意：**wsconfig コマンドとすべてのスイッチは 1 行で入力する必要があります。

"wsconfig" ファイルは <ColdFusion のインストールディレクトリ >/runtime/bin ( サーバー設定の場合 )、または <JRun のインストールディレクトリ >/bin ( マルチサーバー設定の場合 ) に存在します。

コマンド入力の例を次に示します。

```
/opt/coldfusion9/runtime/bin/wsconfig -server coldfusion -ws Apache -dir /etc/httpd/conf-coldfusion -v
```

**注意:** 固有の設定 (Redhat や Sun が提供する事前設定済みの Apache Web サーバーなど) の場合は、『ColdFusion 設定と管理』で説明されているように、-bin および -script パラメータを追加します。

### Apache の設定を確認するには

1 次のいずれかのファイルが作成されたことを確認します。

- <ColdFusion のインストールディレクトリ >/runtime/lib/wsconfig/<数字 >/mod\_jrun.so (Apache 1.3.x の場合)
  - <ColdFusion のインストールディレクトリ >/runtime/lib/wsconfig/<数字 >/mod\_jrun20.so (Apache 2.0 の場合)
  - <ColdFusion のインストールディレクトリ >/runtime/lib/wsconfig/<数字 >/mod\_jrun22.so (Apache 2.x の場合)
- マルチサーバー設定の場合、このファイルは <JRun のインストールディレクトリ >/lib/wsconfig に作成されます。

2 Apache の conf ディレクトリにある Apache 設定ファイル "httpd.conf" を開きます。デフォルトのパスは /etc/httpd/conf/httpd.conf です。

このファイルに次のコードが追加されていることを確認します。

```
# JRun Settings
LoadModule jrun_module "/opt/ColdFusion9/runtime/lib/wsconfig/1/mod_jrun.so"
<IfModule mod_jrun.c>
    JRunConfig Verbose false
    JRunConfig Apialloc false
    JRunConfig Ssl false
    JRunConfig Serverstore "/opt/ColdFusion9/runtime/lib/wsconfig/1/jrunserver.store"
    JRunConfig Bootstrap 127.0.0.1:51000
    #JRunConfig Errorurl <URL for errors>
    JRunConfig jrun-handler .jsp .jws .cfm .cfml .cfc
</IfModule>
```

### UNIX での SunOne 6.0 または Sun Java System Web Server 7 の設定

ここでは、UNIX で ColdFusion を使用するために SunONE (6.x) または Sun Java System Web Server (7.0) を設定する方法と、各種設定の確認方法について説明します。

**注意:** マルチサーバー設定の環境で Web サーバー設定ツールを実行する場合、"wsconfig.jar" は <JRun のインストールディレクトリ >/lib にあります。サーバー設定の場合は、<ColdFusion のインストールディレクトリ >/bin/connectors 内のスクリプトを、使用する環境に合わせて編集することもできます。

- 1 <ColdFusion のインストールディレクトリ >/runtime/bin にある wsconfig ツールを起動します。
- 2 [追加] をクリックし、[Sun Web Server 7] を選択します。
- 3 Sun Web Server のルート (作成されたインスタンス) から conf dir を選択します。
- 4 [ColdFusion アプリケーションの Web サーバーの設定] オプションを選択し、[追加] をクリックします。
- 5 "magnus.conf" ファイルと "obj.conf" ファイルをテキストエディタで開き、j2ee を含む行をコメント化します (これらのファイルは <Sun のインストールディレクトリ >/<サーバーインスタンス名 >/conf ディレクトリにあります)。
- 6 <Sun のインストールディレクトリ >/bin ディレクトリに移動します。
- 7 次のコマンドを実行します。

```
./wadm pull-config --user=admin --port=(admin_port) --config=(server_instance) admin_instance
```

### UNIX での SunOne 6.0 または Sun Java System Web Server 7 の設定削除

- 1 <ColdFusion のインストールディレクトリ >/runtime/bin にある wsconfig ツールを起動します。
- 2 [Sun ONE Web Server] をクリックし、[Remove] をクリックします。
- 3 "magnus.conf" ファイルと "obj.conf" ファイルをテキストエディタで開き、j2ee を含む行のコメント化を解除します (これらのファイルは <Sun のインストールディレクトリ >/<サーバーインスタンス名 >/conf ディレクトリにあります)。
- 4 <Sun のインストールディレクトリ >/bin ディレクトリに移動します。
- 5 次のコマンドを実行します。

```
./wadm pull-config --user=admin --port=(admin_port) --config=(server_instance) admin_instance
```

## Verity Locale のインストール

ColdFusion では、英語以外の言語で Verity 検索を実行できます。Verity の詳細については、『ColdFusion 設定と管理』を参照してください。

このセクションでは、ColdFusion の DVD または Adobe の Web サイトから Verity Locale パッケージをインストールする方法と、別の Verity Locale パッケージに切り替える方法について説明します。

### Verity Locale をインストールするには

- 1 次のいずれかの操作を行います。
  - a 適切な Verity Locales パッケージを ColdFusion DVD から [verity]/k2/common ディレクトリにコピーします。
  - b ブラウザで Adobe の Web サイト [www.adobe.com/go/verity\\_jp](http://www.adobe.com/go/verity_jp) にアクセスし、ColdFusion のライセンスキーを入力して、適切な Verity Locales パッケージをダウンロードし、[verity]/k2/common ディレクトリに保存します。たとえば、サーバー設定と同時に Verity をインストールした場合は、<ColdFusion のインストールディレクトリ >/verity/k2/common ディレクトリに保存します。Verity を別途にデフォルト設定でインストールした場合は、C:\coldfusion\verity\k2\common ディレクトリに保存します。
    - verity\_asian\_locales.zip - 日本語、韓国語、中国語 (Simplified)、および中国語 (Traditional) が含まれています。
    - verity\_ee\_me\_locales.zip - アラビア語、ブルガリア語、チェコ語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、ポーランド語、ロシア語、およびトルコ語が含まれています。
    - verity\_weuropean\_locales.zip - デンマーク語、オランダ語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ノルウェー語 (Bokmal)、ノルウェー語 (Nynorsk)、ポルトガル語、スペイン語、およびスウェーデン語が含まれています。
    - verity\_multilanguage\_locale.zip
- 2 zip ファイルを <ColdFusion のインストールディレクトリ > に解凍します。

解凍すると、検索ファイルは適切なディレクトリに自動的に配置されます。
- 3 他の Verity Locale パッケージを追加するには、新しい Verity Locale パッケージに対してこの手順を繰り返します。

## CORBA サポートの有効化

ColdFusion を Borland VisiBroker と統合すると、サードパーティの Object Request Broker (ORB) がサポートされます。ただし、Borland 社から Common Object Request Broker Architecture (CORBA) ソフトウェアを入手する必要があります。



## 必要なシステム条件

ColdFusion から CORBA を呼び出すには、コンピュータに次のコンポーネントがすべてインストールされている必要があります。

- Borland VisiBroker 4.5.1 for Java
- VisiBroker Interface Repository 用の JRE (Java Runtime Environment) 1.2
- ColdFusion 9 用の JRE 1.4 以降

## CORBA 接続用の VisiBroker のインストール

1 CORBA サーバーサイドに VisiBroker をインストールします。

詳細については、Borland VisiBroker のマニュアルを参照してください。

2 次の手順に従って、"vbjorb.jar" ファイルを ColdFusion クラスパスに追加します。

- ColdFusion Administrator で、[サーバーの設定]-[Java と JVM] を選択します。J2EE 設定の場合は、使用するサーバーに応じた方法で "vbjorb.jar" ファイルを J2EE アプリケーションクラスパスに追加します。
- [Java と JVM の設定] ページで、[クラスパス] テキストボックスに "vbjorb.jar" ファイルのパス (たとえば C:\Inprise\vbroker\lib\vbjorb.jar) を入力します。[JVM 引数] テキストボックスに --Xbootclasspath/a:"C:/Inprise/vbroker/lib/vbjorb.jar" を追加します。

VisiBroker の関連ファイルをすべてインストールする必要はありません。前述の JAR ファイルが ColdFusion を実行するコンピュータ上にインストールされていれば問題ありません。

c [変更の送信] をクリックします。

3 次のようにして、ColdFusion で VisiBroker コネクタを設定します。

- ColdFusion Administrator の [拡張機能]-[CORBA コネクタ] を選択します。
- [CORBA コネクタ] ページで、[CORBA コネクタの登録] をクリックします。
- [CORBA コネクタ] ページで、コネクタの情報を入力します。

正しく設定されたコネクタの例を次に示します。

フィールド	値
ORB 名	visibroker
ORB クラス名	coldfusion.runtime.corba.VisibrokerConnector
クラスパス	(なし)
ORB プロパティファイル	C:\ColdFusion9\lib\vbjorb.properties

ORB プロパティファイルにより、VisiBroker 用の正しい ORB 設定を含む Java プロパティファイルが参照されます。

"vbjorb.properties" ファイルの内容は次のとおりです。

```
org.omg.CORBA.ORBClass=com.inprise.vbroker.orb.ORB
org.omg.CORBA.ORBSingletonClass=com.inprise.vbroker.orb.ORB
SVCnameroot=namingroot
```

d ページの編集作業が終了したら、[送信] をクリックします。

[CORBA コネクタ] ページが表示されます。

e 新規 CORBA コネクタの左側にあるラジオボタンを選択し、[ORB コネクタの選択] をクリックします。

これで、新規コネクタがデフォルトコネクタとして設定されます。

4 次の手順に従って、CORBA のサーバーサイドを準備します。

- a VisiBroker osagent サービスまたはプロセスがまだ起動していない場合は、次のコマンドを入力して開始します。

```
osagent
```

**注意：**別のサブネットワーク上の osagent に接続する必要がある場合は、"vbjorb.properties" ファイルに次の各行を追加します。

```
vbroker.agent.addr=<IP address of machine running OSAGENT>  
vbroker.agent.port=<port>
```

- b Interface Repository を開始し、使用する予定の IDL ファイルを読み込みます。この操作は、次の例に示すように irep コマンドを入力して行います。

```
irep myir MyIDLFile.idl
```

- c (オプション) Naming Service を使用する場合は、次のコマンド例に従ってコマンドを入力します。

```
nameserv namingroot
```

**注意：**Naming Service の名前 (<ネーミングルート>) は、"vbjorb.properties" ファイルで指定されている SVCnameroot の値と一致する必要があります。

- d CORBA サーバー上で VisiBroker を開始します。

詳細については、Borland VisiBroker のマニュアルを参照してください。

5 ColdFusion を再起動すると、この変更内容が有効になります。

詳細については、59 ページの「[Windows での ColdFusion サービスの管理](#)」および 60 ページの「[UNIX での ColdFusion プロセスの管理](#)」を参照してください。

これで ColdFusion から CORBA を呼び出せるようになります。CORBA オブジェクトを ColdFusion に統合する方法の詳細については、『ColdFusion アプリケーションの開発』を参照してください。

## Remote Development Services の無効化

アプリケーションの開発に Adobe Dreamweaver、Macromedia HomeSite、Adobe Flash Builder、または Eclipse を使用する場合は、HTTP を使用して ColdFusion のリモートサーバーにアクセスできます。ただし、統合開発環境 (IDE) で RDS を設定し、ColdFusion で RDS を有効にする必要があります。RDS を使用すると、IDE のユーザーは安全にリモートファイルやデータソースにアクセスし、そのデータソースから SQL クエリーを構築し、CFML コードをデバッグすることができます。

**注意：**ColdFusion Report Builder は、クエリービルダーおよびチャート作成サポートに RDS を使用します。

ただし、セキュリティ上の理由から、本番サーバー上では RDS を無効にすることをお勧めします。RDS を無効にするには、RDSServlet のマッピングを無効します。

### RDSServlet のマッピングを無効にするには

- 1 "web.xml" ファイルのバックアップコピーを作成します。

このファイルは、Windows では <ColdFusion のインストールディレクトリ>\\$wwwroot\WEB-INF に、UNIX では <ColdFusion のインストールディレクトリ>/wwwroot/WEB-INF にあります。マルチサーバー設定および J2EE 設定では、このファイルは <ColdFusion Web アプリケーションのルート>/WEB-INF にあります。

- 2 オリジナルの "web.xml" ファイルをテキストエディタで開きます。

- 3 次の例に示すように、RDSServlet マッピングをコメント化します。

```
<!--  
<servlet-mapping id="coldfusion_mapping_9">  
<servlet-name>RDSServlet</servlet-name>  
<url-pattern>/CFIDE/main/ide.cfm</url-pattern>  
</servlet-mapping>  
-->
```

4 ファイルを保存します。

5 ColdFusion を再起動します。

これで ColdFusion サーバーの RDS が無効化されます。

詳細については、59 ページの「[Windows での ColdFusion サービスの管理](#)」または 60 ページの「[UNIX での ColdFusion プロセスの管理](#)」を参照してください。

## JSP 機能の無効化 (サーバー設定のみ)

ColdFusion エンタープライズ版は、ColdFusion を実行する J2EE アプリケーションサーバーを通じて、JSP (JavaServer Pages) テクノロジーをサポートします。JSP コードは、ColdFusion セキュリティフレームワークの領域外で実行されるため、ColdFusion サンドボックスセキュリティによって保護されません。このため通常は、1 つのサーバーを複数のカスタマが共有する、共有のホスティング環境に JSP をデプロイすることはしません。

### JSP 機能を無効にするには

1 <ColdFusion のインストールディレクトリ>/runtime/servers/default/SERVER-INF/default-web.xml をテキストエディタで開きます。

2 JspLicenseServlet の servlet-mapping エントリを見つけます。

3 次の例に示すように、このエントリをコメント化します。

```
<!--  
<servlet-mapping>  
  <servlet-name>JspLicenseServlet</servlet-name>  
  <url-pattern>*.jsp</url-pattern>  
</servlet-mapping>  
-->
```

4 ファイルを保存して閉じます。

5 <ColdFusion のインストールディレクトリ>¥WEB-INF¥web.xml ファイルを開きます。

6 次の例に示すように、サーブレットのマッピングをコメント化します。

```
<!--  
<servlet-mapping>  
<servlet-name>JspLicenseServlet</servlet-name>  
<url-pattern>*.jsp</url-pattern>  
</servlet-mapping>  
-->
```

7 ファイルを保存して閉じます。

8 ColdFusion を再起動します。

## Windows での ColdFusion ユーザーアカウントの変更

デフォルトでは、ColdFusion サービスは、数多くの権限を与えられたシステムアカウントを使用して実行されます。セキュリティを強化するために、これらのサービスを実行するための Windows ユーザーアカウントを新規に作成し、Web アプリケーションの実行に必要な権限（たとえば、Web ルートにあるフォルダへのアクセス権）のみを付与することをお勧めします。

### ColdFusion ユーザーアカウントを変更するには

- 1 [サービス] コントロールパネルを開きます(たとえば、[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択します)。
- 2 [ColdFusion 9 Application Server] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。  
[(ローカルコンピュータ) ColdFusion 9 Application Server のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [ログオン] タブの [アカウント] を選択し、アカウント情報を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [サービス] コントロールパネルで、[ColdFusion 9 Application Server] を右クリックし、[再起動] を選択します。

**注意：**Windows の管理者アカウントの名前は変更しないでください。セキュリティポリシーとプロファイルに問題が発生します。

## 第7章：トラブルシューティング

インストール時に発生する一般的な問題は、次の手順に従うことで解決できる場合があります。

### 一般的なインストール問題

#### TEMP または TMP 環境変数にスペースが含まれる (Windows のみ)

**問題：**

Windows の TMP または TEMP 環境変数のパスにスペースが含まれていると、インストーラはアーカイブからの抽出を実行した後に停止します。

**解決策：**

TEMP または TMP 環境変数を変更して、スペースを含まないようにします。

#### ダウンロードに失敗する

**問題：**

InstallAnywhere により、他のインストール場所の選択を促すメッセージが表示されます。しかしどの場所を選択しても、インストールに失敗します。

**解決策：**

完全なインストールファイルをダウンロードしたことを確認します。ダウンロードしていない場合には、再度ファイルのダウンロードを実行します。

**問題：**

ColdFusion インストールファイルを Apple Macintosh にダウンロードしようとする、完了する前にダウンロードが停止しますが、ブラウザにはダウンロードが完了したことが示されます。

**解決策：**

Safari を使用している場合、次の手順を実行します。

- 1 ダウンロードを開始します。
- 2 ダウンロードウィンドウを開きます (Option + Command + L)。
- 3 ダウンロードが中断されているように見えたら、[ 停止 (X) ] ボタンをクリックします。
- 4 [ 再開 ] ボタンをクリックします。

Safari により、中断場所からダウンロードが続行されます。

- 5 必要に応じて手順 3 と 4 を繰り返します。

## Web サーバーコネクタがインストールされない

### 問題:

Apache 2.0.50 に ColdFusion をインストールする場合、設定ファイルは自動更新されません。

### 解決策:

62 ページの「[Web サーバーの設定](#)」の説明に従って、Web サーバーコネクタを手動でインストールします。

## サーバーエラー

### 問題:

サーバー自体から、またはリモートで CFM ページにアクセスしようとしている場合に、次のエラーが発生します。

```
Server Error
The server encountered an internal error and was unable to complete your request.
JRun Connector Protocol Error.
```

### 解決策:

Web サーバー設定ツールを実行して、Web サーバーコネクタの設定を無効にしてから、62 ページの「[Web サーバーの設定](#)」の説明に従って再設定します。

## ColdFusion サーバーを起動できない

### 問題:

Windows SP2 ファイアウォールのインストール後、ColdFusion サービスを開始できません。

### 解決策:

Windows XP Service Pack 2 をインストールすると、デフォルトで Windows ファイアウォールが有効になります。この状態では ColdFusion が正常に機能しません。詳細については、テクニカルノート

[www.adobe.com/jp/support/coldfusion/ts/documents/windowsspxp2.htm](http://www.adobe.com/jp/support/coldfusion/ts/documents/windowsspxp2.htm) を参照してください。

## ローカルで SWF ファイルにアクセスできない

### 問題:

IIS に ColdFusion をインストールした後、ローカルで SWF ファイルにアクセスできなくなります。

### 解決策:

インストールログを表示して、次のエラーが記録されているかどうかを確認します。

```
ANT Script Error:
Status: ERROR
Additional Notes: ERROR - Error adding connector to webserver: Internet Information Server (IIS)
CommandLine:
ErrorString: file:C:/Temp/0971.tmp/savedURL.1:31:
java.io.FileNotFoundException: C:\coldfusion9\ConnectorInstall0.txt.bat
(Access is denied)
```

このエラーが記録されている場合には、IIS を停止した後、[ スタート ]-[ プログラム ]-[ Adobe ]-[ ColdFusion 9 ]-[ Web サーバー設定ツール ] の順に選択して Web サーバー設定ツールを実行します。

## Flash フォームの表示エラー

### 問題:

Flash フォームが設定された ColdFusion ページを表示しようとする、次のエラーが発生します。

```
2 Errors found.
Error /CFIDE/gettingstarted/community/webroot/index.cfm:-1
macromedia.css.LocatorParser
Error /CFIDE/gettingstarted/community/webroot/inde.mxml:381
The class 'mx.rpc.RemoteClassRelayResponder' could not be loaded.
```

### 解決策:

Apache や IIS などの外部 Web サーバーを使用している場合、[ スタート ]-[ プログラム ]-「Adobe」-[ColdFusion 9]-[Web サーバー設定ツール] の順に選択して Web サーバー設定ツールを実行します。また、ポート 8500 を使用するビルトインサーバーも試してみてください。詳細については、62 ページの「[Web サーバーの設定](#)」を参照してください。

## ColdFusion ページを表示するとダウンロードウィンドウが現れる

### 問題:

以前のバージョンの ColdFusion では、IIS を使用してファイル拡張子 .cfm を ICSF.dll にマッピングしていましたが、ColdFusion ではファイル拡張子 .cfm をどの .dll ファイルにもマッピングしていませんでした。したがって、IIS 5.0 を使用している環境で ColdFusion ページを表示すると、ページが実行される代わりに、ダウンロードウィンドウが表示されます。

### 解決策:

[ スタート ]-[ プログラム ]-[Adobe]-[ColdFusion 9]-[Web サーバー設定ツール] を選択して、Web サーバー設定ツールを起動します。詳細については、62 ページの「[Web サーバーの設定](#)」を参照してください。

## ColdFusion Administrator が暗号化されたページとして表示される

### 問題:

ColdFusion のインストール後に Windows XP SP2 をインストールした場合、ColdFusion Administrator を起動すると、Administrator が暗号化されたページとして表示されます。

### 解決策:

Windows XP SP2 アップデートにより、ColdFusion の IIS マッピングが無効になる場合があります。バッチスクリプトを実行して IIS コネクタをアンインストールした後、再インストールを実行します。詳細については、62 ページの「[Web サーバーの設定](#)」を参照してください。

## ColdFusion が起動しない

### 問題:

McAfee Privacy Service をシステムにインストールすると、ColdFusion が起動しなくなります。

### 解決策:

McAfee Privacy Service を削除します。

## データソースに関する問題

### Microsoft Access データソースを追加できない

**問題:**

Microsoft Access データソースを追加しようとすると、エラーが発生します。

**解決策:**

ODBC サービスをインストールして起動するか、Unicode ドライバで Microsoft Access を使用します。

### ODBC サービスが正しくインストールされない

**問題:**

ODBC サービスが正しくインストールされません。

**解決策:**

次のコードを使用して、既存の ODBC サービスを削除します。

```
<cfscript>
    writeOutput("Installing ODBC Services...<br>");
    returnValue = myObj.installODBCservice();
    writeOutput("ODBC Services installed");
</cfscript>
```

その後、次のコードを使用して ODBC サービスを再インストールします。

```
<cfscript>
    writeOutput("Removing ODBC Services...<br>");
    returnValue = myObj.removeODBCservice();
    writeOutput("ODBC Services removed");
</cfscript>
```

### CLOB フィールドが存在していると Oracle 10 データベースに対して INSERT または UPDATE を実行できない

**問題:**

Oracle では、列のサイズが 4 KB までに制限されています。列のサイズが 4 KB のサイズ制限を超えている場合、cfinsert タグや cfupdate タグを使用しようとすると、次のエラーが発生します。

```
ORA-01704: string literal too long
```

**解決策:**

このエラーを回避するには、cfquery タグまたは cfqueryparam タグを使用します。



## 移行に関する問題

### データソースが認識されない

**問題:**

以前のバージョンの ColdFusion から ColdFusion 9 に移行すると、アプリケーションがデータソースを認識しません。

**解決策:**

データソースの再定義を行います。

### Dreamweaver で CFC が認識されない

**問題:**

以前のバージョンの ColdFusion から ColdFusion 9 に移行すると、CFC が Dreamweaver の [ コンポーネント ] パネルに表示されません。

**解決策:**

マッピングを確認し、必要に応じてマッピングを更新します。

### インストールに失敗する

**問題:**

/tmp パーティションが noexec にマウントされている UNIX および Linux システムに ColdFusion をインストールしようとすると、インストールに失敗します。

**解決策:**

これはインストールが、インストーラランタイムの解凍および実行に /tmp ディレクトリを使用しようとするのが原因で発生します。この問題を回避するには、IATEMPDIR 環境変数を、システム上で実行アクセス許可を持つディレクトリに設定してから、インストーラを実行する必要があります。

**問題:**

ColdFusion をインストールしようとすると、インストールが失敗し、次のエラーが発生します。

```
"java.lang.OutOfMemoryError Invocation of this Java Application has caused an InvocationTargetException.  
This application will now exit. (LAX)"
```

**解決策:**

インストーラによる JRE の抽出先となるディレクトリ (たとえば /tmp) をクリーンアップする必要があります。

## J2EE 設定に関する問題

**問題:**

/opt/jrun4/bin/jrun を使って JRun を起動しようとするときの動作が一定しません。

**解決策:**

次のコマンドを使用して JRun を起動します。

```
<JAVA ホーム >/bin/java -jar /opt/jrun4/lib/jrun.jar -start cfusion
```

**問題:**

Red Hat Enterprise Linux 4 に ColdFusion をインストールすると、インストールスクリプトで C++ 互換パックに関する警告が正しくレポートされません。

**解決策:**

Verity または C++ ベースのカスタム CFX タグを使用する予定がある場合は、システムに `compat-libstdc++` パッケージと `glibc` パッケージがインストールされているかどうかを検索し、必要に応じてインストールする必要があります。すべてのパッケージを検索して `grep` コマンドをフィルタとして使用するか、正確なパッケージ名を指定して検索を行ってください。たとえば、`rpm -qa | grep compat-libstdc++` というコマンドを入力すると、すべてのパッケージが検索され、文字列 `compat-libstdc++` がフィルタとして使用されます。このコマンドを実行すると、`compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3` と `compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2` のように、2つの結果が返される場合があります。

## インストール後に発生する問題

### CLOB およびデータの破損

**問題:**

ColdFusion の日本語版、および NLS\_Characterset JA16SJJS が設定された Oracle 8/9 を使用しているときに、CLOB の破損とデータの破損が発生します。

**解決策:**

JDBC の URL で `codepageoverride=MS932` を設定します。

### サポートされていないキーサイズまたはアルゴリズムのパラメータ

**問題:**

IBM JVM 1.4.1 上の WebSphere 5.1 で ColdFusion を実行しているときに、「Unsupported keysize or algorithm parameters」という例外が発生します。

**解決策:**

次の手順に従って、制限のない管轄ポリシーファイルをインストールします。

- 1 IBM SDK 1.4 用の無制限 JCE ポリシーファイルを、<https://www6.software.ibm.com/dl/jcesdk/jcesdk-p> からダウンロードしてインストールします。
- 2 ファイルを解凍します。
- 3 このリンクから解凍したファイルを、`jre/lib/security` ディレクトリにコピーします。
- 4 WebSphere を再起動します。

## 仮想マッピングリソースパス /\* が機能しない

### 問題:

仮想マッピングリソースパス /\* を追加しても機能しません。

### 解決策:

仮想マッピングとして WEB-INF を含んだワイルドカードリソースパスに、ディレクトリをマップしないでください。ColdFusion MX 6.1 では、特定の 방법으로 ClassLoader を設定した場合に伴う副次的な効果により、このパスが機能していました。ColdFusion MX 7 以降では、ClassLoader はすべてのエディションで一貫性を持ちます。つまり、ColdFusion ClassLoader は、アプリケーションサーバーの ClassLoader と混在できなくなりました。この変更は、ColdFusion MX 7 が確実に一貫した方法でスタンドアロンサーバーで動作するために実行され、証明済み J2EE アプリケーションサーバーへの EAR/WAR としてデプロイされました。

## アンインストールに関する問題

### COM が無効になる

### 問題:

以前のバージョンの ColdFusion がシステムにインストールされている場合、ColdFusion をアンインストールすると、COM が無効になります。

### 解決策:

以前のバージョンの ColdFusion に関連付けられた "typeviewer.dll" ファイルを再登録します。